



DIGITAL PIANO

P-525

取扱説明書

この楽器のお取り扱いについては、ご使用前に必ず5～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。



JA

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この楽器は、高品位な音とタッチで演奏をお楽しみいただける電子ピアノです。この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。





製品に付属

● 取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。

表記について

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
ご注意	「製品の故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。
NOTE	知っておくとよい補足情報です。



ウェブサイト提供

● スマートピアニスト ユーザーガイド

この楽器と連携して使用できるスマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」(80ページ)の接続方法や使い方を説明しています。

● スマートデバイス接続マニュアル

楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。

● データリスト

この楽器のXGボイス一覧、XGドラムキットリスト一覧のリストや、MIDIに関する資料を掲載しています。

これらの説明書は、ヤマハのウェブサイトでご覧いただけます。

製品名などを入力して、検索してください。

ヤマハ | 取扱説明書 - サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/manuals/>

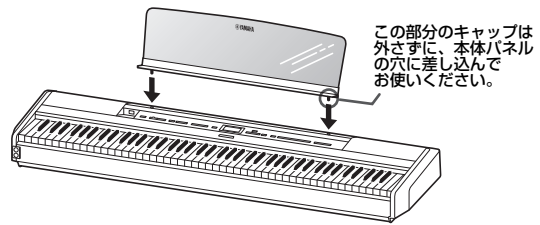


* 「MIDI入門」と入力すると、MIDIの基礎知識を説明した資料をPDFで入手できます。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書) ×1
- クラシック名曲50選(楽譜集) ×1
- 保証書 ×1
- 製品登録のご案内 ×1
- 電源コード、電源アダプター ×1
- フットペダル ×1
- 譜面立て ×1

譜面立ての取り付け方



ご注意

譜面立てを外し、楽器本体の上に置いたまま、長期間放置しないでください。キャップが楽器本体に触れた状態で放置すると、色移りや付着の原因になります。

対応フォーマット

GENERAL MIDI2 GMシステムレベル2

「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張した音源フォーマットです。多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。GMシステムレベル2に対応したMIDI機器では、GMシステムレベル1で作られたミュージックデータも再生できます。

*メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列MIDI機能に関する音源フォーマットです。



XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハが提唱する音源フォーマットです。このフォーマットで作られたデータは、広く普及しているXG対応機器やPCソフトウェアで再生することができます。



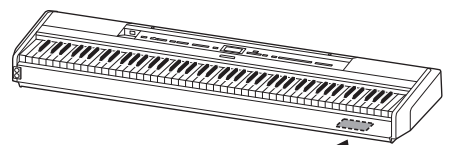
GS

ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。コンピューターと周辺機器を接続するためのシリアルインターフェースです。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをおすすめします。

機種名


製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

(bottom_ja_02)

目次

説明書について	2	ソングファイル进行操作する	65
付属品(お確かめください)	3	ソングの種類とファイル操作の制限	65
対応フォーマット	3	ソングファイルの基本操作	66
安全上のご注意	5	ソングを削除する	67
使用上のご注意	8	ソングをコピーする	67
お知らせ	8	ソングを移動する	68
特長	9	MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する	69
各部の名前と機能	10	ソング名を変更する	70
ご使用前の準備	12	お好みの設定を登録する/呼び出す (レジストレーションメモリー)	71
電源の準備	12	レジストレーションメモリーに設定を登録する	71
電源を入れる/切る	12	レジストレーションメモリーに登録した設定を呼び出す	72
音量を調節する	13	他の機器と接続する	73
ヘッドホンを使う	14	端子について	73
ペダルを使う	15	USB機器を接続する([]) (USB TO DEVICE端子)	74
画面の基本操作	18	オーディオ機器を接続する([AUX IN]端子)	75
いろいろなボイス(音色)で演奏する	20	楽器の音を外部スピーカーから鳴らす (AUX OUT [L/L+R]/[R]端子)	75
ボイスを選んで弾く	20	コンピューターやスマートデバイスと接続する	76
ボイスの特徴がわかるデモ曲を聞く	22	オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェース機能)	77
ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)	23	スマートデバイスでのオーディオ再生音を 楽器のスピーカーで聞く(Bluetoothオーディオ機能)	78
音に効果をかける	26	スマートデバイスと接続してアプリを活用する	80
2つのボイスを重ねて鳴らす(デュアル)	29	外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)	87
鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)	30	バックアップと初期化	88
スプリットとデュアルを同時に使う	31	ステージで演奏する	90
二人で一緒に弾く(デュオ)	32	詳細設定(メニュー画面)	92
キー(調)を変える(トランスポート)	34	メニュー画面の基本操作	92
音の高さを微調整する(マスターチューニング)	35	ボイスメニュー	93
タッチ感度を変える	36	ソングメニュー	96
より音量感のあるサウンドで演奏する(サウンドブースト)	37	メトロノーム/リズムメニュー	99
音質を補正する(マスターEQ)	38	録音メニュー	100
パネル操作をロックする	40	システムメニュー	101
メトロノームを使う	41	資料	108
演奏に伴奏を付ける(リズム)	43	ボイス一覧	108
曲(ソング)を再生する、練習する	44	ソング一覧	110
ソングを再生する	45	リズム一覧	110
右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)	48	メッセージ一覧	111
くり返し再生する	49	困ったときは	114
音量バランスを調節する	52	仕様	116
再生に関するその他の機能	53	別売ミュージックデータ紹介	118
演奏を録音する	54	索引	119
録音の方法	54	保証とアフターサービス	122
楽器本体にMIDI録音する	55		
トラックを指定してMIDI録音する	57		
USBフラッシュメモリーにMIDI録音する	59		
USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する	60		
そのほかの録音方法とテクニック	61		

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。




ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意喚起を示す記号
	禁止を示す記号
	行為を指示する記号

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

警告

電源



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



禁止

雷が鳴っているときは、本製品や電源プラグに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100 V を使用する。

エアコンの電源など交流 200 V のものがあります。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源アダプター / 電源コードは、必ず付属のものを使用する。また付属の電源アダプター / コードをほかの機器に使用しない。

火災、やけど、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的を確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

ショートして火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりして火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

必ず実行 電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

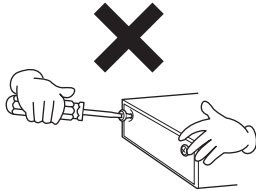
電源プラグを抜く

分解禁止



本製品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。本製品の内部には、お客様が修理や交換できる部品はありません。

禁止



水に注意



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかる場所で使用しない。

禁止

- 本製品の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 電源アダプターは、室内専用のため屋外では使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本製品の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

禁止

ワイヤレス機器



- 医療機器の近くなど、電波の使用が制限された区域で使用しない。
- 心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15 cm以内で使用しない。

本製品が発生する電波により、動作に影響があるおそれがあります。

禁止

接続



接続する機器のマニュアルを必ず読み、記載されている内容に従う。

従わない場合、火災、発熱、破裂、故障の原因になる可能性があります。

必ず実行

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

必ず実行

- 電源コード/プラグが破損した場合
- 製品から異常なおいや煙が出た場合
- 製品の内部に水や異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または122ページのヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

⚠ 注意

設置



禁止

不安定な場所や振動の多い場所に置かない。

本製品が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。



必ず実行

地震のときは、本製品から離れる。

地震による強い揺れで動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。



必ず実行

本製品を持ち上げて運ぶ場合は、必ず2人以上で行う。

本製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めるおそれがあります。また、本製品が落下してけがや破損の原因になります。



必ず実行

本製品を移動するときは、必ずすべての接続ケーブルを外した上で行う。

ケーブルをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本製品が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ずすべての機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

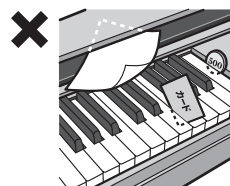
取り扱い



禁止

本製品のパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、故障や動作不良の原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



必ず実行

本製品のお手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[o](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[o](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

(DMI-11)

使用上のご注意

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。以下の内容をよく読んでお使いください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話などの電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。機内モードをオンにすると、**Bluetooth®**の設定がオフになることがあります。設定がオフになっていることを確認してお使いください。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体が変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5°C~40°Cの範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(88ページ)や本体に録音して保存したソングデータ(54ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(67、88ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず74ページをお読みください。
- データを保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- この製品に搭載されている「コンテンツ」*1の著作権は、ヤマハ(株)もしくはその著作権者に帰属します。私的使用のための複製など著作権法上認められている場合を除いて、権利者に無断で「複製または転用」*2することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いいたします。
なお、製品本来の使用を通して、上記コンテンツを使用した音楽制作や演奏を行い、それらを録音して配布する場合、配布方法が有償、無償を問わずヤマハ(株)の許諾は必要ありません。
*1:「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
*2:「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することを含みます。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- 本製品には株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- iPhone、iPad、Lightningは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- AndroidはGoogle LLCの商標です。
- Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。



- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名などは、各社の登録商標または商標です。

■ 調律について

- 調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

■ 廃棄に関するお知らせ

- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

特長



さまざまな用途に対応できる、持ち運び可能な本格的電子ピアノ

持ち運び可能なデザインなので、ご自身のプライベートルームで練習したり、パーティーやライブで演奏したりと、さまざまなシーンでお楽しみいただけます。別売の専用スタンド(L-515)や3本ペダルユニット(LP-1)と組み合わせると、スタイリッシュな電子ピアノとしてもお使いいただけます。また、持ち運び可能な3本ペダルユニット(FC35)を接続すると、ライブなどでも本格的なピアノ演奏ができます。



曲のイメージに合わせて選べる「ヤマハ CFX」と「ベーゼンドルファーインペリアル」音色 ▶▶ 20ページ

この楽器には、ヤマハ最高峰のコンサートグランドピアノ「CFX」、繊細で温かみのあるウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社の「インペリアル」、2つの世界で認められたグランドピアノからサンプリングした音色(ボイス)が搭載されています。曲想に合わせて、お好みのピアノボイスを選び、本格的なピアノ演奏をお楽しみください。



タッチによる音色の微妙な変化を再現する「グランド・エクスプレッション・モデリング」とグランドピアノの共鳴音を再現する「VRM」 ▶▶ 25ページ

グランドピアノのように、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えたときの微妙な音の変化を再現する技術「グランド・エクスプレッション・モデリング」。グランドピアノの複雑に影響し合う弦や響板などの状態を再現してグランドピアノならではの響きを作る技術「VRM」。この2つの技術で、多彩な演奏表現が可能になります。



むく材を使用し、グランドピアノの弾き心地を再現「グランドタッチ - エス™鍵盤 木製鍵盤」

この楽器の白鍵は、本物のグランドピアノと同じむく材を使用し、かつての最高級ピアノに使っていた象牙調鍵盤のような手触りを、黒鍵は風合いのある黒檀調で、グランドピアノに近い触り心地を再現しています。指先に心地よい手応えを感じながら、グランドピアノのような広いダイナミックレンジで、繊細な音色から雄大な音色まで、さまざまな音色を自在に奏でられる鍵盤です。



シンプルナリズムとベース音で演奏を華やかに演出 ▶▶ 43ページ

ベースとドラムで構成された自動伴奏データを40種類搭載。お好みのリズムパターンを選んで演奏するだけで、ドラムでのリズム音と、演奏に合ったベース音が自動で鳴り、バックバンドを引き連れて演奏しているような気分が楽しめます。



ステージ演奏で使える便利な機能を搭載

この楽器には、ステージやライブスペースで演奏するときに便利な以下のような機能を搭載しています。

- サウンドブースト ▶▶ 37ページ
ほかの楽器と演奏したり、賑やかな環境で演奏したりするときに自分の音を力強く引き立たせます。
- パネルロック ▶▶ 40ページ
本体前面パネル上のボタン操作を一時的に無効にし、演奏中のご操作によるトラブルを防ぎます。
- レジストレーションメモリー ▶▶ 71ページ
お好みの設定をボタンに登録すると、演奏中でも簡単にその設定を呼び出せます。

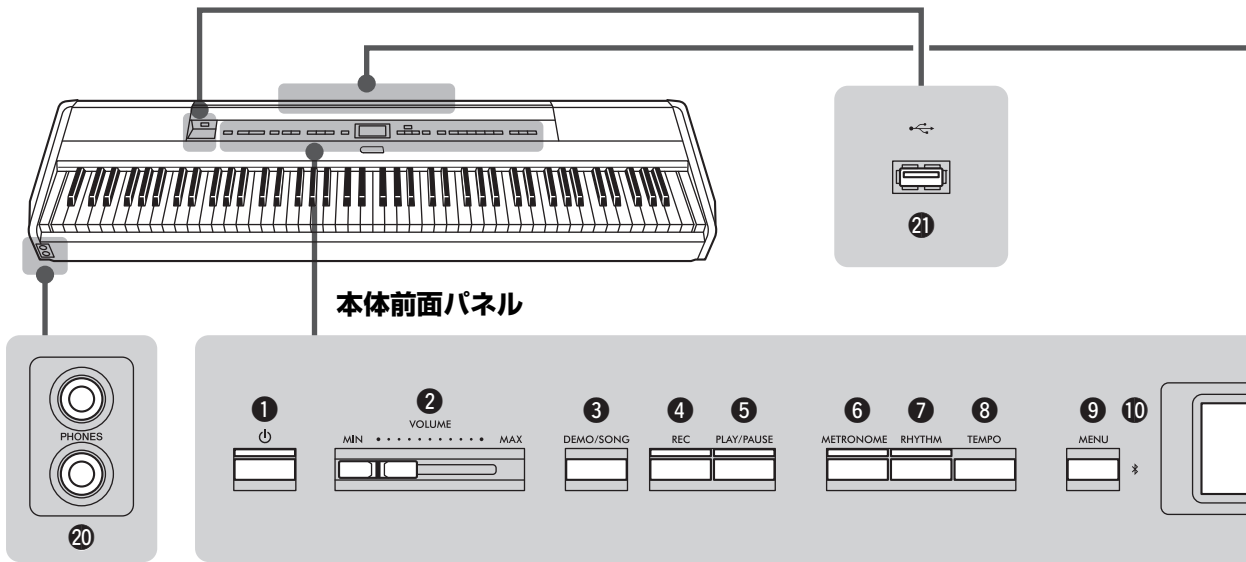


スマートデバイスと接続して広がる楽しみ方

スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと楽器を接続すると、演奏して楽しむだけでなく、以下のような楽しみ方もできます。

- アプリを使って便利に楽しむ ▶▶ 80ページ
この楽器では、スマートデバイスでの楽器操作や内蔵曲の譜面表示を可能にする「スマートピアニスト」、楽器演奏を撮影、録画、編集できる「Rec'n'Share」の2つのアプリを使えます。
- スマートデバイスの曲を楽器で再生する (Bluetoothオーディオ機能) ▶▶ 78ページ
お手持ちのスマートデバイスなどBluetooth対応機器の中の曲を再生して、この楽器のスピーカーで聞いたり、曲に合わせて演奏したりすることができます。

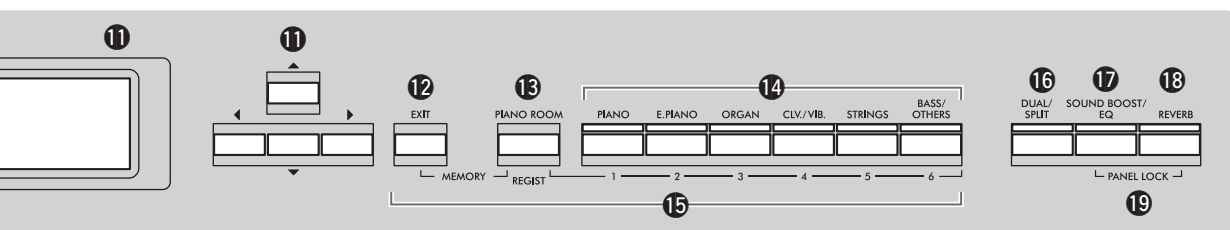
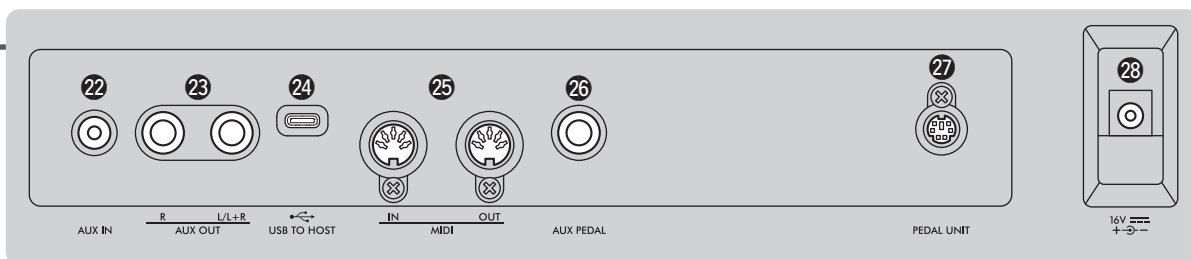
各部の名前と機能



本体前面パネル

- ① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ 12 ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ② [VOLUME] (ボリューム) スライダー 13 ページ
楽器全体の音量を調節します。
- ③ [DEMO/SONG] (デモ/ソング) ボタン 22、44 ページ
ソングリストを表示します。再生する曲などを選ぶときに使います。
- ④ [REC] (レック) ボタン 54 ページ
演奏を録音します。
- ⑤ [PLAY/PAUSE] (プレイ/ポーズ) ボタン ... 45 ページ
楽器本体に入っている曲や録音した演奏などを、再生したり、一時停止したりします。
- ⑥ [METRONOME] (メトロノーム) ボタン 41 ページ
メトロノームを鳴らします。
- ⑦ [RHYTHM] (リズム) ボタン 43 ページ
リズムを鳴らします。
- ⑧ [TEMPO] (テンポ) ボタン 41 ページ
テンポを設定します。
- ⑨ [MENU] (メニュー) ボタン 92 ページ
押すたびにボイス、ソング、メトロノーム/リズム、録音、システムの5つのメニュー画面が切り替わります。各画面で、関連する機能の詳細な設定ができます。
- ⑩ ✎ (Bluetooth) 78、81 ページ
Bluetooth対応のスマートフォンなどのオーディオ再生音を聞いたり、スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」を使ったりできます。
- ⑪ [▲]/[▼]/[◀]/[▶] ボタン、画面 18 ページ
画面内の項目を選んだり、選んだ項目の値を変更するときに使います。
- ⑫ [EXIT] (エグジット) ボタン
現在の画面から抜けたり、ボイスまたはソング画面に戻ったりしたいときに使います。
- ⑬ [PIANO ROOM] (ピアノルーム) ボタン 23 ページ
ピアノルーム画面を表示します。
ピアノの響きやタッチ感度などを変更したいときに使います。
- ⑭ ボイスボタン 20 ページ
ボイス(鍵盤の音色)を選びます。
- ⑮ レジストレーションメモリーボタン 71 ページ
パネル設定を登録したり、呼び出したりするときに使います。

本体背面



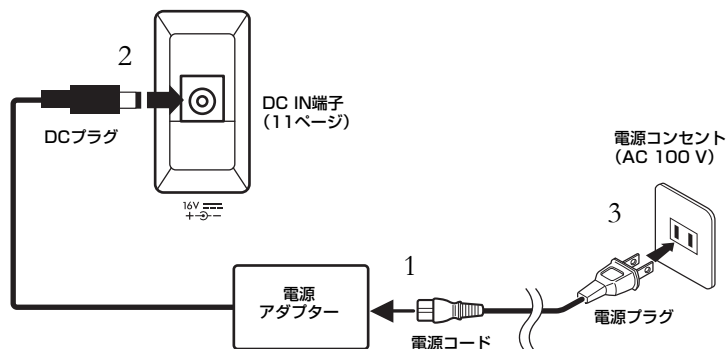
本体背面

- 16 [DUAL/SPLIT] (デュアル/スプリット) ボタン**
29、30、31ページ
 ボイスを重ねたり、鍵盤を左右に分けて別々の音色で演奏したりするときに使います。
- 17 [SOUND BOOST/EQ] (サウンドブースト/EQ) ボタン**
37、38ページ
 サウンドブーストまたはマスター EQ設定画面を表示します。
 楽器の音を際立たせたいとき(サウンドブースト)や、音質を補正したいとき(マスター EQ)に使います。
- 18 [REVERB] (リバーブ) ボタン** 26ページ
 リバーブ画面を表示します。
 音に残響(リバーブ)を加えたいときに使います。
- 19 [PANEL LOCK] (パネルロック) ボタン** 40ページ
 演奏中の誤操作を防ぐため、本体パネル上のボタン操作を一時的に無効にするときに使います。
- 20 [PHONES] (フォーンズ) 端子** 14ページ
 ヘッドホンを接続します。
- 21 [↔] (USB TO DEVICE) (USBトゥーデバイス) 端子** 73、74ページ
 USBフラッシュメモリーやUSB無線LANアダプターを接続します。
- 22 [AUX IN] (AUXイン) 端子** 73、75ページ
 この端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドホン端子を接続します。
- 23 AUX OUT (AUXアウト) [R] [L/L+R] 端子**
 73、75ページ
 アンプ内蔵スピーカーなどを接続します。
- 24 [USB TO HOST] (USBトゥーホスト) 端子** 73、77、86ページ
 コンピューターやスマートデバイスを接続します。
- 25 MIDI [IN] [OUT] (MIDIイン/アウト) 端子** 73、87ページ
 MIDI機器を接続します。
- 26 [AUX PEDAL] (AUXペダル) 端子** 15、73ページ
 付属のフットペダルや別売のフットスイッチを接続します。
- 27 [PEDAL UNIT] (ペダルユニット) 端子** 16ページ
 別売のペダルユニットを接続します。
- 28 DC IN (DCイン) 端子** 12ページ
 付属の電源アダプターを接続します。

ご使用前の準備

電源の準備

図の順序で電源アダプター、電源コードを接続します。



警告

• 電源アダプター / 電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源アダプター / 電源コードをほかの製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。

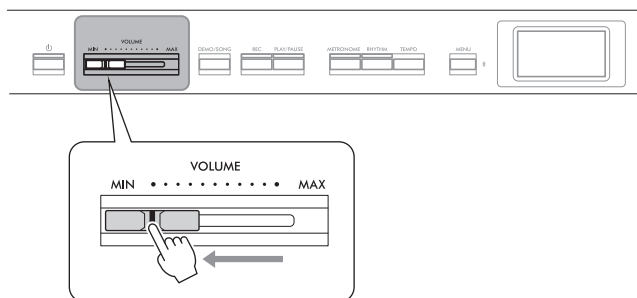
• 楽器本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合はすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源アダプター / 電源コードを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

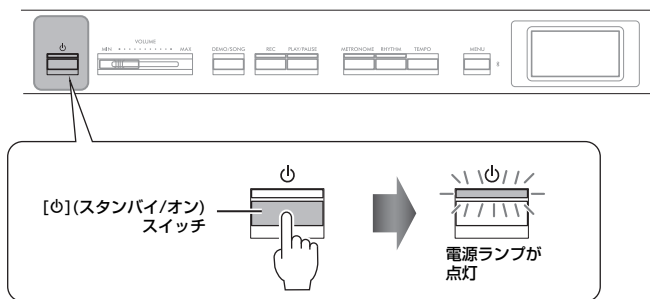
電源を入れる/切る

1. ^{ボリューム} [VOLUME] スライダーで音量を最小(MIN)にします。



2. [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れます。

電源ランプが点灯し、起動が完了すると、本体パネル中央の画面にボイス画面が表示されます。



3. 電源を切るには、もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します(1秒)。

画面の表示が消え、電源ランプも消灯します。

ご注意

電源を入れてから、楽器が完全に起動するまで、楽器を操作(鍵盤やボタンを押すなど)しないでください。楽器が誤動作する原因になります。



警告

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

ご注意

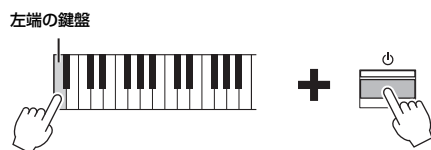
録音中や編集中に電源を切ると、データが失われる場合があります。やむを得ず強制終了したい場合は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを3秒以上押してください。ただし、強制終了すると、Bluetooth機能を使うためのペアリング情報は保存されません(78ページ)。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(104ページ)。

オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。

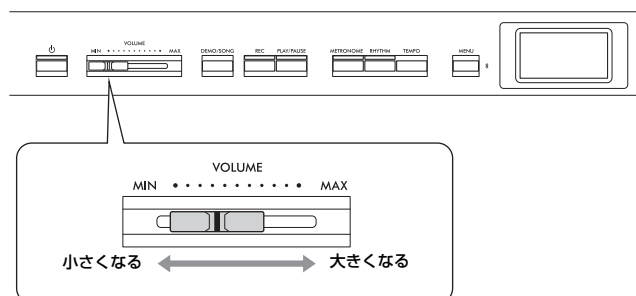


ご注意

- オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。ご注意ください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。

音量を調節する

[VOLUME](ボリューム)スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



[VOLUME]スライダーを動かすと、[PHONES]端子(14ページ)やAUX OUT端子(75ページ)の出力レベルも変更されます。

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的にスピーカーやヘッドホンの音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。特にヘッドホン使用時には、全体音量を過度に上げることなく、耳への負担を抑えることができます。

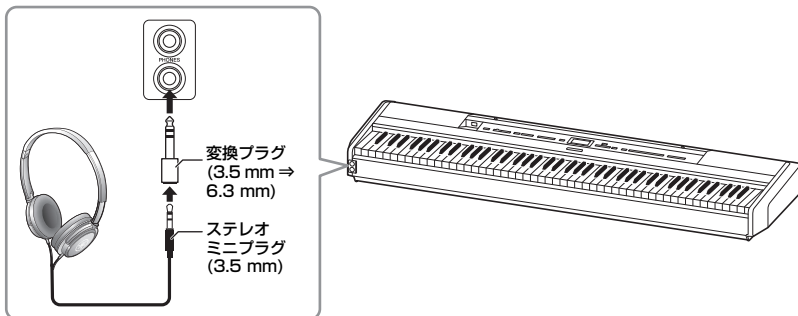
初期設定でこの機能はオンですが、オフにしたり、かかり具合を調節したりできます。詳しくは102ページ「IAC」、「IACの深さ」をご覧ください。

⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンは、[PHONES]端子に接続して使います。端子は2つあるので、2本同時に使えます。1本だけ使う場合は、どちらの端子を使っても構いません。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

NOTE

ヘッドホンを接続する[PHONES]端子は、標準フォーン端子です。ステレオミニプラグのヘッドホンの場合は、標準フォーンへの変換プラグが必要です。

ヘッドホンでも自然な音の広がりを再現する(バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドホン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

バイノーラルサンプリング(「CFXグランド」のボイスのみ)

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドホンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。「CFXグランド」(108ページ)を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

ステレオフォニックオプティマイザー(「CFXグランド」以外のピアノグループのボイス)

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドホン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。「CFX グランド」以外のピアノグループのボイスを選んでいるときにヘッドホンを接続すると、ステレオフォニックオプティマイザーがかかります。

初期設定で、この機能はオンです。ただし、「スピーカー」の設定(104ページ)がオンの場合は、この機能は常に無効となります。また、以下のような場合はこの機能をオフにすることをおすすめします。

- ・ 外部オーディオ機器とこの楽器を接続し、外部スピーカーで楽器の音を再生しながら、本体に接続したヘッドホンで楽器の音をモニターする場合。
- ・ ヘッドホンを使用しながらオーディオ録音(60ページ)し、その曲をこの楽器のスピーカーで再生したい場合(録音した曲をあとでスピーカーで再生したい場合は、録音前から機能をオフにしておきます)。

オン/オフの設定について詳しくは、102ページの「バイノーラル」をご覧ください。

サンプリングとは

アコースティック楽器の音を録音して電子ピアノに組み込む技術のことです。

NOTE

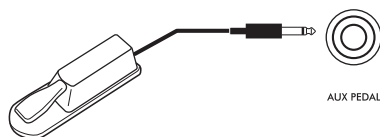
外部オーディオ機器などをこの楽器に接続する場合は、必ず「他の機器と接続する」(73ページ)をお読みいただき、機器を正しく接続してください。

NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(108ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は20ページをご覧ください。

ペダルを使う

フットペダルを使う



付属のフットペダルFC3Aや別売のフットスイッチFC4A/FC5を[AUX PEDAL]端子に接続できます。付属のフットペダルを接続すると、演奏中に足を使ってさまざまな機能をコントロールできます。初期設定の機能は、指を離しても音が長く続く「サステイン(連続)」ですが、別の機能に変更できます(17、102ページ)。

ハーフペダル機能

付属のフットペダルFC3Aや別売のペダルユニットLP-1、FC35(16ページ)を接続したとき、この機能を使えます。ペダルの踏み加減で音の伸び具合を調節できる機能です。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。また、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を設定できます。[MENU]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「ペダル」→「ハーフペダルの位置」(102ページ)で設定してください。

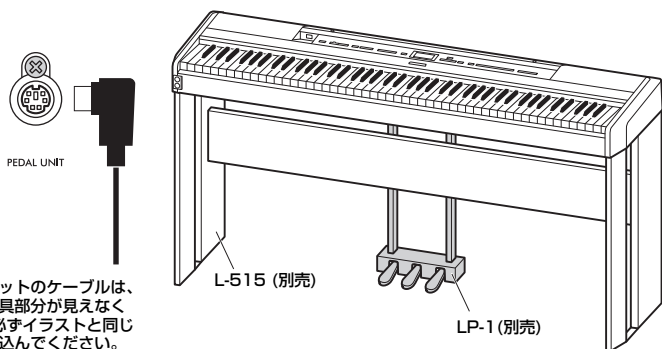
NOTE

フットペダルやフットスイッチのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。



別売のペダルユニットを使う

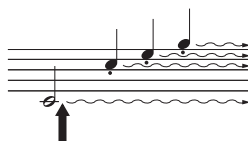
別売のペダルユニットLP-1やFC35を[PEDAL UNIT]端子に接続すると、3本ペダルを使って演奏できます。LP-1を使うときは、下記のイラストのとおり、必ず専用スタンドL-515に取り付けてお使いください。FC35は、スタンドなしで使えます。詳しくは、各ペダルユニットの取扱説明書をご覧ください。



ペダルユニットのケーブルは、プラグの金具部分が見えなくなるまで、必ずイラストと同じ向きで差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルやプラグの損傷や、ペダルが機能しない原因になります。

右のペダル(ダンパーペダル)

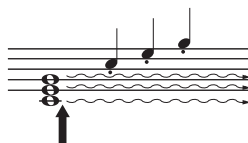
このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。また、ピアノグループのボイスを選択して踏んだ場合は、VRM (24ページ)の効果によりリアルな共鳴音(レゾナンス)を付加できます。このペダルは、ハーフペダル(15ページ)に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

中央のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果がかからないので、和音を長く鳴らしながらメロディーをスタッカートで弾くことができます。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏むと、音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果がかからないので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。ただし、「ジャズオルガン」、「ロックオルガン」ボイスを選ぶとロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え(ロータリースピード)、「ビブラフォン」ボイスを選ぶとビブラートのオン/オフ(バイプローター)機能に切り替わります(94ページ)。

NOTE

ペダルユニットのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイス一覧」(108ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は20ページをご覧ください。

NOTE

ストリングスグループやオルガングループの一部の持続音では、中央のペダルを踏むと、音が減衰せずに持続して鳴り続けます。

ペダルに機能を割り当てる

[AUX PEDAL]端子に接続したフットペダル/フットスイッチや、[PEDAL UNIT]端子に接続したペダルユニットの左/中央/右のペダルへ、初期設定とは別の機能を割り当てることができます。

フットペダル/フットスイッチへの割り当て

[MENU]を何度か押してシステムメニュー画面を選び、「ペダル」→「Auxペダル-機能」で、割り当てたい機能を設定します。

ペダルユニットの各ペダルの割り当て

ボイスメニュー画面の「ペダル割り当て」で、割り当てたい機能を設定します。

NOTE

[AUX PEDAL]端子に接続したフットペダルや別売のフットスイッチ、ペダルユニットの中央または左ペダルの機能を、本体前面パネルの[PLAY/PAUSE]ボタン(10ページ)と同じ機能に変更できます。詳細は、102ページをご覧ください。

ペダル機能リスト

機能	説明	割当可能なペダル ○:可能 ×:不可			
		ペダルユニット			フットペダル (フットスイッチ)
		左ペダル	中ペダル	右ペダル	
サステイン(スイッチ)	ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせる機能	○	○	○	○
サステイン(連続)*	ペダルの踏み込み具合で、鍵盤から指を離れたあとの音が響く長さを変える機能	×	×	○***	○***
ソステヌート	ソステヌート(16ページ)	○	○***	○	○
ソフト	ソフト(16ページ)	○	○	○	○
ピッチベンドアップ*	音の高さを連続的に上げる機能	×	×	○	○
ピッチベンドダウン*	音の高さを連続的に下げる機能	×	×	○	○
ロータリースピード**	ジャズオルガンまたはロックオルガンのロータリースピーカーの回転数の変化(踏むごとに速い/遅いが切り替わる)	○	○	○	○
バイプローター **	ビブラフォンのビブラートのオン/オフ(踏むごとにオン/オフが切り替わる)	○	○	○	○

左ペダルの初期設定の機能は、選択中のボイスによって下記のように異なります。
 ジャズオルガン、ロックオルガン：ロータリースピード、ビブラフォン：バイプローター、その他：ソフト

* :このマークのついた機能を[AUX PEDAL]端子に接続したペダルに割り当てるとは、付属のフットペダルFC3Aの使用をおすすめします。

** :ジャズオルガン、ロックオルガンまたはビブラフォンのボイスを選ぶと、自動的に左ペダルに割り当てられる機能です。

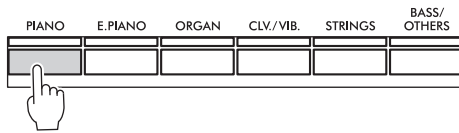
*** :各ペダルを楽器に接続したときに使用可能な初期設定の機能です。

画面の基本操作

この楽器は、画面を見ながら主な操作を行います。ボイスやソングの選択といった基本操作はもちろん、楽器の詳細設定をして、さらに楽しく便利に楽器を使いこなすことができます。

ボイス画面(20ページ)

1. ボイスボタンを押して、ボイス画面を表示します。



2. [◀]/[▶] ボタンを押すと、そのボイスグループ内のボイスが切り替わります。[◀] と [▶] ボタンを同時に押すと、ボイスグループ内の先頭のボイスが選ばれます。

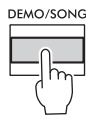
ボイス画面



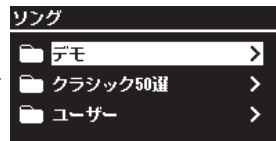
ボイスグループ内のボイスの位置を表示します。

ソング画面(44ページ)

1. [DEMO/SONG] ボタンでソングカテゴリリストを表示します。



2. [▲]/[▼] ボタンでソングカテゴリを選びます。



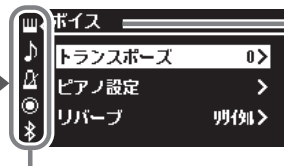
[▶] ボタンで次へ
[◀] ボタンで戻る

詳細設定(メニュー)画面(92ページ)

1. [MENU] ボタンを何度か押して、設定するメニューを選びます。



2. [▲]/[▼] ボタンでメニュー項目を選びます。



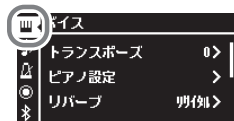
メニュー名

階層の深さはメニューによって異なります。

メニューアイコン

上記の手順 1 に替えて、下記の方法でも設定するメニューを選ぶことができます。

1. [MENU] ボタンを1回押して、詳細設定画面を表示します。
2. [◀] ボタンを押してメニューアイコンを反転表示させ、[▲]/[▼] ボタンで設定するメニューを選びます。



- ボイス画面** : 鍵盤を弾いたときに鳴る音色を選択する画面です。
ソング画面 : この楽器で再生する曲(ソング)を選択する画面です。
詳細設定画面 : ボイスなどの鍵盤演奏に関する内容やソング再生などの詳細設定を行う画面です(92ページ)。

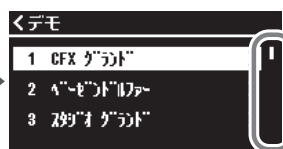
NOTE

楽器の色によっては、画面の背景色が白に、文字やイラストが黒になります。

3. [▲]/[▼] ボタンでソングを選びます。

4. [PLAY/PAUSE] ボタンで再生します。

[◀]/[▶] ボタンで早戻し / 早送りができます。



このスクロールバーが表示される場合は、ページを上下に切り換えできます。

[▶] ボタンで次へ
[▲] ボタンで戻る

ソング画面



ポップアップ画面で設定値を調節する場合

3. [◀]/[▶] ボタンで値を調節し、[EXIT] ボタンを押してポップアップ画面を閉じます。

[◀]と[▶]ボタンを同時に押すと初期設定に戻せます。

[▶] ボタンで次へ
[EXIT] ボタンで戻る

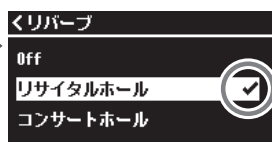


[▶] ボタンで次へ
[◀] ボタンで戻る

選択肢から設定を選ぶ場合

3. [▲][▼] ボタンまたは [▶] ボタンで設定を選びます。

1つ前の画面に戻るには、[◀] ボタンを押します。



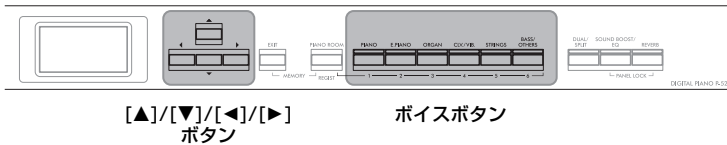
選んだ項目に
チェックマークが
表示されます。

いろいろなボイス(音色)で演奏する

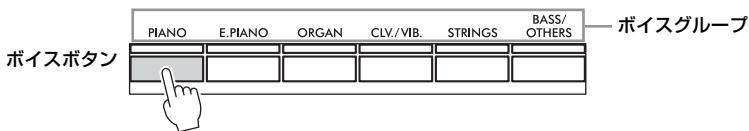
ピアノ、オルガンや弦楽器などのボイス(音色)を選んで弾くことができます。

ボイスを選んで弾く

この楽器に内蔵されたたくさんのボイスは、楽器の種類ごとにグループ分けされています。ボイスを選んで演奏してみましょう。
XGボイスの選びかたは、21ページをご覧ください。



1. ボイスボタンを押して、ボイスグループを選びます。



2. [◀]/[▶]ボタンを押して、お好みのボイスを選びます。

[◀]と[▶]ボタンを同時に押すと、選んでいるボイスグループの先頭のボイスが選ばれます(108ページ)。

ボイス画面



現在選ばれているボイスグループのボイス画面が表示されます。

ボイスグループ内のボイスの位置を表示します。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

ボイスの特徴をつかむには

ボイスごとのデモ曲を聞いたり(22ページ)、「ボイス一覧」(108ページ)を参照したりして、各ボイスの特徴を確認してください。

NOTE

この楽器で演奏できるボイスについては、「ボイス一覧」(108ページ)をご覧ください。

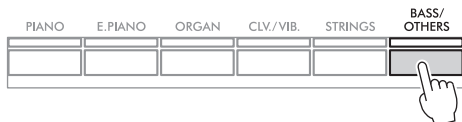
タッチ感度を変更する

鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を設定できます。詳しくは36ページをご覧ください。

XGボイスを選ぶ

XGボイスとは、XG音源(3ページ)に対応したデータを鳴らすためのボイスです。
ボイス画面を表示させてから、下記の手順でXGボイスを選びます。

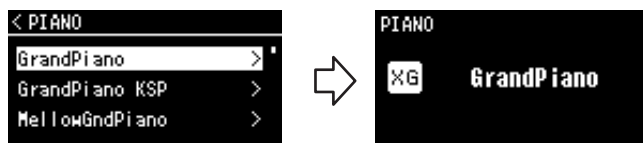
1. **[BASS/OTHERS]ボタンを2回押して、XGボイスの画面を表示させます。**



2. **[▲]/[▼]ボタンで使いたいXGボイスのボイスグループを選び、[▶]ボタンを押します。**



3. **[▲]/[▼]ボタンで使いたいXGボイスを選び、[▶]ボタンを押します。**

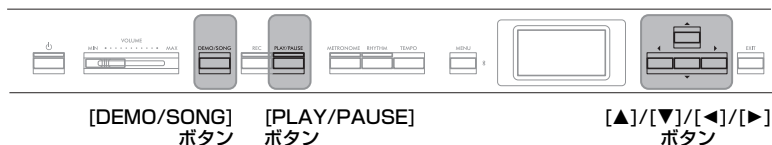


ボイス名の画面から、ボイス名一覧画面に戻るには[▲]ボタンを押します。ボイス名一覧画面から、ボイスグループ画面(手順2)に戻るには、[◀]ボタンを押します。

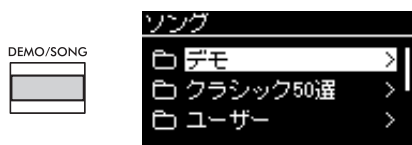
* XGボイスについて詳しくは、ヤマハウェブサイト(本書2ページ)上のデータリストをご覧ください。

ボイスの特徴がわかるデモ曲を聞く

ボイスグループごとに数曲ずつ、ボイスの特徴がわかるデモ曲(ボイスデモ)が内蔵されています。どのボイスにデモ曲が用意されているかは、ボイス一覧(108ページ)をご覧ください。

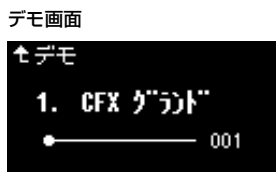


1. ^{デモ} [DEMO/SONG] ボタンを押して、^{ソング} ソングカテゴリリストを表示します。



2. [▲]/[▼] ボタンで「デモ」を選び、[▶] ボタンを押します。
3. [▲]/[▼] ボタンで再生したいボイスデモを選び、[▶] ボタンを押してデモ画面を表示します。

現在選ばれているボイスデモの名前が表示されています。



4. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をスタートします。
5. もう一度 [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、再生をストップします。

通常、選んだボイスデモを最後まで再生すると、自動的にストップします。

他のデモ曲を選ぶ

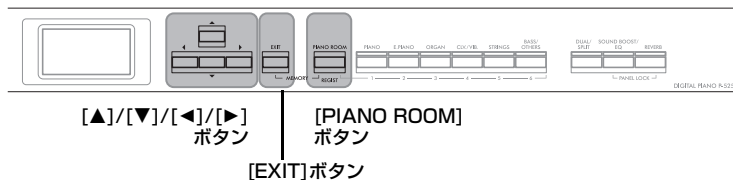
[▲] ボタンを押して、ソングリストに戻り、手順3~4をくり返します。

NOTE

ボイスデモの再生中、録音操作はできません。

ピアノの響きやタッチ感度を変えて楽しむ(ピアノルーム)

ピアノルームは、ピアノ演奏を思う存分楽しみたい、という方におすすめの機能です。ボイスなど、どんな設定になっていても、ワンタッチでピアノ演奏専用の設定を呼び出すことができます。また、ピアノグループのボイスは、弦やペダルの共鳴音や屋根の開閉など、音の響きを調節したり、タッチ感度を調節したりできます。さまざまな要素を調節して自分の好きな音を作ってみましょう。



1. **[PIANO ROOM] ボタンを押して、ピアノルーム画面を表示させます。**



2. **[▲]/[▼] ボタンで項目を選択します(24ページ)。**
3. **[◀]/[▶] ボタンで設定を変更します(24ページ)。**
4. **設定が終わったら、^{エグジット}[EXIT] ボタンでピアノルーム画面から抜けます。**

NOTE

ピアノグループのボイスとは、「ボイススー覧」(108ページ)の「ボイスグループ」がピアノのボイスです。選び方は20ページをご覧ください。

NOTE

- ・ピアノグループ以外のボイスを選んでいる場合、ピアノルーム画面を表示すると自動的に「CFX グランド」に切り替わります。
- ・[PIANO ROOM] ボタンを押すと、デュアル/スプリットおよびデュオは解除されます。



ピアノルーム画面でできること

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
大屋根の開閉		グランドピアノの屋根の開き具合を変えたときの音の変化を再現します。	フル(全開)	フル(全開)、 ハーフ(半開)、 クローズ(閉)
ブライトネス		音の明るさを調整します。	ボイスによる	0~10
タッチ		鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を変更します。使うボイスや演奏する曲、好みによって使い分けてください。	ミディアム	ソフト2、ソフト1、 ミディアム、ハード1、 ハード2、固定
リバーブ		さまざまな場所で弾いているような臨場感が得られる、リバーブの種類を選びます。選んだリバーブは、鍵盤演奏音、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてにかかります。	ボイスによる	リバーブタイプリスト 参照(26ページ)
リバーブの深さ		現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。「リバーブ」がオフの場合や設定値が0の場合、効果はかかりません。	ボイスによる	0~40
音の高さ (マスターチューニング)		全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏や音源に合わせて演奏するときなど、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。	A3=440.0Hz	A3 = 414.8Hz~ 466.8Hz (約0.2Hz単位)
VRM		VRMのオン/オフを設定します。VRMの機能については「用語解説」(25ページ)をご覧ください。VRMの効果をつけられるボイスは、「ボイス一覧」(108ページ)をご覧ください。 デモを聞く VRMの設定画面を開き、[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、VRMの効果のあり/なしを聞き比べることができます。 オンにして再生するとVRMがオンの状態、オフにして再生するとVRMがオフの状態のデモ曲を再生できます。 	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
ダンパーレゾナンス		ダンパーペダルを踏んだときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。	5	0~10
ダンパーノイズ		VRMによるダンパーノイズのオン/オフを設定します。ダンパーノイズについて詳しくは、25ページをご覧ください。ダンパーレゾナンスの設定が「0」のときは、この機能は無効です。	On(オン)	On (オン)、Off (オフ)
ストリングレゾナンス		押鍵したときに加わる、VRMによる弦共鳴音のかかり具合を設定します。	5	0~10
アリコートレゾナンス		アリコートの響きを調節します。アリコートについて詳しくは、25ページをご覧ください。	5	0~10
ボディレゾナンス		響板や側板、フレームなど、ピアノ本体部の響きを調節します。	5	0~10

項目	アイコン	説明	初期設定	設定範囲
グランドエクスプレッション		<p>グランド・エクスプレッション・モデリングのタイプを選びます。</p> <p>ダイナミック：鍵盤を弾く強さやタッチに応じて、アコースティックピアノのように音が微妙に変化します。</p> <p>スタティック：弾き方を変えても、音はさほど変化しません。</p> <p>グランド・エクスプレッション・モデリングについて詳しくは、下記をご覧ください。</p> <p>グランド・エクスプレッション・モデリングは、「CFXグランド」のボイスのみに効果がかかります。</p> <p>デモを聞く グランドエクスプレッション設定画面で [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、選んでいるタイプのデモ曲が再生されて、「ダイナミック」と「スタティック」を聞き比べることができます。</p> 	ダイナミック	ダイナミック、スタティック
ハーフペダルの位置		[AUX PEDAL] 端子に接続したペダルや、[PEDAL UNIT] 端子に接続したペダルユニットの右ペダルを踏み込むほど音が長く伸びる「サステイン(連続)」の効果が、ペダルをどのくらい踏み込めば効き始めるのかを設定します。ペダルに「サステイン(連続)」が割り当てられている場合(17ページ)のみ有効です。	0	-2 (浅い位置で効く)~0~+4 (深い位置で効く)

NOTE

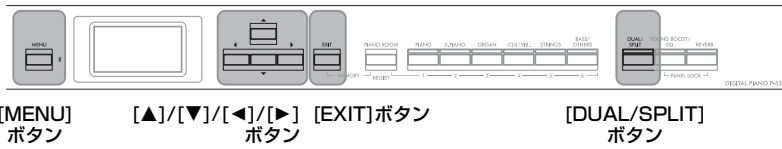
- ・ピアノルームでの設定を、電源が切れても保持したい場合は、バックアップ設定の「ボイス」と「その他」をオンにしてください。詳しくは88ページをご覧ください。
- ・これらの項目は、ボイスメニュー (93ページ) やシステムメニュー (101ページ) でも設定できます。ピアノルーム画面でこれらの設定を変更すると、メニュー画面での設定も変更されます。逆に、メニュー画面で設定を変更すると、ピアノルーム画面での設定も変更されます。
- ・各設定画面で値を変更したあと、初期設定に戻りたい場合は、[◀]と[▶]ボタンを同時に押します。

用語解説

用語	説明
VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)	グランドピアノの共鳴音は、ダンパーペダルを踏んだときに、弾いた鍵盤の弦の振動がほかの弦や響板へ伝わることで生まれます。この複雑に影響し合う弦や響板などの状態をシミュレートし、それをリアルに再現することで、グランドピアノならではの響きを作り出す技術がVRM(バーチャル・レゾナンス・モデリング)です。鍵盤を押さえるタイミングやペダルを踏むタイミングと深さに応じて、より多彩な演奏表現が可能になります。
アリコート	他の弦と共振する、共鳴専用の弦をアリコートといいます。他の弦と共振することで、倍音を響かせるので、豊かな響きが得られます。アリコートにはダンパーがなく消音されないので、鍵盤から手を離しても、アリコートの響きが残ります。
グランド・エクスプレッション・モデリング	アコースティックピアノでは、鍵盤を押してから離すまでのタッチを変えることにより、音を微妙に変化させることができます。たとえば、鍵盤を底までしっかり押せば、鍵盤が棚板(鍵盤下の板)に当たってコツツと鳴り、その衝撃が弦に伝わって音がわずかに変化します。また、音が消える寸前(ダンパーが弦に触れる瞬間)の音も、鍵盤から指を離す速さにより微妙に変化します。このようなタッチによる音の微妙な違いを再現する技術がグランド・エクスプレッション・モデリングです。強めのタッチでアクセントを付けたり、やわらかなタッチで輝かしい響きを付けたり、と多彩な音色を奏でることができます。また、スタッカートで弾いたときには歯切れのいい音を、ゆっくり指を離したときには長く余韻を残す音を表現できます。
ダンパーノイズ	アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだときに生じるノイズ音です。ダンパーノイズは、ダンパーペダルを踏む速さによって、音色や音量が異なります。ダンパーペダルをゆっくり踏むと、ダンパーヘッドが弦から離れた際のノイズ音が小さく鳴ります。ダンパーペダルを勢いよく踏むと、その振動が弦に伝わり、低い大きなノイズ音が混じります。

音に効果をかける

効果をかけると、演奏表現に幅を出すことができます。



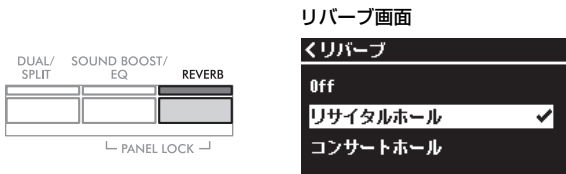
リバーブ

音に残響を加えます。コンサートホールなどで演奏しているような臨場感が味わえます。ボイスを選ぶたびに、最適なリバーブタイプが自動で選ばれますが、自分で選ぶこともできます。

リバーブは、鍵盤演奏音、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータ、すべてに共通してかかります。

1. ^{リバーブ}[REVERB]ボタンを押してリバーブ画面を表示させます。

ピアノグループのボイスの場合は、ピアノルーム画面(24ページ)でも設定できます。



2. [▲]/[▼]ボタンで、リバーブタイプを選びます。

リバーブタイプリスト

リバーブタイプ	効果
Off (オフ)	効果なし
リサイタルホール	ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響き
コンサートホール	オーケストラの公演が行われる大きなホールの華やかな響き
サロン	室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響き
ルーム	ホールよりも小さな空間(部屋)で弾いたような優しい響き
大聖堂	天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響き
クラブ	ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響き
プレート	録音スタジオで使用される往年のリバーブ装置の明るい響き

リバーブのかけ具合をボイスごとに設定したい場合は、ボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「リバーブの深さ」で設定します(94ページ)。

3. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してリバーブ画面から抜けます。

初期設定：ボイスまたはボイスの組み合わせによる

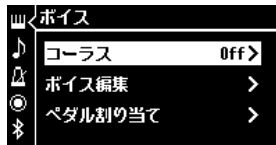
コーラス

音に広がり感を加えます。ボイスを選ぶたびに、最適なコーラストイプが自動で選ばれますが、自分で選ぶこともできます。コーラスは、鍵盤演奏音、ソング再生音、外部から入力されたMIDIデータ、すべてに共通してかかります。

1. ^{メニュー} [MENU] ボタンを何度か押して、ボイスメニュー画面を表示させます。



2. [▲]/[▼] ボタンで「コーラス」を選び、[▶] ボタンを押します。



3. [▲]/[▼] ボタンでコーラストイプを選びます。

コーラストイプリスト

コーラストイプ	効果
Off (オフ)	効果なし
コーラス	豊かな広がりを加える効果
セレステ	うねりと広がりを加える効果
フランジャー	ジェット機の上昇、下降音のようなうねりを加える効果

コーラスのかかり具合をボイスごとに設定したい場合、ボイスメニュー画面の「ボイス編集」→「コーラスの深さ」で設定します(94ページ)。

4. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押してコーラス画面を閉じます。

初期設定：ボイスまたはボイスの組み合わせによる

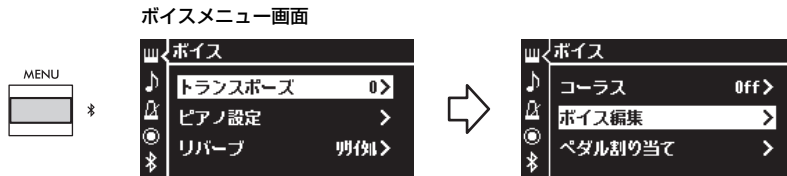
NOTE

ピアノなどコーラスの初期設定がオフのボイスにコーラスをかけたい場合は、コーラストイプにオフ以外の設定を選び、コーラスの深さを0以外に設定してください。

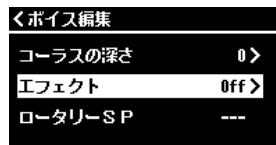
エフェクト

鍵盤演奏音(ボイス)に対して、個別にエコーやトレモロなどの効果をかけられます。最大2つのボイスにまで設定できます。

1. 効果をかけたいボイスを選びます。
2. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何度か押してボイスメニュー画面を表示させ、[▲]/[▼]ボタンで「ボイス編集」を選びます。



3. [▲]/[▼]ボタンで「エフェクト」を選び、[▶]ボタンを押します。



4. [▲]/[▼]ボタンでエフェクトタイプを選びます。

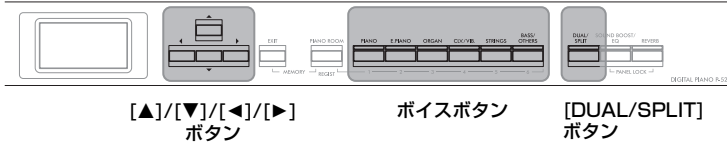
エフェクトタイプリスト

エフェクトタイプ	効果
Off (オフ)	効果なし
ディレイLCR	左、中央、右の3つの位置でかかるディレイ(音を遅らせる)効果
ディレイLR	左右2つの位置でかかるディレイ効果
エコー	「こだま」のようなディレイ効果
クロスディレイ	左右2つのディレイを交差してかけた効果
シンフォニック	豊かで奥行きのある響きを作る効果
ロータリー	ロータリースピーカー(回転スピーカー)を使っているようなビブラート感が得られる効果
トレモロ	音量が周期的に変化する効果
パイプローター	ビブラフォン特有のビブラート
オートパン	音が左右、前後に揺れ動くような効果
フェイザー	位相を周期的に変化させ、音にうねりを持たせる効果
オートワウ	ワウフィルターの中心周波数を周期的に変化させる効果
ディストーション	音をひずませる効果

5. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してエフェクト画面を閉じます。

2つのボイスを重ねて鳴らす(デュアル)

2つのボイスを重ねて鳴らします。系統の違う2つのボイス(違うボイスグループのボイスを組み合わせる)を重ねてデュエットしたり、同じ系統の2つのボイス(同じボイスグループのボイスを組み合わせる)を重ねて厚みのあるボイスを作ったりできます。



デュアル=2つの

1. ^{デュアル} ^{スプリット} [DUAL/SPLIT] ボタンを1回押して、デュアルをオンにします。

[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが点灯します。

NOTE

2つのボイスボタンを同時に押して、デュアルをオンにすることもできます。



画面の上段に表示されるボイスを第1ボイス、下段を第2ボイスと呼びます。

2. 重ねるボイスを選びます。

- 2-1. [▲]/[▼] ボタンを押して、画面の **1** (第1ボイス) を反転表示させます。
- 2-2. ボイスボタンでボイスグループを選んだあと、[◀]/[▶] ボタンでボイスを選びます(20ページ)。
- 2-3. [▲]/[▼] ボタンを押して、画面の **2** (第2ボイス) を反転表示させ、2-2の手順でボイスを選びます。

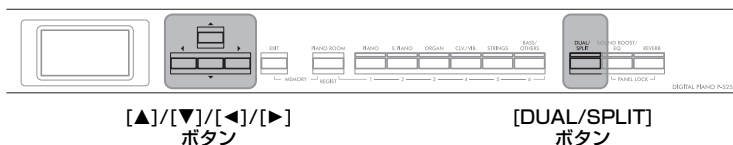
3. 鍵盤を弾いてみましょう。

4. デュアルをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯するまで[DUAL/SPLIT] ボタンを何度か押します。

鍵域を左右に分けて別々の2つのボイスで弾く(スプリット)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々のボイスで演奏できます。たとえば、左側でベースパートを、右側でメロディーパートを演奏できます。

スプリット=分ける



1. [DUAL/SPLIT] ボタンを2回押して、スプリットをオンにします。

[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが点灯します。



画面の上段に表示されるボイスが右側のボイス、下段が左側のボイスです。

2. 左右のボイスを選びます。

左右のボイスの境目を「スプリットポイント」と呼びます。スプリットポイントに当たる鍵盤(初期設定：F#2)は、左側に属します。

- 2-1. [▲]/[▼] ボタンを押して、画面の [R] (右側のボイス) を反転表示させます。
- 2-2. ボイスボタンでボイスグループを選んだあと、[◀]/[▶] ボタンでボイスを選びます(20ページ)。
- 2-3. [▲]/[▼] ボタンを押して、画面の [L] (左側のボイス) を反転表示させ、2-2の手順でボイスを選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

スプリットポイントの変更

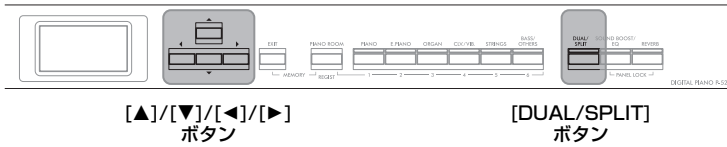
スプリットポイントは「F#2」が初期設定になっていますが、変更できます。スプリットがオンの状態で、[DUAL/SPLIT] ボタンを押したままスプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

NOTE

スプリットポイントは、システムメニュー画面でも変更できます。[MENU] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を選び、「鍵盤」→「スプリットポイント」(102ページ)で設定してください。

4. スプリットをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯するまで[DUAL/SPLIT] ボタンを何度か押します。

スプリットとデュアルを同時に使う



1. ^{デュアル} ^{スプリット} [DUAL/SPLIT] ボタンを3回押して、デュアルとスプリットをオンにします。

[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが点灯します。



画面の上段に表示されるボイスが右側の第1ボイス、中段が右側の第2ボイス、下段が左側のボイスです。

2. 重ねるボイス、左側のボイスをそれぞれ選びます。

- 2-1. [▲]/[▼] ボタンを押して、画面の **R1** (右側の第1ボイス) を反転表示させます。
- 2-2. ボイスボタンでボイスグループを選んだあと、[◀]/[▶] ボタンでボイスを選びます (20ページ)。
- 2-3. [▲]/[▼] ボタンを押して、画面の **R2** (右側の第2ボイス) や **L** (左側のボイス) を反転表示させ、2-2の手順でボイスを選びます。

3. 鍵盤を弾いてみましょう。

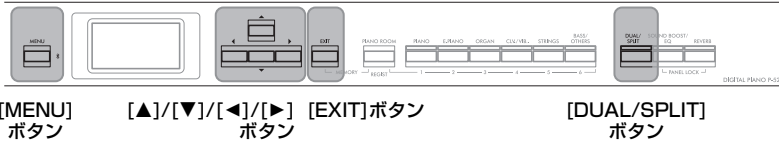
4. デュアルとスプリットをオフにするには、[DUAL/SPLIT] ボタンのランプが消灯するまで [DUAL/SPLIT] ボタンを何度か押します。

NOTE

- スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。
- スプリットポイントの変更方法は、30ページをご覧ください。

二人で一緒に弾く(デュオ)

鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。



1. ^{メニュー}[MENU] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。



システムメニュー画面

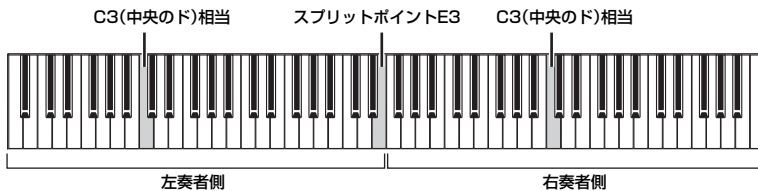


鍵盤画面



- 1-1. [▲]/[▼] ボタンで「鍵盤」を選択
- 1-2. [▶] ボタンで次へ
- 1-3. [▲]/[▼] ボタンで「デュオ」を選択
- 1-4. [▶] ボタンで On (オン) に設定。

E3が鍵盤の境目(スプリットポイント)となり、左奏者側と右奏者側に分かります。



別売のペダルユニットを使用する場合、ペダルの機能は次のように変わります。

右のペダル	右奏者側のダンパーペダル
中央のペダル	左右両奏者共通のダンパーペダル
左のペダル	左奏者側のダンパーペダル

NOTE

- デュオをオンにすると、デュアル(29ページ)やスプリット(30ページ)やVRM(24ページ)がオフになります。
- デュオ - タイプ(102ページ)を「セパレート」に設定すると、リバーブの深さ(94ページ)は0になり、バイノーラルサンプリング(14ページ)はオフになります。
- スプリットポイントに当たる鍵盤は、左側に属します。
- スプリットポイントは変更できません。スプリットポイントの変更方法については、30ページをご覧ください。

2. ^{エグジット} [EXIT]ボタンを押してボイス画面を表示させます。

デュオがオンの間はボイス画面に[Duo]と表示されます。必要に応じて、ボイスボタンを押してボイスを選びます(20ページ)。



3. 鍵盤を弾いてみましょう。

初期設定では、左奏者側の音は左側のスピーカーから、右奏者側の音は右側のスピーカーから聞こえます。

4. デュオをオフにするには、^{デュアル} ^{スプリット} [DUAL/SPLIT]ボタンを押します。

NOTE

右左両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らすこともできます。

[MENU]ボタンを何度か押してシステムメニューを選び、「鍵盤」→「デュオ - タイプ」(102ページ)で設定します。

キー (調)を変える (トランスポーズ)

鍵盤演奏音のキーを半音単位で移調(トランスポーズ)します。ここでの設定により、弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせられます。たとえば、トランスポーズを「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が鳴り、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏ができます。

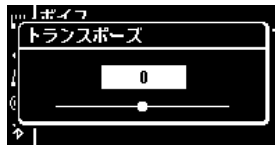


[MENU]ボタン [▲]/[▼]/[◀]/[▶] [EXIT]ボタン
ボタン

1. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何度か押してボイスメニュー画面を表示させ、「トランスポーズ」を選び、[▶]ボタンを押します。



2. [◀]/[▶]ボタンで設定します。
初期設定(0)に戻すには、[◀]と[▶]ボタンを同時に押します。



3. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押して、トランスポーズ画面を閉じます。

初期設定：0
設定範囲：-12(-1オクターブ)~
0(標準音程)~+12(+1オクターブ)

NOTE

- ここでの設定はソング再生音には関係ありません。ソング再生音のキー(調)を変えたいときは、ソングメニュー画面の「トランスポーズ」(96ページ)で設定してください。
- 鍵盤演奏の情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値にトランスポーズ値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。

音の高さを微調整する (マスターチューニング)

楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏や音源の再生に合わせて演奏するときなど、それらのピッチ(音の高さ)と楽器のピッチを正確に合わせたい場合に使います。

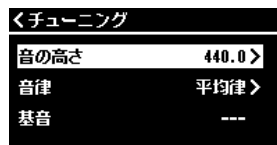


[MENU] ボタン [▲]/[▼]/[◀]/[▶] ボタン [EXIT] ボタン

1. ^{メニュー} [MENU] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させ、[▲]/[▼] ボタンで「チューニング」を選び、[▶] ボタンを押します。



2. [▲]/[▼] ボタンで「音の高さ」を選び、[▶] ボタンを押します。



3. [◀]/[▶] ボタンで設定します。
初期設定(A3=440.0Hz)に戻すには、[◀]と[▶] ボタンを同時に押します。



4. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、音の高さ画面を閉じます。

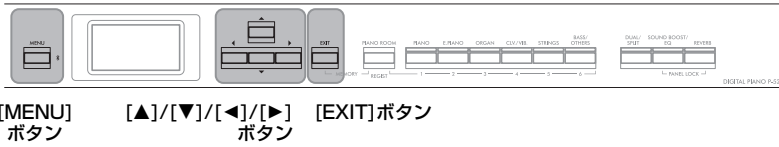
初期設定 : A3=440.0Hz
設定範囲 : A3=414.8Hz~
440.0Hz~466.8Hz (約0.2Hz単位)

NOTE

- ここで音の高さを変更すると、ピアノルーム画面(24ページ)の音の高さも変更されます。
- ここでの設定は、ドラムキットやオーディオソング再生音には影響しません。また、MIDIソングには記録されません。

タッチ感度を変える

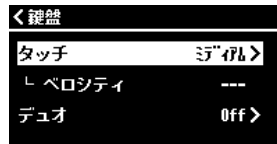
鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付きかた(タッチ感度)を設定します。鍵盤の重さ自体は変わりません。



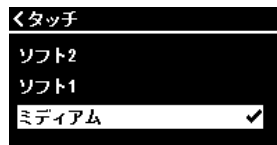
1. ^{メニュー}[MENU] ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させ、[▲]/[▼] ボタンで「鍵盤」を選び、[▶] ボタンを押します。



2. [▲]/[▼] ボタンで「タッチ」を選び、[▶] ボタンを押します。



3. [▲]/[▼] ボタンで設定します。



タッチ感度リスト

ソフト2	弱いタッチで大きい音を出すことができます。
ソフト1	ソフト2とメディアムの間です。
メディアム	標準的なタッチです。
ハード1	ハード2とメディアムの間です。
ハード2	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。
固定	タッチによる強弱は付かず、一定のボリュームが出ます。

4. ^{エグジット}[EXIT] ボタンを押して、タッチ画面から抜けます。

NOTE

ピアノグループのボイスは、ピアノルーム画面でもタッチ感度を設定できます。詳しくは、「ピアノルーム画面でできること」(24ページ)をご覧ください。

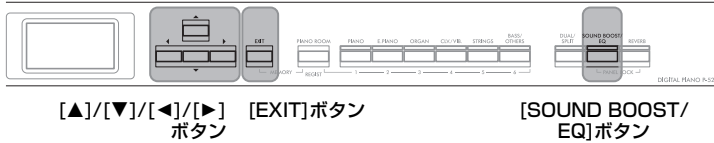
初期設定：メディアム

NOTE

- ここでタッチ感度を変更すると、ピアノルーム画面のタッチ感度も変更されます。
- ここでの設定はMIDI録音されたり、MIDI出力されたりしません。
- オルガン、ハーブシコードの音色では、タッチ感度による音の強弱は付きません。

より音量感のあるサウンドで演奏する(サウンドブースト)

楽器の音量感をアップさせる機能です。強音だけでなく、弱音までよりはっきり聞かせたい場合に使います。ほかの楽器とのセッションやアンサンブルを行うときに、音色の表現力を維持したまま、自分の音を引き立たせて演奏できます。



1. ^{サウンド} ^{ブースト} [SOUND BOOST/EQ] ボタンを何度か押して、サウンドブースト画面を表示させます。

初期設定：Off (オフ)



2. [▶] ボタンを押し、サウンドブースト機能をOn(オン)にします。
[SOUND BOOST/EQ] ボタンが点灯します。
3. [▼] ボタンを押して「タイプ」を反転表示させます。
4. [▶] ボタンを押してタイプ画面を表示させ、[▲]/[▼] ボタンでサウンドブーストタイプを選びます。

初期設定：2



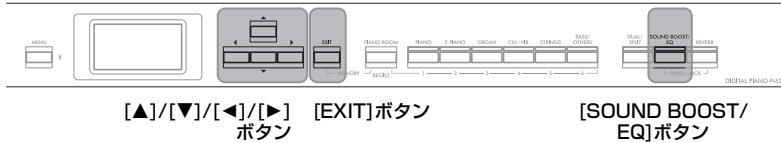
サウンドブーストタイプリスト

1	音の粒立ちがはっきりとします。明るい曲のソロ演奏などにおすすめです。
2	1よりもさらに粒立ちがはっきりとして、クリアな音になります。弾き語りなどにおすすめです。
3	2よりもさらに明るく力強い音になり、アタックがより際立ちます。バンド演奏などにおすすめです。

5. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、サウンドブースト画面から抜けます。

音質を補正する(マスター EQ)

EQ(イコライザー)とは、音を周波数帯域(バンド)に分けて、各帯域のレベル(ゲイン)を上げ/下げして音質を補正し、本体スピーカーやヘッドホンなどで鳴らすサウンドを、最適な音に設定する機能です。この楽器では、3つのデジタルイコライザーが搭載されています。また、内蔵の3つのタイプから選べるだけでなく、イコライザーの周波数帯域およびゲインを調節して、ユーザーマスターEQとしてオリジナルの設定を保存できます。



マスターEQタイプの選択

1. ^{サウンド} [SOUND BOOST/EQ] ボタンを何度か押して、マスターEQ画面を表示させます。



2. ^{エグジット} [▲]/[▼] ボタンで、マスターEQタイプを選びます。

初期設定：フラット

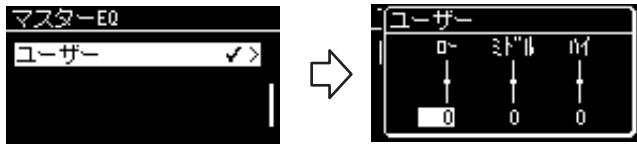
マスターEQタイプリスト

フラット	フラットなEQ設定です。
ブライト	明るい音になるEQ設定です。
メロー	柔らかくまろやかな音になるEQ設定です。
ユーザー	オリジナルのEQ設定です。 詳しくは「ユーザーマスターEQの設定」(39ページ)をご覧ください。

3. [EXIT] ボタンを押して、マスターEQ画面から抜けます。

ユーザーマスター EQの設定

1. マスターEQタイプのうち、「ユーザー」を選び、[▶]ボタンを押し、3つの周波数帯域(バンド)のゲインを設定する画面を表示させます。



2. [◀]/[▶]ボタンで設定する帯域を選び、[▲]/[▼]ボタンで各帯域のゲインを設定します。

各帯域のゲインを初期設定に戻すには、[▲]と[▼]ボタンを同時に押します。

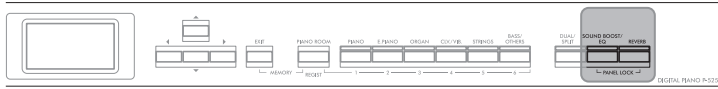


初期設定 : 0 dB
設定範囲 : -6 dB ~ 0 ~ +6 dB

3. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押して、ユーザーマスターEQ設定画面を閉じます。

パネル操作をロックする

この楽器には、本体パネル上のボタン操作を一時的に無効にし、演奏中の誤操作によるトラブルを防ぐ「パネルロック機能」が搭載されています。



[PANEL LOCK]ボタン

1. ^{パネル} ^{ロック} [PANEL LOCK]ボタンの両方を同時に押して、パネル操作をロックします。

ボイス画面が表示され、画面右下に鍵のアイコンが表示されます。



[φ](スタンバイ/オン)スイッチ以外のボタン操作ができなくなります。

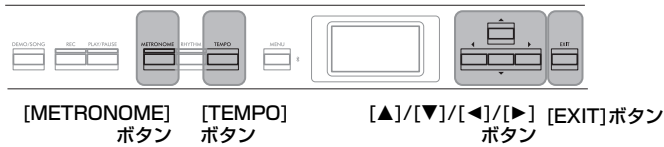
2. パネルロックを解除するには、もう一度[PANEL LOCK]ボタンの両方を同時に押します。

NOTE

- ソング再生中、録音中は、パネル操作をロックできません。
- メトロノームやリズムの再生中にパネル操作をロックすると、ロックを解除するまで、再生を停止できません。
- パネルロック中は、AUXペダルによるソングの再生/一時停止ができません(102ページ)。
- パネル操作がロックされていても、オートパワーオフ機能(13ページ)が解除されていないければ、電源は自動的に切れます。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。



1. ^{メトロノーム}[METRONOME] ボタンを押して、メトロノームを鳴らします。

テンポ画面が表示されます。



拍子の変更方法は、42ページをご覧ください。

メトロノームの音量やBPMは、メトロノーム/リズムメニュー画面(99ページ)で設定できます。

2. メトロノームを止めるには、もう一度[METRONOME]ボタンを押します。

テンポ画面から抜けるには、[EXIT]ボタンを押します。

BPM

この楽器では、画面上のテンポ表示の基準音価(1拍の基準となる音の長さ)を、メトロノームの拍子設定に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするかどうかを設定できます(99ページ)。

テンポを調節する

1. ^{テンポ}[TEMPO] ボタンを押して、テンポ画面を表示させます。



2. [◀]/[▶] ボタンでテンポを調節します。

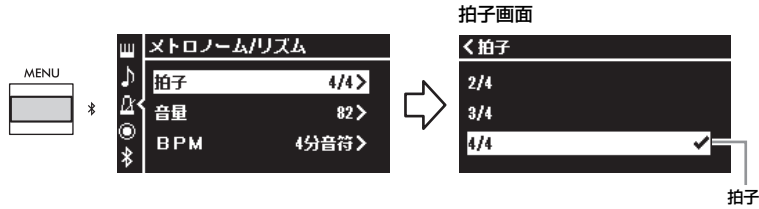
[◀]と[▶]ボタンを同時に押すと、テンポは初期設定に戻ります。

設定範囲：拍子による(42ページ)

3. ^{エグジット}[EXIT] ボタンを押して、テンポ画面から抜けます。

メトロノームの拍子を設定する

1. ^{メニュー} [MENU] ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示させ、[▲]/[▼] ボタンで「拍子」を選び、[▶] ボタンを押します。



2. [▲]/[▼] ボタンで拍子を選びます。

設定範囲 : 2/2、3/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8

初期設定 : 4/4 (MIDIソング選択時は、ソングによる)

テンポ表示と設定範囲

[TEMPO] ボタンを押すと、テンポは「音価=テンポ値」(例 ♩=120)の形式で表示されます。拍子を設定すると、音価と設定範囲は以下のように変わります。

音価	拍子	設定範囲
♪ 2分音符	2/2、3/2	3~250
♪ 4分音符	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4	5~500
♪ 付点4分音符	6/8、9/8、12/8	4~332 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)
♪ 8分音符	3/8、7/8	10~998 (設定可能なテンポは2の倍数のみ)と999

* MIDIソングのテンポが楽器で設定できる範囲外の場合、楽器で設定可能な範囲に変更されます。

* メトロノーム/リズムメニュー画面の「BPM」が4分音符に設定されている場合は、拍子の設定に関わらず音価は4分音符で表示されます。

選んだ拍子に合わせて、ベル音を鳴らせます。1拍目はチーンとなり、それ以外の拍はカチ、カチと鳴ります。

詳細は、メトロノーム/リズムメニュー画面の「ベル」(99ページ)をご覧ください。

3. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、メトロノーム/リズムメニュー画面から抜けます。

音価

1拍の基準となる音の長さ

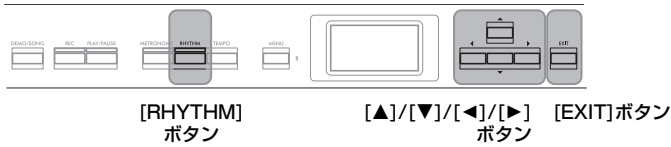
メトロノームの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面で、メトロノームの音量、BPMなどを設定できます(99ページ)。

演奏に伴奏を付ける(リズム)

この楽器には、ポップスやジャズなど、音楽ジャンルに合ったリズムが内蔵されています(110ページ)。好きなリズムと一緒に演奏しましょう。

なお、内蔵のリズムは打楽器音とベース音で構成されています。



1. ^{リズム} [RHYTHM] ボタンを押して、リズム再生をスタートさせます。

イントロが鳴り、リズム再生がスタートします。



イントロ/エンディングのオン/オフを切り替えるには

演奏を盛り上げるため、リズムの始まりと終わりには、イントロ/エンディングが流れます。イントロ/エンディングを鳴らす(On)/鳴らさない(Off)の設定は、メトロノーム/リズムメニュー画面(99ページ)の「イントロ」、「エンディング」の項目で設定できます。

2. [◀]/[▶] ボタンを使って、使いたいリズムを選びます。

リズムの種類については、リズム一覧(110ページ)をご覧ください。

3. リズムに合わせて演奏しましょう。

演奏を始めると、楽器がその音を認識して、演奏に合ったベース音が鳴ります。

ベース音のオン/オフを切り替えるには

ベース音を鳴らしたくないときは、オフに設定します。[MENU] ボタンを何度か押してメトロノーム/リズムメニュー画面を表示し、「ベース」で設定します。[▶] ボタンを押すと、On(オン)/Off(オフ)を切り替えられます(初期設定: On)。

4. リズムを止めるには、[RHYTHM] ボタンを押します。

エンディングが鳴ったあと、リズムはストップします。

5. ^{エグジット} [EXIT] ボタンを押して、リズム画面から抜けます。

リズムのテンポ

- リズムのテンポは、メトロノームで設定したテンポと同じになります(41ページ)。
- リズムのテンポ設定後にMIDIソングを選ぶと、リズムのテンポ設定はキャンセルされ、選択したソング固有のテンポに切り替わります。
- リズム再生中に[TEMPO] ボタンを押し、テンポ画面でリズムのテンポを変えた場合は、[EXIT] ボタンを押してリズム画面に戻ります。

リズムの詳細設定

メトロノーム/リズムメニュー画面(99ページ)で、リズムの音量や、鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせるなどの設定ができます。

NOTE

ソングの再生中および録音中、リズム画面は表示されません。

NOTE

- 曲のアレンジによっては、演奏に合ったベース音が鳴らない場合があります。
- 9th、11th、13thのコードは認識されません。
- コードの押さえ方は、市販のコード表などをご参照ください。

曲(ソング)を再生する、練習する

この楽器では、内蔵曲や録音した曲、市販の曲データを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏の練習ができます。

この楽器で再生/録音できるソングには、MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。

ミディ

• MIDIソング **MIDI**

MIDIソングは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(楽器などの音源部が鳴ることではじめて音になります。データ容量が小さく、また、音色(ボイス)の変更などの編集がしやすいのが特長です。

• オーディオソング **オーディオ**

オーディオソングは、演奏した音そのものを記録したデータです。ボイスレコーダーなどに録音するのと同じくみで記録したものです。スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどで再生するのと同じように、WAV形式のデータをこの楽器で再生できます。

MIDIソングとオーディオソングでは、使える機能が異なります。この章では、下記のように説明しています。

例 **MIDI** **オーディオ**

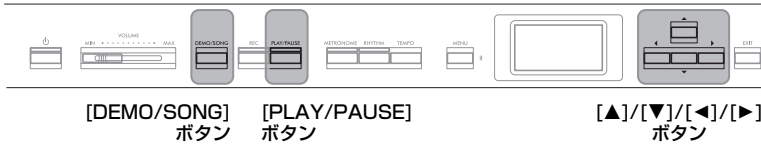
ここでの説明は、MIDIソングで使える機能です。オーディオソングでは使えません。

この楽器では、以下のソングが再生できます。

- 楽器に内蔵されているボイスのデモ曲(ボイスデモ)
- 楽器に内蔵されているソング(ピアノソング50曲「クラシック50選」)
- この楽器での演奏を録音したソング(録音方法については54ページ参照)
- 市販のMIDIデータ：SMF (Standard MIDI File)形式
この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約500 KBまでです。
- 市販のオーディオデータ：WAV形式(拡張子「.wav」)ファイル(サンプリング周波数44.1 kHz、量子化ビット数16 bit、ステレオ)
この楽器で再生可能なオーディオデータは、1曲につき80分までです。

ソングを再生する

MIDI オーディオ



1. USBフラッシュメモリーに入っているソングを再生したいときは、
USBフラッシュメモリーを楽器の[] (USB TO DEVICE) 端子に接続しておきます。

2. [DEMO/SONG] ボタンを押してソングカテゴリリストを表示させ、[▲]/[▼] ボタンで目的のカテゴリ (フォルダー) を選びます。

下記のカテゴリの説明を参考に、「クラシック50選」、「ユーザー」、「USB」から選びます。



デモ	ボイスの特徴がわかるデモ曲(MIDIソング)です。再生方法は、22ページをご覧ください。
クラシック50選	内蔵のピアノソング50曲(MIDIソング)です。詳しくは110ページの「ソング一覧」をご覧ください。付属の「クラシック名曲50選」に楽譜が掲載されていますのでご活用ください。
ユーザー	この楽器で録音(54ページ)し、楽器本体に保存したMIDIソングと、USBフラッシュメモリーから楽器本体へコピー/移動したMIDIソングです(65ページ)。
USB	この楽器での演奏をUSBフラッシュメモリーに録音したMIDIソング/オーディオソングや、録音したMIDIソングから変換したオーディオソング(69ページ)、またUSBフラッシュメモリーに保存した市販のMIDIソング/オーディオソングです。

3. [▶] ボタンを押してカテゴリ内のソングを表示させ、[▲]/[▼] ボタンで聞きたいソングを選びます。

「ユーザー」または「USB」カテゴリを選んだ場合、ソング名の左端には、ソングの種類を示すアイコンが表示されます。

NOTE

- USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(74ページ)をお読みください。
- USBフラッシュメモリーを接続したとき、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)ソングを自動で呼び出す機能「USB自動ロード」があります。設定方法については、104ページをご覧ください。

NOTE

USBフォルダーは、手順1でUSBフラッシュメモリーを[] (USB TO DEVICE) 端子に接続したときのみ、画面に表示されます。

NOTE

カテゴリ/フォルダーのリストに戻るには、[◀] ボタンを押します。



ソングリスト



アイコン

アイコン	形式
	フォルダー
	MIDIソング
	オーディオソング

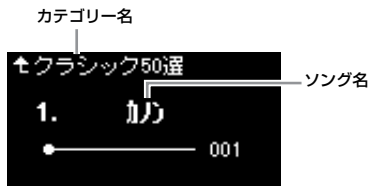
USBフラッシュメモリーに録音したソングを選ぶ

この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、ソングはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーに保存されます。「USER FILES」フォルダー内のソングを選びたい場合は、手順2で「USB」を選び、手順3で「USER FILES」フォルダーを選びます。

4. [▶]ボタンを押して決定します。

ソング画面が表示され、現在選ばれているソング名と、そのソングが入っているカテゴリー名が表示されます。

ソング画面: MIDIソングの場合



ソング画面: オーディオソングの場合



5. [PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をスタートします。

再生位置が表示されます。

ソング画面: MIDIソングの場合



再生位置

ソング画面: オーディオソングの場合



再生位置

再生しながら自分で鍵盤を弾くこともできます。その際、鍵盤演奏音のボイスも変えられます。

鍵盤演奏音とMIDIソング再生音の音量バランスの調節や、オーディオソングの音量調節をしたいときは、それぞれソングメニュー画面の「音量」項目で調節してください(52ページ)。

6. もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY/PAUSE]ボタンを押さなくても、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

フォルダーの中にデータが存在しない場合は「曲なし」と表示されません。

USBフラッシュメモリー内のソングが読み込めない場合

システムメニューで、ソング名に対する言語設定(105ページ)を切り替えてみてください。

NOTE

- ソングリストに戻るには、[▲]ボタンを押します。
- ソング名が長くて画面に表示されない場合は、[▼]ボタン押し続けると、ポップアップ画面でソング名を最後まで確認できます。

NOTE

48文字以上のソング名のソングは、この楽器で再生できません。

NOTE

- テンポは、自動的にそのソング特有のテンポにセットされます。「メトロノームを使う」(41ページ)での設定は無効になります。
- 再生に便利な機能については、48～53ページをご覧ください。

早戻し、早送りする/ソングの先頭に戻す

早戻し、早送りする

ソング画面の表示中に[◀]/[▶]ボタンを押して、小節番号もしくは経過時間の早戻し/早送りをします。

ソング画面: MIDIソングの場合



小節番号

ソング画面: オーディオソングの場合



経過時間

ボタンを長く押しと値が連続して変わります。

ソングの先頭に戻す

[◀]と[▶]ボタンを同時に押します。

テンポの調節

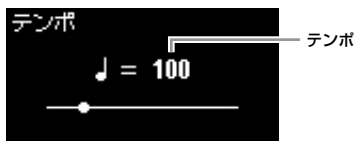
ソングの再生速度を変えられます。

1. ^{テンポ}[TEMPO]ボタンを押してテンポ画面を表示します。

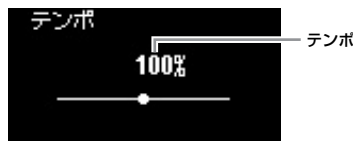
MIDIソングの場合は再生中またはソング画面表示中に、オーディオソングの場合は再生中に、[TEMPO]ボタンを押します。



MIDIソングの場合



オーディオソングの場合



2. [◀]/[▶]ボタンを押して、テンポを変更します。

[◀]と[▶]ボタンを同時に押しと、元のテンポ(そのソング固有のテンポ)に戻ります。

MIDIソングの場合

テンポの設定範囲は、選ばれているソングの拍子によって異なります。拍子によっては、設定できる数値が2の倍数のみになります。詳しくは42ページをご覧ください。

オーディオソングの場合

設定範囲は75%~125%です。100%がソング固有のテンポです。値が大きいくほど再生速度が速くなります。

3. 設定が終わったら^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してテンポ画面を抜けます。

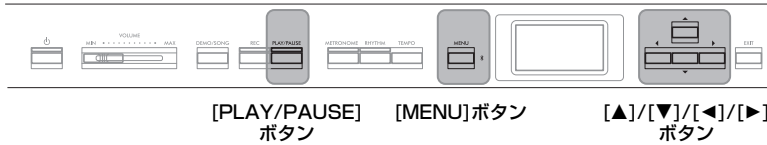
NOTE

オーディオソングのテンポを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。

右手または左手パートだけを再生する(MIDIソング)

MIDI オーディオ

内蔵曲などのMIDIソングには、データが右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このようなソングデータの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができます。



1. 練習するソングを選びます。

選びかたは、45ページをご覧ください。内蔵の「クラシック50選」カテゴリから選ぶことをおすすめします。

2. 練習したいパートを選びます。

[MENU]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

L/R画面では、再生をオフにしたい(練習したい)パート(トラック)を選びます。右手練習したい場合は「R」、左手練習したい場合は「L」を選びます。

ソングメニュー画面



L/R画面



2-1. [▲]/[▼]ボタンで「L/R」を選択

2-2. [▶]ボタンで次へ

2-3. [▲]/[▼]ボタンでトラックを選択

3. [▶]ボタンを押して、選んだパートを「Off (オフ)」に設定します。

4. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ^{ポーズ} ボタンを押して、再生をスタートします。

再生をオフにしたパートを自分で弾いて練習します。

5. もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、再生をストップします。

[PLAY/PAUSE]ボタンを押さなくても、1曲の再生が終了すると、自動的にストップします。

NOTE

内蔵の「クラシック50選」カテゴリのソングの一部は連弾曲です。これらの連弾曲のパートの割り当てについては110ページをご覧ください。

NOTE

- 再生中でも、パートごとの再生オン/オフは切り替えられます。
- 通常、「R」にチャンネル1、「L」にチャンネル2、「その他」にチャンネル3～16が割り当てられていますが、ソングによっては異なる場合があります。「その他」のチャンネルは、チャンネルごとにオン/オフを設定できません。
- 別のMIDIソングを選ぶと、両パートとも再生オンに自動的にリセットされます。

ABリピートの設定

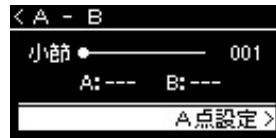
MIDI

オーディオ

基本操作は、49ページをご覧ください。手順4以降は、下記に従って操作します。

- 4-1. ^{プレイ} ^{ポーズ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、ソングの再生をスタートします。
- 4-2. くり返し再生の開始位置(A点)にしたいところで、[▶] ボタンを押します。

A - B画面



ソングの先頭をA点にする

A点を指定してからソングの再生をスタートし、そのあとB点を指定します。

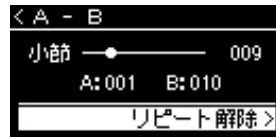
- 4-3. くり返し再生の終了位置(B点)にしたいところで、もう一度 [▶] ボタンを押します。

カウント音が入ったあと、A点からB点までがくり返し再生されます。

ソングの最後をB点にする

A点だけを指定して、ソングの最後までで再生します。ソングの最後が自動的にB点になります。

5. くり返し再生をやめるには、画面の「リピート解除」が反転表示している状態で [▶] ボタンを押すか、別のソングを選びます。



NOTE

くり返し範囲の設定は、以下の方法でも設定できます。

- 1 [▲] ボタンを押して「小節番号」を反転表示させ、[◀]/[▶] ボタンを使って小節番号を増減します。
- 2 [▼] ボタンを押して「A点設定」を反転表示させ、[▶] ボタンを押します。
A点が設定され、B点を設定する画面になります。
- 3 同様の操作でB点も設定します。

ソングリピートの設定

MIDI オーディオ

基本操作は、49ページをご覧ください。手順4以降は、下記に従って操作します。

4-1. [▲]/[▼]ボタンを使って、リピート方法を選びます。






初期設定：Off (オフ)

Off (オフ)	くり返し再生しません。1曲が最後まで再生されると自動的に再生がストップします。
1曲	現在選ばれているソングをくり返し再生します。
すべて	現在選ばれているソングと同じフォルダー内の全曲を順番に連続再生します。
ランダム	現在選ばれているソングと同じフォルダー内の全曲をランダム(順不同)に連続再生します。

4-2. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、^{ポーズ} くり返し再生をスタートします。

リピートの設定は、ソング画面のアイコンで確認できます。



くり返し中は、ソング画面を表示すると画面右上に  (1曲)、 (すべて)、 (ランダム)が表示されます。

5. くり返し再生をやめるには、もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押してソングをストップし、手順4-1の設定を「Off (オフ)」にします。

音量バランスを調節する

MIDI オーディオ

MIDIソングを選んだ場合は、再生音と鍵盤演奏音の音量バランス、ソングの右手/左手パートの音量バランスが調節できます。オーディオソングを選んだ場合は、オーディオソングの音量調節ができます。



[MENU] ボタン
[▲]/[▼]/[◀]/[▶] ボタン
[EXIT] ボタン

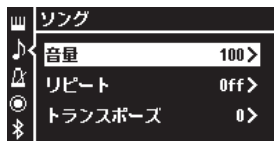
1. あらかじめ音量調節をしたいソングを選んでおきます(45ページ)。
2. ^{メニュー}[MENU] ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させ、[▲]/[▼] ボタンで「音量」を選び、[▶] ボタンを押します。



(MIDIソング選択時)
ソングメニュー画面



(オーディオソング選択時)
ソングメニュー画面



3. (MIDIソングを選んでいる場合)
「ソング - 鍵盤」または「ソング L - R」を[▲]/[▼] ボタンで選んで[▶] ボタンを押し、設定画面を表示させます。

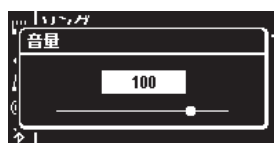
ソング - 鍵盤	MIDIソング再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節します。
ソング L - R	MIDIソングの右手パート/左手パートの音量バランスを調節します。

(オーディオソングを選んでいる場合)
オーディオ再生音量を[◀]/[▶] ボタンで調節します。調節が完了したら手順5へ進みます。

(MIDIソング選択時)



(オーディオソング選択時)

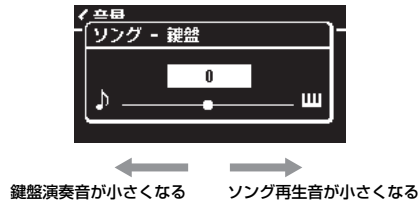


NOTE

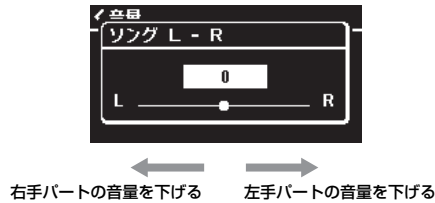
市販のミュージックデータの中には、非常に大音量のデータがあります。そのようなデータ(MIDIソング)を使用する場合、「ソング - 鍵盤」を調節してください。

4. [◀]/[▶]ボタンで設定します。

ソング - 鍵盤を選んだ場合



ソング L - Rを選んだ場合



5. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを2回押して、ソングメニュー画面を抜けます。

別のMIDIソングを選ぶと、「ソング L - R」の設定は初期設定に戻りますが、「ソング - 鍵盤」と「オーディオ音量」の設定はそのままです。

初期設定：0
設定範囲：Key+64~0~
Song+64

初期設定：0
設定範囲：L+64~0~R+64

NOTE

「ソング - 鍵盤」は、電源をオフにしても設定が記憶(バックアップ)されます。誤って音量を最小にすると、鍵盤やソングの音が鳴らなくなりまますのでご注意ください。設定を記憶するか、しないかは変更できます。詳しくは「バックアップ設定」(88ページ)をご覧ください。

再生に関するその他の機能

MIDI オーディオ

ペダルで再生/一時停止する

[AUX PEDAL]端子に接続したフットペダルや、別売のフットスイッチ、ペダルユニットの中央か左のペダルの機能を、再生/一時停止(本体前面パネルの[PLAY/PAUSE]ボタンと同じ機能)に切り替えることができます。鍵盤を弾きながらソングを再生/一時停止したいときに便利です。

この機能を使うには、[MENU]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示し、「ペダル」→「再生/一時停止」で設定します。詳しくは102ページをご覧ください。

ソングを移調する(トランスポーズ)

ソング全体を半音単位で移調(トランスポーズ)して再生できます。[MENU]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示し、「トランスポーズ」で設定します。詳しくは96ページをご覧ください。

演奏を録音する

この楽器では、下記2通りの方式で録音できます。用途に合った方式で演奏を録音してみましょう。

● ^{ミディ}MIDI録音 **MIDI**

演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして録音し、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。オーディオソングよりデータ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。トラックごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。MIDI録音で作られたソングは、あとでオーディオファイルに変換(69ページ)できるので、難しい曲をオーディオ録音したい場合などは、まずMIDI録音でパートごとに録音すると便利です。この楽器で録音できるMIDIデータのサイズは、1曲につき約500KBまでです。

● オーディオ録音 **オーディオ**

演奏をオーディオソングとして録音し、USBフラッシュメモリーに保存します。初期設定では、一般的なCD音質(44.1 kHz/16 bit)のステレオWAV形式で保存され、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。外部機器からのオーディオ入力音*も録音されるので、オーディオ機器やコンピューター、スマートフォンなどの再生音も録音できます。この楽器で録音できる時間は、1曲につき80分までです。

*オーディオ入力音

コンピューターやスマートデバイスなどの外部機器を[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子、無線LAN、Bluetoothで楽器と接続したときに、外部機器から楽器に送られるオーディオデータのことです。外部機器との接続方法は、73ページからの「他の機器と接続する」をご覧ください。

MIDIソングとオーディオソングの違いについては、44ページをご覧ください。

録音の方法

4通りの録音方法があります。録音方法によって、録音したデータはMIDIまたはオーディオになります。

● 楽器本体にMIDI録音する **MIDI** 55ページ

ピアノ曲の演奏などを、楽器本体に手軽に録音します。録音したデータは楽器本体の「ユーザー」カテゴリ(45ページ)内に保存されます。

● トラックを指定してMIDI録音する **MIDI** 57ページ

左手/右手パートを別々に録音したり、アンサンブルの曲を1パートずつ録音したりできます。たとえば、右手パートを再生させながら左手パートを録音できます。

● USBフラッシュメモリーにMIDI録音する **MIDI** 59ページ

空のソングファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDIソングに追加録音したりできます。

● USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する **オーディオ** 60ページ

オーディオ録音して、USBフラッシュメモリーに保存します。

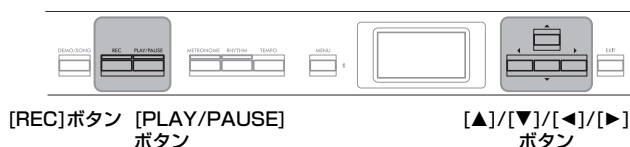
NOTE

MIDIソングは、部分的に録音し直したり、録音したソングのテンポやボイスを変更したりできます。詳しくは、「そのほかの録音方法とテクニック」(61ページ)をご覧ください。

楽器本体にMIDI録音する

MIDI

最も簡単な録音方法です。



1. 録音に使うボイスや、拍子などを設定します。

ボイスの選びかたは、20ページをご覧ください。デュアル/スプリット/デュオ(29～32ページ)を使う場合はここでオンにし、リバープ/コーラス/エフェクト(26～28ページ)をかける場合はここで選びます。メトロノーム/リズムを鳴らしながら録音することもできます。メトロノーム/リズムの拍子とテンポ(41ページ)も、ここで選んでください。

2. ^{レック}[REC]ボタンを押して、録音待機状態にします。

録音のための空のソングファイルが用意され、録音画面が表示されます。



[PLAY/PAUSE]ボタンがテンポに合わせて点滅します。
録音モードから抜きたいときはもう一度[REC]ボタンを押します。

3. 鍵盤を弾いて、録音をスタートします。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。



4. 演奏が終わったら、[REC]ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、ソングを保存するための画面が表示されます。

NOTE

右手を録音したあと左手を録音して1曲に仕上げたい場合は、「トラックを指定してMIDI録音する」(57ページ)をご覧ください。

NOTE

- メトロノームの音は録音されません。またリズム再生は、録音モードに入ったあとに行ってください。リズム再生中に録音モードに入ると、リズムが停止してしまいます。
- 音量バランス「ソング - 鍵盤」(52ページ)は記録(録音)されません。
- MIDI録音の場合、自動的に右手パート(トラック1)が指定されますが、デュアル/スプリット/デュオ/リズムを使った録音では、指定されたトラックと実際に録音されるトラックが異なります。詳しくは「トラックの割り当て」(57ページ)をご覧ください。

NOTE

[REC]ボタンを長めに押すと、録音のためのソングを選ぶリストが表示されます。この画面が表示された場合は、「新規ソング」を選んで[▶]ボタンを押してください。「新規ソング」について詳しくは、59ページをご覧ください。

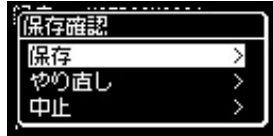
NOTE

- リズムを選択して[RHYTHM]ボタンを押すと、リズム再生と同時に録音をスタートさせることができます。
- 録音中でも、ボイスを変更したり、デュアル/スプリットをオンにしたり、レジストレーションメモリー(71ページ)に登録した設定を呼び出したりできます。



5. 録音した演奏を保存するかどうか、確認画面で選びます。

- 録音した演奏を保存する場合は、「保存」を選び、[▶]ボタンを押します。
- 保存せず、録音をやり直す場合は、[▲]/[▼]ボタンで「やり直し」を選び、[▶]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存しない場合は、[▼]ボタンで「中止」を選び、[▶]ボタンを押します。



保存が終わると「保存が完了しました」のメッセージが表示され、ソング画面に戻ります。新規ソングの場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けれられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリの中に保存されます。

6. ^{プレイ} [PLAY/PAUSE] ^{ポーズ} ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

ご注意

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり電源を切つたりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

ソング名を変更する

録音した曲は自動的に名前が付けられますが、お好みの名前に変更することができます(70ページ)。

NOTE

ソングを削除する方法は67ページをご覧ください。

NOTE

ノートデータ、ペダル操作、オクターブ設定、および拍子は、録音後に変更できません。

MIDI録音で記録されるデータの種類

パートごとに録音されるデータ

- ノートデータ(弾いた音)
- ボイス選択
- ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- リバープのかかり具合「リバープデプス」
- コーラスのかかり具合「コーラスデプス」
- エフェクトタイプ
- エフェクトのかかり具合「エフェクトデプス」
- 音の明るさ「ブライトネス」
- レゾナンス効果の設定「ハーモニックコンテンツ」
- ボイスのオクターブ設定
- ボイスごとの音量の設定
- ボイスごとの左右の音の位置の設定「パン」
- 2つのボイスの音の高さをずらす微調整(デュアルのみ)「デチューン」
- ボイスごとのタッチに対する音量変化割合の設定「タッチセンス」
- グランド・エクスペリション・モデリングに関連するデータ

全パートで共通に録音されるデータ

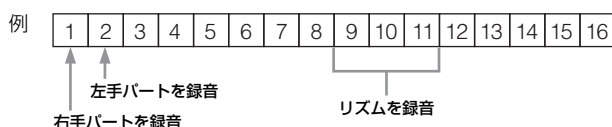
- 音律
- テンポ
- 拍子
- リバープタイプ
- コーラスタイプ

トラックを指定してMIDI録音する

MIDI

MIDI録音では、全部で16トラックで構成されるMIDIソングを、1トラックずつ録音して作り上げることができます。

たとえば、ピアノ曲の場合、右手パートをトラック1に録音したあと、左手パートをトラック2に録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、リズム(打楽器音のみ)を先に録音しておき、あとでリズムを聞きながらトラック1にメロディーを録音することもできます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音することで、1つの曲に仕上げるすることができます。



本体に録音済みのMIDIソングに追加録音する場合：

1. 「楽器本体にMIDI録音する」(55ページ)の手順1を行います。
2. 追加録音したいMIDIソングを選びます(45ページ手順1~4)。
3. [REC]ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示します。
4. 追加録音したいMIDIソングを選んで[▶]ボタンを押してから、下記手順2へ進みます。

1. 「楽器本体にMIDI録音する」(55ページ)の手順1~2と同じ方法で、録音の準備をします。
2. [◀]/[▶]ボタンで録音トラックを指定します。

リズムは追加録音できません。リズムを録音する場合は、必ず、最初に録音してください。



- 右手パートを録音したいときは、「R」を選びます。
- 左手パートを録音したいときは、「L」を選びます。
- トラック3~16のいずれかを指定したいときは、[◀]/[▶]ボタンを何度か押してトラック(Extra 3~16)を指定します。最初にリズムを録音した場合は、トラック9~11のいずれか、またはすべてにリズムが録音されていますので、それ以外のトラックを指定します。

トラックのデータの有無：

トラックに録音済みのデータがあるかどうかは、トラック名の右上に表示されるマークで確認できます。



トラックのデータの有無：

- ：データあり
- ：データなし

NOTE

USBフラッシュメモリーに録音したい場合や、USBフラッシュメモリー上のソングに追加録音したい場合は、「USBフラッシュメモリーにMIDI録音する」(59ページ)をご覧ください。

トラックの割り当て

- リズムを録音するときは、トラックを指定できません。トラック9~11に録音されます。
- デュアル/スプリット/デュオがオンのとき、指定したトラックに入るのは、デュアルの第1ボイス、スプリット/デュアルの右側のボイスのみです。デュアルの第2ボイスは、指定したトラックに6を足した番号のトラック、スプリットおよびデュオの左側のボイスは、指定したトラックに3を足した番号のトラックに入ります。16を超えた場合は、折り返して数えます。

ご注意

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。



3. 鍵盤を弾いて、録音をスタートします。

リズムを最初に録音する場合は、[RHYTHM]ボタンを押して録音をスタートさせます。

曲の始めに空白の小節を録音したいときは、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して録音をスタートさせます。

4. 演奏が終わったら、^{レック}[REC]ボタンを押して、録音を終了します。

録音モードを抜け、ソングを保存するための画面が表示されます。

5. 録音した演奏を保存するかどうか、確認画面で選びます。

- 録音した演奏を保存する場合は、「保存」を選び、[▶]ボタンを押します。
- 保存せず、録音をやり直す場合は、[▲]/[▼]ボタンで「やり直し」を選び、[▶]ボタンを押します。手順3から再スタートできます。
- 保存しない場合は、[▼]ボタンで「中止」を選び、[▶]ボタンを押します。



保存が終わると、「保存が完了しました」のメッセージが表示され、ソング画面に戻ります。新規ソングの場合は自動的に「USERSONGxxx」(xxxは数字)という名前が付けられ、楽器本体の「ユーザー」カテゴリーの中に保存されます。

6. ^{プレイ}[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。

7. 追加録音のためにもう一度録音モードに入ります。

7-1. ^{レック}[REC]ボタンを1秒以上押します。

録音対象のソングがリスト表示されます。

7-2. [▼]ボタンを押して、手順5で保存したMIDIソング(一番下に表示)を選び、[▶]ボタンを押します。



トラックに録音済みのデータがあるかどうかは、57ページ手順2の「トラックデータの有無」をご覧ください。

8. 手順2～6の方法で、別の空トラックに演奏を追加で録音していきましょう。

手順2で録音していないトラックを選び、手順3で[PLAY/PAUSE]ボタンを押して、録音済みのトラックを聞きながら録音しましょう。

NOTE

リズムのベース音は、いずれかの鍵盤を弾かないと鳴らないため、ベース音を録音したい場合は、必ず鍵盤を弾きながら録音してください。

ご注意

録音したMIDIソングを保存せずにソングを切り替えたり、電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

NOTE

録音した演奏を保存したあとに、録音をやり直したい場合は、「部分的に録音し直す」(61ページ)をご覧ください。

ソング名を変更する

録音した曲は、自動的に名前が付けられますが、好きな名前に変更することができます(70ページ)。

NOTE

早送り、早戻ししたり、ソングの先頭に戻したりする方法は、47ページをご覧ください。

ご注意

データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

NOTE

ソングを削除する方法は67ページをご覧ください。トラックごと削除する方法は、97ページの「トラック削除」をご覧ください。

USBフラッシュメモリーにMIDI録音する

MIDI

空のソングファイルに録音してUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーにある録音済みのMIDIソングに追加録音する方法です。

1. USBフラッシュメモリーを楽器の[] (USB TO DEVICE) 端子に接続します。

トウー デバイス

2. 録音のためのMIDIソングを選び、録音モードに入ります。

2-1. 録音済みのソングに追加録音したい場合は、録音済みのMIDIソングをUSBフラッシュメモリーから選びます(45ページの手順1~4)。

空のソングに録音したい場合にはこの操作は不要です。

2-2. [REC] ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示させます。



2-3. 録音のためのソングとして、「新規ソング (USB)」か、手順2-1で選んだMIDIソング(リストの一番下)を[▲]/[▼]ボタンで選び、[▶]ボタンを押します。

録音モードに入ります。

録音のためのソング	説明
新規ソング	演奏データを、本体内部に新規MIDIソングとして保存する場合には選びます。
新規ソング(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規MIDIソングとして保存する場合には選びます。
新規オーディオ(USB)*	演奏データを、USBフラッシュメモリーに新規オーディオソングとして保存する場合には選びます。
xxxxxx (手順2-1で選んだMIDIソング名)**	録音済みのMIDIソングに追加録音/上書き録音する場合には選びます。

* USBフラッシュメモリー接続時のみ選べます。

** 手順2-1でMIDIソングを選んでいない場合や、内蔵曲を選んでいた場合は表示されません。

3. 録音して保存します。

録音済みのソングに追加録音したい場合/空のソングにトラック指定をして録音したい場合：

このあとの手順は、「トラックを指定してMIDI録音する」(57ページ)の手順2~8と同様です。

空のソングに簡単録音したい場合：

このあとの手順は、「楽器本体にMIDI録音する」(55ページ)の手順3~6と同様です。

NOTE

- USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(74ページ)をお読みください。
- 録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。
システムメニュー画面：「ユーザーリテイ」→「USBプロパティ」(104ページ)

ご注意

既存のMIDIソングを選んで、データがあるトラックに録音すると、元のデータは上書きされてしまいますので、ご注意ください。

NOTE

既存のMIDIソングに上書き/追加録音する場合は、選んだソングの拍子とテンポに自動で設定されます。

USBフラッシュメモリーにオーディオ録音する

オーディオ

ここではオーディオ録音の方法を説明します。オーディオファイルはUSBフラッシュメモリーにしか保存できません。録音を始める前にUSBフラッシュメモリーを準備してください。

1. USBフラッシュメモリーを楽器の^{トウー デバイス}[●⇄](USB TO DEVICE)端子に接続します。
2. ^{レック}[REC]ボタンを1秒以上押して、録音のためのソングを選ぶリストを表示させます。
3. [▲]/[▼]ボタンで「新規オーディオ(USB)」を選び、[▶]ボタンを押します。
4. このあとの手順は、「楽器本体にMIDI録音する」(55ページ)の手順3~6と同様です。

録音画面には、録音の経過時間が表示されます。



オーディオ録音の場合、鍵盤演奏音だけでなく、Bluetoothや[AUX IN]端子などによる外部機器からのオーディオ入力音(54ページ)も一緒に録音されます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(74ページ)をお読みください。

NOTE

録音前に、USBフラッシュメモリーの空き容量を確認しておきましょう。

システムメニュー画面：「ユーティリティ」→「USBプロパティ」(104ページ)

NOTE

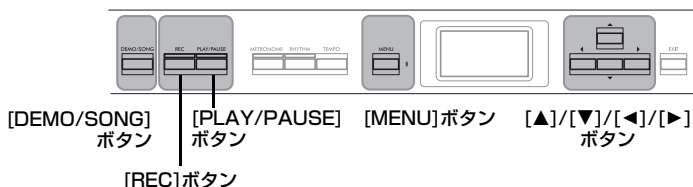
オーディオ形式での録音の場合、ボイスパートの音量(94ページ)が初期設定よりも大きいと、音がひずむことがあります。ボイスパートの音量は、録音をスタートする前に初期設定の値以下にしてください。

そのほかの録音方法とテクニック

部分的に録音し直す

MIDI

録音したMIDIソングは、部分的に上書き録音して、録音し直すことができます。自分で録音したMIDIソングを編集するときなどに便利です。



1. 録音開始/終了方法を選びます。

1-1. 録音メニュー画面が表示されるまで、[MENU] ボタンを何度か押します。



1-2. [▲]/[▼] ボタンで「録音開始」を選び、[▶] ボタンで上書き録音が始まるタイミングを選びます。

標準	録音開始と同時に、上書き録音が始まります。
押鍵	最初に鍵盤を弾いたときに上書き録音が始まります。鍵盤を弾くまでは元のデータが再生され、鍵盤を弾いたあとのデータに上書き録音されます。

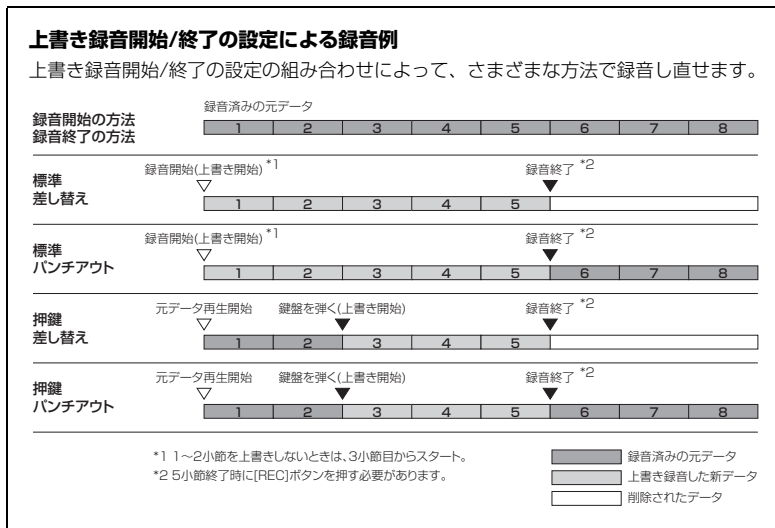
初期設定: 標準

1-3. [▲]/[▼] ボタンで「録音終了」を選び、[▶] ボタンで上書き録音の終了方法を選びます。

差し替え	録音終了よりあとのデータを消します。
パンチアウト	録音終了よりあとのデータは残ります。

初期設定: 差し替え





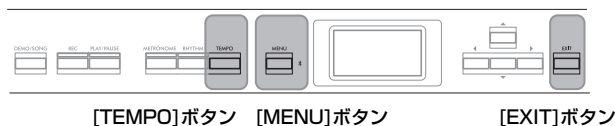
2. **[DEMO/SONG]**ボタンを押して、**デモ** **ソング** **ソング**カテゴリリストを表示させます。
3. **録音し直すMIDIソング**を選びます。
選びかたは、45ページをご覧ください。
4. **録音開始をしたい場所を指定**します。
[◀]/[▶]ボタンを押して再生位置を移動するか、[PLAY/PAUSE]ボタンを押して演奏を再生して、録音し直したい場所の手前でもう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押します。
必要に応じて、変更したい内容(ボイスやそのほかの設定)を選び直します。
ただし、拍子は変更できません。
5. **[REC]**ボタンを1秒以上押したあと、**手順3**で選んだソングを選び、**[▶]**ボタンを押します。
6. **[◀]/[▶]**ボタンで書き換えをしたいトラックを選びます。
7. **演奏を始める**、または**[PLAY/PAUSE]**ボタンを押して、**録音を開始**します。
8. **[REC]**ボタンを押して、**録音を終了**します。
9. **56ページ**の**手順5**に従って、**録音した演奏を上書き保存**します。
10. **[PLAY/PAUSE]**ボタンを押して、**録音した演奏を再生**します。

録音後にテンポやボイスなどを変更する

MIDI

MIDIソングは、録音を終えたあとも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、録音したあとでボイスを変更して違った雰囲気曲にしたり、適切なテンポに調節したりできます。曲の途中からの変更もできます。

テンポの変更



1. 変更するソングを選びます。

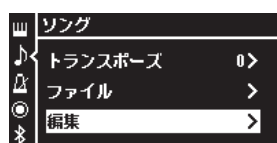
選びかたは、45ページをご覧ください。

2. ^{テンポ}[TEMPO]ボタンを押してテンポ画面を表示させ、テンポを設定します。

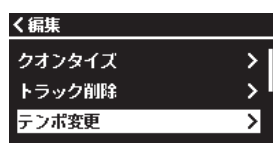
設定方法は41ページをご覧ください。

3. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面で反転表示された項目を順番に選んでいきます。

ソングメニュー画面



編集画面



3-1. [▲]/[▼]ボタンで「編集」を選択

3-2. [▶]ボタンで次へ

3-3. [▲]/[▼]ボタンで「テンポ変更」を選択

3-4. [▶]ボタンで次へ

4. [▼]ボタンを押して画面の「実行」を反転表示させ、[▶]ボタンを押します。

選んだソングのテンポが、手順2で設定したテンポに変わります。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にテンポ変更画面に戻ります。

5. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してソングメニュー画面から抜けます。

ボイスの変更

1. 変更するソングを選びます。

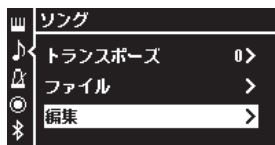
選びかたは、45ページをご覧ください。

2. 変更したいボイスを選びます。

選びかたは、20ページをご覧ください。

3. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、以下の画面イラストで反転表示された項目を順番に選んでいきます。

ソングメニュー画面



編集画面



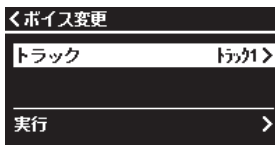
3-1. [▲]/[▼]ボタンで「編集」を選択

3-2. [▶]ボタンで次へ

3-3. [▲]/[▼]ボタンで「ボイス変更」を選択

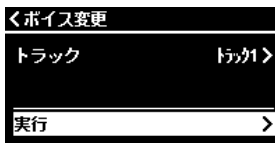
3-4. [▶]ボタンで次へ

4. [▶]ボタンを押して設定画面を表示させ、[▲]/[▼]ボタンでボイスを変更したいトラックを選びます。



5. [◀]ボタンを押して1つ前の画面に戻り、[▼]ボタンで「実行」を選び、[▶]ボタンを押します。

手順4で選んだトラックのボイスが、手順2で選んだボイスに変わります。



変更が完了すると、「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス変更画面に戻ります。

6. ^{エグジット}[EXIT]ボタンを押してソングメニュー画面から抜けます。

ソングファイル进行操作する

ソングメニュー画面(97ページ)の「ファイル」項目を選ぶと、市販のミュージックデータ、ご自分で録音したソングなどの既存のソングファイルに関する操作ができます。

USBフラッシュメモリーを使用する場合は、事前に「USB機器を接続する[](USB TO DEVICE)端子」(74ページ)をお読みください。

操作	表示	ページ
ソングを削除する	削除	66、67ページ
ソングをコピーする	* コピー	66、67ページ
ソングを移動する	* 移動	66、68ページ
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する	* オーディオ変換	66、69ページ
ソング名を変更する	名前の変更	66、70ページ

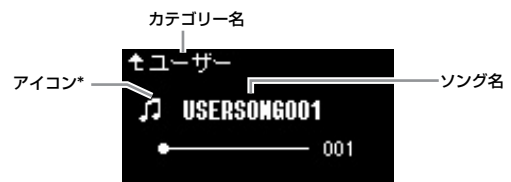
*が付いている項目は、MIDIソングが選ばれているときのみ有効です。

ファイルとは
あるデータのまとまりを1つの単位として保存したものです。ソングデータをソング名単位でソングファイルと言います。

ソングの種類とファイル操作の制限

ソング画面には、ソングの種類を示すカテゴリ名やアイコンが表示されます。ソングの種類によって、ファイル操作に下記のとおり制限があります。

*アイコンは、「ユーザー」および「USB」カテゴリのソングに表示されます。

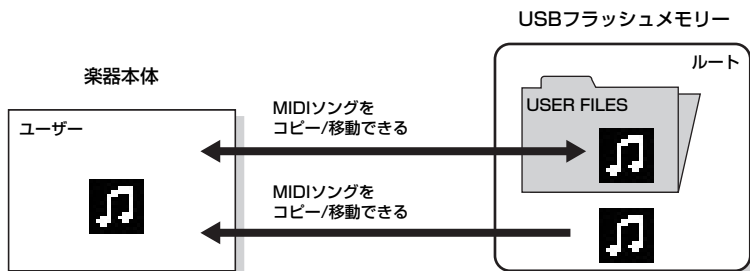


保存場所	カテゴリ	ソングの種類	アイコン	削除	コピー	移動	オーディオ変換	名前の変更
本体	クラシック50選	本体のピアノ50曲	—	×	×	×	×	×
	ユーザー	録音曲(MIDI)	🎵	○	○	○	○	○
USBフラッシュメモリー	USB	MIDIソング	🎵	○	○	○	○	○
		オーディオソング	🔊	○	×	×	×	○

コピー / 移動できる範囲

楽器本体の「ユーザー」にあるMIDIソングは、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダーへのみコピー / 移動できます。この場合「USER FILES」フォルダーの指定は自動的に行われますので、自分で指定する必要はありません。

USBフラッシュメモリー内のMIDIソングは、楽器本体の「ユーザー」へコピー / 移動できます。




ルートとは
階層構造のいちばん上の部分を表します。フォルダーに入っていない領域のことです。

USER FILESフォルダー
USBフラッシュメモリーをこの楽器で初期化したり、この楽器の演奏をUSBフラッシュメモリーに録音した場合、USBフラッシュメモリーの中に自動的に「USER FILES」という名前のフォルダーが作られ、その中にデータが保存されます。

- NOTE**
- 市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。
 - フォルダーはコピーできません。

ソングファイルの基本操作

ソングファイルの操作は以下の手順で行います。

1. 必要に応じて、USBフラッシュメモリーを[(USB
トウ デバイス
TO DEVICE)端子に接続します。

2. ファイル操作の対象となるソングを選びます。

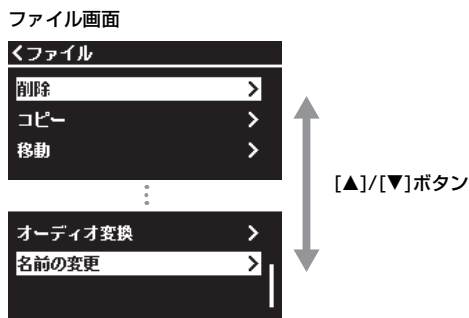
ソングの選びかたは、「ソングを再生する」(45ページ)をご覧ください。

3. 操作したい項目を選びます。

3-1. [MENU]ボタンを何度か押してソングメニュー画面を表示させてから、
[▲]/[▼]ボタンで「ファイル」を選んで、[▶]ボタンを押します。



3-2. [▲]/[▼]ボタンで操作したい項目を「削除」、「コピー」、「移動」、「オーディオ変換」、「名前の変更」のいずれかから選びます。



ここで操作を中止してファイル画面を抜けるには、[EXIT]ボタンを押します。

4. 操作を実行します。

ここでの操作は、該当する項目の手順を参照してください。

- 削除 67ページ
- コピー 67ページ
- 移動 68ページ
- オーディオ変換 69ページ
- 名前の変更 70ページ

操作中、画面にメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。その意味や対処の方法については、111ページの「メッセージ一覧」をご覧ください。

5. [EXIT]ボタンを押して、ファイル画面を抜けます。

ご注意

ファイル操作中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBフラッシュメモリーを外さないでください。USBフラッシュメモリーや楽器本体のデータが壊れたりするおそれがあります。

ソングを削除する

ソングを1曲ずつ削除します。
 削除できるソングの種類は、65ページを確認してください。
 基本操作は、66ページをご覧ください。
 手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「削除」を選び、[▶]ボタンを押します。

設定画面が表示されます。



4-2. [▼]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[▶]ボタンを押して実行します。

ソング削除後、ソングのリスト画面が表示されます。

ご注意

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

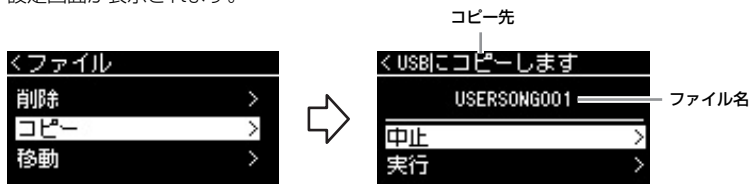
ソングをコピーする

コピーできるソングの種類と範囲は、65ページを確認してください。

基本操作は、66ページをご覧ください。
 手順4の操作は下記に従って操作します。

4-1. 「コピー」を選び、[▶]ボタンを押します。

設定画面が表示されます。



コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBにコピーします」、楽器本体の場合は「ユーザーにコピーします」と画面に表示されます。
 コピー先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーされます。

NOTE

コピー先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[▲]/[▼]ボタンで選び、[▶]ボタンを押します。

4-2. [▼]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[▶]ボタンを押して実行します。

ソングがコピーされ、ソングのリスト画面が表示されます。コピー先のファイル名は、コピー元のファイル名と同じになります。

ご注意

- 上書きした場合、コピー先のファイルのデータはすべて消去され、コピー元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。
- 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

ソングを移動する

移動できるソングの種類と範囲は、65ページを確認してください。

基本操作は、66ページをご覧ください。
手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「移動」を選び、[▶]ボタンを押します。

設定画面が表示されます。



移動先がUSBフラッシュメモリーの場合は「USBに移動します」、楽器本体の場合は「ユーザーに移動します」と画面に表示されます。
移動先がUSBフラッシュメモリーの場合、ファイルはUSBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動されます。

4-2. [▼]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[▶]ボタンを押して実行します。

ソングが移動され、ソングのリスト画面が表示されます。

NOTE

移動先にすでに同じ名前のファイルがある場合は、メッセージが表示されます。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[▲]/[▼]ボタンで選び、[▶]ボタンを押します。

ご注意

- 上書きした場合、移動先のファイルのデータはすべて消去され、移動元のファイルのデータで上書きされますのでご注意ください。
- 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

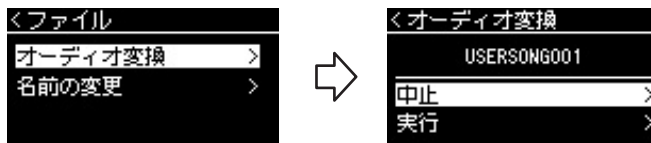
MIDIソングを再生しながらオーディオソングに変換する

楽器本体の「ユーザー」やUSBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内のMIDIソングをオーディオソングに変換できます。変換したソングは、USBフラッシュメモリーの「USER FILES」フォルダー内にしか保存できません。USBフラッシュメモリーを楽器に接続してから変換を実行してください。変換できるソングの種類は、65ページを確認してください。

基本操作は、66ページをご覧ください。
手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「オーディオ変換」を選び、[▶]ボタンを押します。

設定画面が表示されます。



4-2. [▼]ボタンを押して「実行」を反転表示させ、[▶]ボタンを押して実行します。

オーディオ変換がスタートし、ソングが再生されます。オーディオ変換中は、オーディオ録音(54ページ)と同じ状態のため、鍵盤演奏音だけでなく、Bluetoothや[AUX IN]端子などによる外部機器からのオーディオ入力音(54ページ)も一緒に録音されます。変換が終わると「オーディオ変換しました」と表示され、数秒後に、ソングのリスト画面に戻ります。

実行中に[EXIT]ボタンを押すと、変換が中止されます。中止した場合、変換内容は保存されません。

NOTE

- 変換しても、MIDIソングは元の保存場所にそのまま残ります。
- USBフラッシュメモリーを接続せずに、オーディオ変換を実行しようとする、エラーメッセージが表示されます。

ご注意

変換中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。変換中のデータが失われます。

NOTE

- 保存先に同じ名前のファイルがある場合は、上書き確認画面が表示されます。変換を続けるには[▲]/[▼]ボタンで「上書き」を選び、[▶]ボタンを押します。
- 変換して保存したオーディオソングのソング名は、元のMIDIソングと同じソング名になります。ただし、変換後のオーディオソングは、楽器の画面上のアイコン(65ページ)が変わり、コンピューター上のソングファイルの拡張子が「.wav」になります。

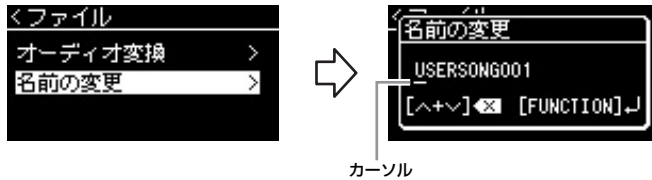
ソング名を変更する

名前を変更できるソングの種類は、65ページを確認してください。

基本操作は、66ページをご覧ください。

手順4は、下記に従って操作します。

4-1. 「名前の変更」を選び、[▶]ボタンを押して設定画面を表示させます。



4-2. ソング名を付けます。

[◀]/[▶]ボタンでカーソル(下線)を移動します。

[▲]/[▼]ボタンでカーソルの位置の文字を変更します。同時押しで文字が削除されます。

最大46文字のソング名を付けられます。画面からはみだした文字は、[◀]/[▶]ボタンでカーソルを移動し、順次表示させることができます。

4-3. [MENU]ボタンを押して実行します。

ソング名変更後、ソングのリスト画面が表示されます。名前を変更したソングが選ばれています。

NOTE

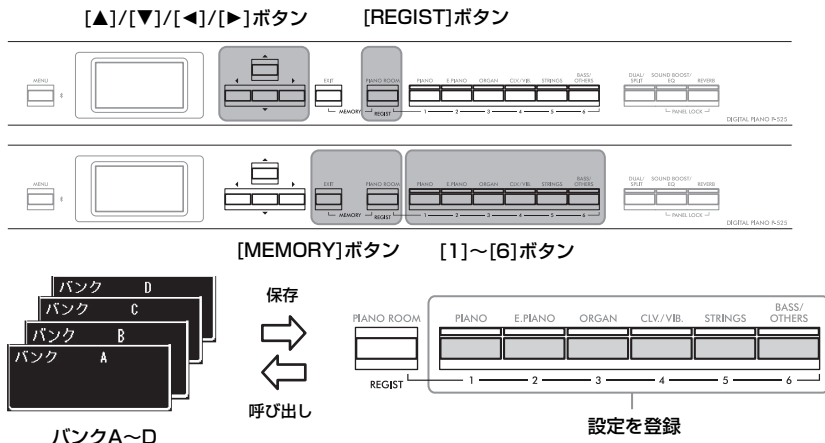
ソング名に使用できる文字の種類は、システムメニュー画面：「ユーザーティリティ」→「言語設定」(105ページ)でご確認ください。

ご注意

「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外さないでください。

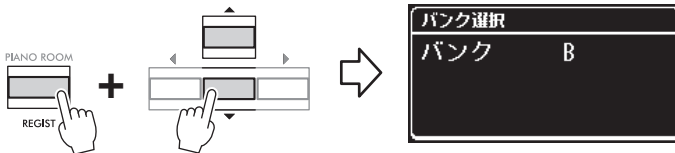
お好みの設定を登録する/呼び出す(レジストレーションメモリー)

レジストレーションメモリーは、ボイスやリズムなどの設定をボタンに登録(保存)することで、ワンタッチでその設定を呼び出せる機能です。この楽器には、バンクA~Dという4つの設定保存先が用意されており、各バンクに6つまで設定を保存できます。バンクを選んでおけば、[REGIST]ボタンを押したまま、[1]~[6]ボタンのいずれかのボタンを押すだけで、登録した設定を呼び出せます。

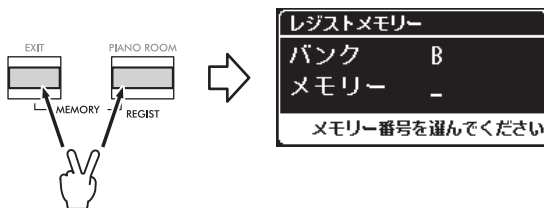


レジストレーションメモリーに設定を登録する

1. ボイスやリズムなどの設定を、登録したい状態にします。
2. ^{レジスト}[REGIST]ボタンを押したまま[▲]/[▼]ボタンを押して、設定を保存したいバンクを選びます。



3. ^{メモリー}[MEMORY]ボタンの両方を同時に押して、レジストメモリー画面を表示します。



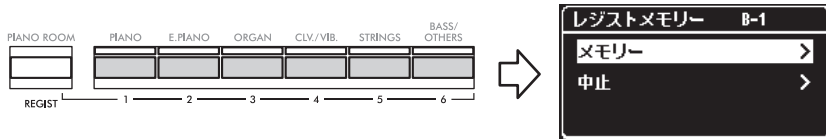
レジストレーションメモリーに登録できる設定

- ・ボイス(20ページ)
- ・デュアル(29ページ)
- ・スプリット(30ページ)
- ・サウンドブースト(37ページ):
オン/オフ、タイプ
- ・マスターEQタイプ(38ページ)、
ユーザーマスターEQ設定
(39ページ)
- ・ソングのテンポ(47ページ)
- ・メトロノームのテンポ(41ページ)
- ・リズムの種類(43ページ)
- ・ボイスメニュー
(全メニュー、93ページ)
- ・メトロノーム/リズムメニュー
(99ページ)
 - 音量
 - イントロ
 - エンディング
 - ベース
- ・システムメニュー (101ページ)
 - チューニング
 - 鍵盤
 - ペダル: ピッチバンドの範囲、
AUXペダル、Auxペダル - 機能、
Auxペダル - 範囲



4. [1]~[6]ボタンのうち、設定を登録したいボタンを押します。

レジストメモリー画面が表示されます。

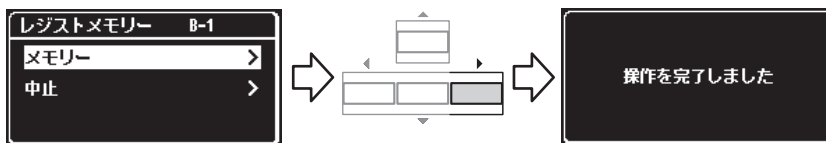


ご注意

すでに設定が登録されているボタンを押すと、設定は上書きされ、登録済みの設定は消えてしまいます。登録前に、登録済みの設定があるかどうかを確認したいときは、「レジストレーションメモリーに登録した設定を呼び出す」の手順2を行い、登録済みかどうかを確認してください。

5. [▶]ボタンを押すと、選んだ設定が登録されます。

登録が完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス画面に戻ります。



ご注意

手順5の操作中に電源が切れると、レジストレーションメモリーに登録した設定が消える場合があります。

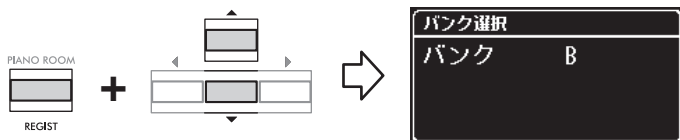
NOTE

この楽器では、登録した設定内容を一覧で確認することができないため、登録した内容はメモなどに控えておくことをおすすめします。

登録をやめるには、[▼]ボタンで「中止」を選び、[▶]ボタンを押します。

レジストレーションメモリーに登録した設定を呼び出す

1. [REGIST]ボタンを押したまま[▲]/[▼]ボタンを押して、対象の設定が保存されたバンクを選びます。

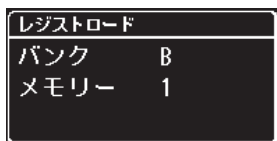


2. [REGIST]ボタンを押したまま、呼び出したい設定を登録した[1]~[6]のいずれかのボタンを押します。

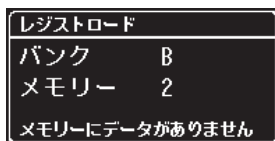
画面の「メモリー」にボタンの番号が表示され、保存した設定が呼び出されます。



設定が登録されている場合



設定が登録されていない場合

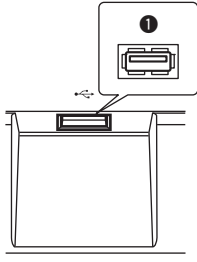


他の機器と接続する

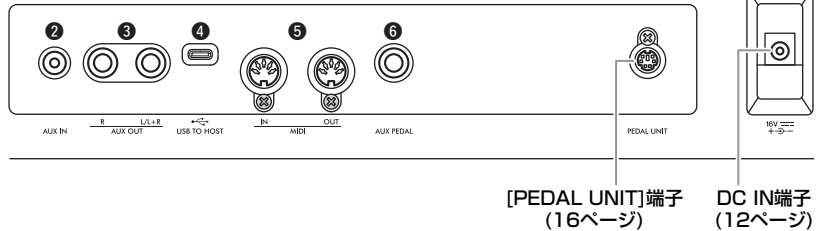
端子について

楽器の端子に他の機器を接続できます。端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。

本体前面パネル



本体背面パネル



[PEDAL UNIT]端子
(16ページ)

DC IN端子
(12ページ)

⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

① [↔] (USE TO DEVICE) 端子

USBフラッシュメモリーを接続したり、別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01) を使ってスマートフォンなどのスマートデバイスを接続したりする端子です。詳しくは、74ページの「USB機器を接続する」と、80ページの「スマートデバイスと接続してアプリを活用する」をご覧ください。[USB TO DEVICE]端子を使う前に、74ページの「[↔] (USE TO DEVICE)端子ご使用上の注意」をお読みください。

② [AUX IN]端子

スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器を接続する端子です。詳しくは75ページの「オーディオ機器を接続する」をご覧ください。

③ AUX OUT [R] [L/L+R]端子

アンプ内蔵スピーカーなどを接続する端子です。詳しくは75ページをご覧ください。

④ [USB TO HOST] 端子

コンピューターやスマートフォンなどのスマートデバイスを接続する端子です。詳しくは、76ページの「コンピューターやスマートデバイスと接続する」をご覧ください。

⑤ MIDI [IN] [OUT] 端子

シンセサイザーやシーケンサーなどのMIDI機器を接続する端子です。詳しくは、87ページの「外部MIDI機器と接続する」をご覧ください。

⑥ [AUX PEDAL] 端子

付属のフットペダルFC3Aや別売のフットスイッチFC4A/FC5を接続する端子です。詳しくは15ページをご覧ください。

NOTE

この楽器のUSB端子には、[USB TO HOST]端子と[↔] (USE TO DEVICE)端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。(端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。)

USB機器を接続する([↔])(USB TO DEVICE)端子)

[↔](USB TO DEVICE)端子には、USBフラッシュメモリーや別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)を接続します。楽器本体とUSBフラッシュメモリーでデータをやりとりしたり(65、88ページ)、別売のUSB無線LANアダプターを使ってスマートフォンなどのスマートデバイスと無線通信(82ページ)したりできます。

[↔](USB TO DEVICE)端子ご使用上の注意

本機には[↔](USB TO DEVICE)端子があります。

[↔](USB TO DEVICE)端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー
- USB無線LANアダプター (UD-WL01、別売)

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。ご購入の前に確認ください。

サポート・お問い合わせ:

<https://jp.yamaha.com/support/>

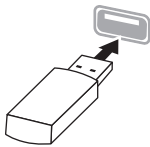
本機では、USB2.0～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。本機ではUSB1.1は使用できません。

ご注意

[↔](USB TO DEVICE)端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

[↔](USB TO DEVICE)端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



ご注意

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台のみです。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(104ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

ご注意

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合は、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

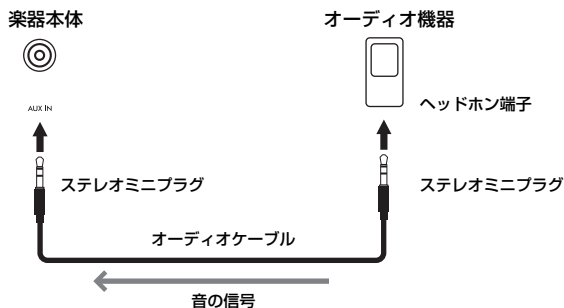
■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。

オーディオ機器を接続する([AUX IN]端子)

楽器の[AUX IN]端子と、スマートフォンや携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドホン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーなどの音を鳴らせます。

接続例



NOTE

- [AUX IN]端子からの入力音は、楽器の[VOLUME]スライダーで音量調節できます。
- オーディオケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

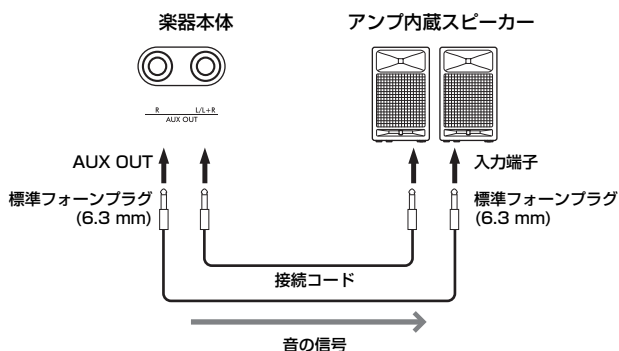
ご注意

この楽器の[AUX IN]端子を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、外部機器 → この楽器の順に、電源を切るときは、この楽器 → 外部機器の順に行ってください。

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす (AUX OUT [L/L+R]/[R]端子)

アンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出します。接続コードを使って図のように接続します。

接続例



NOTE

- モノ出力の場合(スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R]端子をご使用ください。
- オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。
- ヘッドホンを接続してAUX OUT端子の出力音をモニターする場合は、バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオプティマイザーをオフにすることをおすすめします。詳しくは14ページをご覧ください。

ご注意

- この楽器のAUX OUT端子を使う場合、外部機器の損傷を防ぐため、電源を入れるときは、この楽器 → 外部機器 (アンプ内蔵スピーカーなど)の順に、電源を切るときは、外部機器 → この楽器の順に行ってください。オートパワーオフ機能(13、104ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手動で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- AUX OUT端子から出力した音を、[AUX IN]端子に戻さないでください(AUX OUT端子と外部オーディオ機器を接続した場合は、その機器の音声出力をこの楽器の[AUX IN]端子に接続しないでください)。この楽器の[AUX IN]端子から入力された音はそのままAUX OUT端子から出力されますので、オーディオ系の発振が起り、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

AUX OUT端子から出力される音量は、楽器の[VOLUME]スライダーで調節できます。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、「スピーカー」の設定をオフにしてください。設定はシステムメニュー画面：「ユーティリティ」→「スピーカー」(104ページ)で行います。

コンピューターやスマートデバイスと接続する

この楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続すると、次のようなことができます。接続方法は、接続する機器や目的によって異なります。


- **オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能) (77ページ)**
[USB TO HOST]端子に、USBケーブルを使ってコンピューターやスマートデバイスを接続します。
- **スマートデバイスなどのBluetooth対応機器でのオーディオ再生音を楽器のスピーカーで聞く(Bluetoothオーディオ機能) (78ページ)**
スマートデバイスをBluetoothで接続します。
- **スマートデバイスと接続してアプリを活用する(80、86ページ)**
この楽器は、「スマートピアニスト」「Rec'n'Share」という2つのアプリを使えます。

コンピューターと接続する

USBケーブルを使って[USB TO HOST]端子にコンピューターを接続すると、楽器とコンピューターとの間でMIDIデータやオーディオデータを送受信できます。接続方法は77ページをご覧ください。

スマートデバイスと接続する

スマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスは、以下の方法で楽器と接続できます。

- **USBケーブルを使った接続(81、86ページ)**
[USB TO HOST]端子に、USBケーブルを使って接続します。
- **Bluetooth接続(78、81ページ)**
Bluetooth機能を使って無線で接続します。
- **Wi-Fi接続(別売の無線LANアダプター使用)(82ページ)**
別売のUSB無線LANアダプターUD-WL01を[] (USB TO DEVICE)端子に接続してWi-Fiで接続します。

ご注意

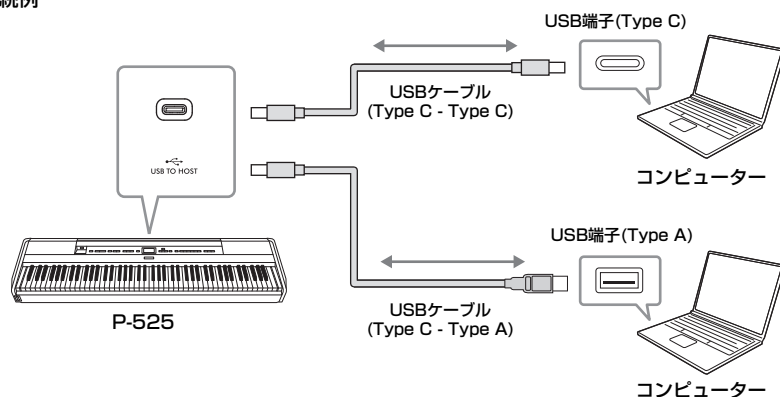
スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェイス機能)

USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスを[USB TO HOST]端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェイス機能といい、たとえば次のようなことができます。

- **オーディオデータを高音質で再生**
[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。
- **録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音**
録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

接続例



オーディオループバックのオン/オフ

USBオーディオインターフェイス機能、または、Bluetoothオーディオ(78ページ)、無線LAN(82ページ)、[AUX IN]端子(75ページ)での接続による楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合はオフにします。ただし、Bluetoothオーディオ接続と[AUX IN]端子での接続によるオーディオ入力音は、この機能のオン/オフ設定に関わらず、常に出力されます。

たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って録音するとき、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定について詳しくは「オーディオループバック」(104ページ)をご覧ください。

NOTE

- オーディオデータを送受信をWindows搭載のコンピューターで行う場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。
- 楽器へのオーディオデータの入力音の音量は、コンピューターまたはスマートデバイス側で調節してください。
- 楽器をコンピューターとUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- グランド・エクスプレッション・モデリングに関連するMIDIデータを編集をすると予期せぬ音が生じる場合があります。

ご注意

- USBケーブルは、CCタイプまたはACタイプで3メートル未満のものをご使用ください。また、充電専用ではなく、USB規格に準拠したデータ通信可能なケーブルをご使用ください。
- DAW (Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオループバックをオフにご使用ください。

NOTE

- Bluetoothオーディオや[AUX IN]端子で接続した機器には、オーディオ入力音は出力されません。
- オーディオソング(44ページ)の再生音は、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスに出力されますが、オフのときは出力されません。
- オーディオ録音(60ページ)すると、この設定がオンのときは、コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。ただし、Bluetoothオーディオや[AUX IN]端子で接続している場合は、オーディオループバックのオン/オフ設定に関わらず、常に録音されます。

スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器のスピーカーで聞く (Bluetoothオーディオ機能)

Bluetoothで接続する前に、必ず「Bluetoothに関するお知らせ」(79ページ)をお読みください。

スマートフォンなどのスマートデバイスや携帯音楽プレーヤーなどのBluetooth対応機器と接続すると、その機器で再生するオーディオデータをこの楽器のスピーカーから鳴らせます。この機能を使うには、この楽器のBluetoothの設定(79ページ)がOn(オン)になっている必要があります。あらかじめご確認ください(初期設定: オン)。



1. ^{メニュー}[MENU]ボタンを3秒押し続けます。

画面がペアリングの待機状態になります。



ペアリングを中止するには[EXIT]ボタンを押します。

2. スマートデバイスのBluetooth機能をオンにして、接続リストから「P-525 AUDIO」を選びます。

詳しい操作方法はスマートデバイスの取扱説明書をご覧ください。ペアリングが完了すると、画面に接続状況が表示されます。



3. スマートデバイスでオーディオデータを再生し、楽器から音が出ることを確認します。

1度ペアリングしたスマートデバイスは、再度ペアリングの必要はありません。次に楽器の電源を入れたとき、楽器とスマートデバイスのBluetooth機能がオンであれば、前回最後に接続したスマートデバイスと自動で接続します。自動で接続できない場合は、スマートデバイスの接続リストから再度モデル名を選択してください。

NOTE

- ここでは、Bluetoothでオーディオデータを送信できる機器のことをBluetooth対応機器とし、その一例としてスマートデバイスを使って説明します。Bluetooth対応機器は、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)に対応している必要があります。
- Bluetoothで接続してMIDIデータを送受信したい場合は81ページをご覧ください。
- Bluetoothヘッドホンやスピーカーは、ペアリングできません。

ペアリング

Bluetooth対応機器をこの楽器に登録し、無線通信できるように設定することをペアリングといいます。

NOTE

- この楽器は、最大8台のスマートデバイスとペアリング(登録)できますが、同時に接続できるのは1台のみです。9台目のスマートデバイスとのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古いスマートデバイスの情報が削除されます。
- スマートデバイス側の設定は、5分以内に行ってください。
- パスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

NOTE

スマートデバイスの入力音は、楽器の[VOLUME]スライダーで音量調節できますが、鍵盤演奏とバランスを調整したい場合、スマートデバイスの入力音の音量は、スマートデバイス側で調節してください。

Bluetooth機能のオン/オフを切り換える

Bluetooth機能を使う前に、必ず「Bluetoothに関するお知らせ」(下記)をお読みください。

初期設定ではBluetooth機能がオンに設定されていますが、接続を解除したいときや、もう一度接続しなおしたいときなど、楽器のBluetooth機能のオン/オフを設定できます。

1. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面で反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



Bluetooth画面



1-1. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

1-2. [▶]ボタンで次へ

1-3. 「Bluetooth」が選ばれていることを確認

2. [▶]ボタンを押してOn (オン)/Off (オフ)を切り換えます。

設定が終わったら、[EXIT]ボタンで画面を閉じてください。

Bluetoothに関するお知らせ

Bluetoothとは、2.4 GHz帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

• Bluetooth通信の取り扱いについて

- Bluetooth対応機器が使用する2.4 GHz帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。Bluetooth対応機器は、同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本機はすべてのBluetooth機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。

• 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、日本電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、本製品に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造する
 - 鍵盤部分の底面の銘板をはがしたり、消したりする

• 無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

スマートデバイスと接続してアプリを活用する

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続すると、「スマートピアニスト」や「Rec'n'Share」(86ページ)という2つのアプリを使えます。

各アプリの入手方法や詳細は、下記ウェブサイトの各アプリのページでご確認ください。



<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

アプリで楽器を操作する(スマートピアニスト)

アプリ「スマートピアニスト」を使うと、スマートデバイス上にプリセットソングの譜面を表示したり、スマートデバイスに演奏を録音したりできます。また、設定内容をわかりやすい表示で確認できて便利です。

上記ウェブサイトから「スマートピアニスト」をインストールしたら、楽器とアプリを以下の3つの接続方法のいずれかで接続します。

- Bluetoothでの接続(81ページ)
- USBケーブルでの接続(81ページ)
- Wi-Fiでの接続(別売の無線LANアダプターUD-WL01使用)(82ページ)

接続するには、スマートピアニストの「接続ウィザード」を使うと便利です。接続方法の詳細やアプリの使い方については、下記ウェブサイトの「スマートピアニストユーザーガイド」でご確認ください。



<https://manual.yamaha.com/mi/app/smartpianist/>

本書ではこの楽器特有の操作説明をします。楽器側で必要な設定は、以下の説明に従ってください。

ご注意

- 楽器とスマートデバイスを接続した状態でスマートピアニストを起動すると、楽器の設定が、スマートピアニストでの設定に自動的に変更されます。楽器での設定を失いたくない場合は、バックアップデータとしてUSBフラッシュメモリーに保存しておいてください(88ページ)。
- スマートデバイスを不安定な場所に置かないでください。落下して破損するおそれがあります。

NOTE

スマートピアニストの使用中は、楽器の[EXIT]ボタン以外のボタンは使えません。スマートピアニストを使って操作してください。楽器の[EXIT]ボタンを押すと、スマートピアニストとの接続が解除され、楽器で操作できるようになります。

Bluetoothでの接続

Bluetoothで接続する前に、必ず「Bluetoothに関するお知らせ」(79ページ)をお読みください。

Bluetoothでの接続には、「Bluetooth MIDI」と「Bluetooth オーディオ」の2つの方法があります。

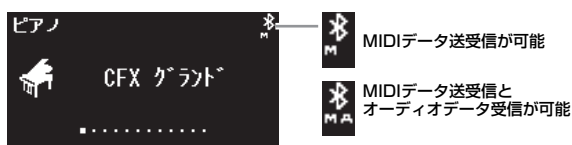
スマートピアニストを使うには、Bluetooth MIDIでの接続が必要ですが、スマートデバイス内のオーディオデータをスマートピアニストで再生するには、Bluetoothオーディオ(78ページ)での接続も必要です。Bluetoothオーディオで接続したあと、Bluetooth MIDIで接続しましょう。

1. スマートデバイス内のオーディオデータをスマートピアニストで再生するため、Bluetoothオーディオ機能の設定をします(78ページ)。
2. スマートピアニストの「接続ウィザード」を使って、Bluetooth MIDIでこの楽器と接続します。

接続先には「P-525 MIDI」を選びます。

Bluetooth接続が成功すると、ボイス画面には以下のように接続状態が表示されて、MIDIデータを送受信できるようになります。

ボイス画面



NOTE

この楽器のBluetooth機能がオフだとBluetoothで接続できません(初期設定: オン)。設定方法は79ページをご覧ください。

USBケーブルでの接続

USBケーブルを使って[USB TO HOST]端子に接続します。この方法で接続すると、MIDIデータの送受信だけでなく、オーディオデータも送受信できます(77ページ、USBオーディオインターフェース機能)。そのため、スマートデバイス内のオーディオデータをスマートピアニストで再生するだけでなく、楽器での演奏をスマートピアニスト上でオーディオ録音することもできます。

楽器とスマートデバイスとの接続方法については、86ページの接続例をご覧ください。



■ Wi-Fiでの接続(別売のUSB無線LANアダプター使用)

別売のUSB無線LANアダプターUD-WL01を[](USB TO DEVICE)端子に接続して、Wi-Fiで接続します。この方法で接続すると、MIDIデータの送受信だけでなく、オーディオデータも送受信できます。そのため、スマートデバイス内のオーディオデータをスマートピアノで再生するだけでなく、楽器での演奏をスマートピアノ上でオーディオ録音することもできます。

スマートピアノの「接続ウィザード」に従って設定すると便利です。

アクセスポイントモードによる接続(85ページ)

アクセスポイントを経由せずに、直接無線LANアダプターとスマートデバイスを接続します。接続できるアクセスポイントがない場合や、スマートデバイスとの接続中にほかのネットワークに接続する必要がない場合に、この方法で接続します。スマートデバイスはインターネットに接続できないため、スマートピアノの一部機能が制限されます。

インフラストラクチャーモードによる接続

アクセスポイントを経由して、USB無線LANアダプターとスマートデバイスを接続します。スマートデバイスとの接続中にほかのネットワークにも接続する場合に、この方法で接続します。

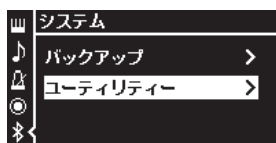
- ネットワーク一覧から選んで接続する(下記参照)
- WPSによる接続(83ページ)
- 手動接続(84ページ)

• ネットワーク一覧から選んで接続する

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[](USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面で反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



- 1-1. [▲]/[▼]ボタンで「ユーティリティ」を選択
- 1-2. [▶]ボタンで次へ

ユーティリティ画面



- 1-3. [▲]/[▼]ボタンで「無線LAN」を選択
- 1-4. [▶]ボタンで次へ

無線LAN画面



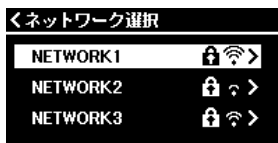
- 1-5. [▲]/[▼]ボタンで「ネットワーク選択」を選択

NOTE

無線LAN画面での表示項目が異なる場合は、楽器がアクセスポイントモードになっています。85ページの手順1で、「インフラストラクチャーモード」に設定してください。

2. [▶]ボタンを押して、楽器近くにあるネットワーク一覧を画面に表示させます。

セキュリティーが設定されているネットワークには鍵アイコン(🔒)が表示されます。



NOTE

楽器に電波が届いていない場合やSSIDを非公開にしているネットワークは、一覧に表示されません。

3. 楽器本体をネットワークに接続します。

3-1. お使いになるネットワークを選択し、[▶]ボタンを押します。

選んだネットワーク名全体が表示されますので、目的のネットワークであることを確認します。

3-2. [▶]ボタンを押します。

- 鍵アイコンが付いていないネットワークの場合：

接続が開始されます。

- 鍵アイコンが付いているネットワークの場合：

パスワード入力画面が表示されますので、パスワードを入力してください。入力方法は、「ソング名を変更する」(70ページ)のソング名の付け方と同じです。入力が終わったら[MENU]ボタンを押して確定します。すると接続が自動的に開始されます。

接続に成功すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に「ネットワーク選択」画面に戻ります。

4. スマートデバイスをアクセスポイントに接続します。

スマートデバイスのWi-Fi設定画面を開き、「P-525」が含まれるネットワーク名を選びます。パスワードを要求されたら入力してください。

• WPSによる接続

お使いのアクセスポイントがWPSに対応している場合は、パスワードなどの設定をすることなく、簡単に楽器をアクセスポイントに接続できます。

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[🔌] (USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

WPSによる接続を開始するには、USB無線LANアダプター(UD-WL01)のWPSボタンを3秒以上押します。

楽器の画面に「アクセスポイントのWPSボタンを押してください」と表示されたら、2分以内にお使いのアクセスポイント側のWPSボタンを押します。

WPSによる接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後にボイス画面が表示されます。

そのあと、スマートデバイスをネットワークに接続します(上記手順4)。

NOTE

楽器が以下の状態のとき、WPSボタンによる接続はできません。

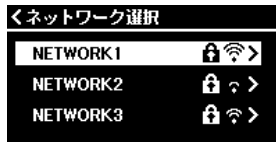
- デモモード中、ソング再生/一時停止/録音中。
- システムメニュー画面の「無線LANオプション」の「無線LANモード」がアクセスポイントモードに設定されている。



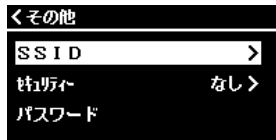
• 手動接続

必ず別売のUSB無線LANアダプターを本体の[](USB TO DEVICE)端子に接続しておいてください。接続していないと操作に必要な画面が表示されません。

1. 「ネットワーク一覧から選んで接続する」(82ページ)の手順1、2を行い、楽器の画面に「ネットワーク選択」を表示させます。



2. ネットワーク一覧の一番下の「その他」を選んで[▶]ボタンを押します。
3. 「SSID」、「セキュリティ」、「パスワード」を順に設定します。



- 3-1. 「SSID」を選び、[▶]ボタンを押して表示された画面に、アクセスポイントとしてのSSIDを入力します。
入力方法は、「ソング名を変更する」(70ページ)のソング名の付け方と同じです。
入力が終わったら、[MENU]ボタンを押して確定します。自動的に「その他」画面に戻ります。
- 3-2. 「セキュリティ」を選び、[▶]ボタンを押して表示されたセキュリティのリストから、[▲]/[▼]ボタンでセキュリティの種類を選びます。
セキュリティを選び終わったら、[◀]ボタンを押して「その他」画面に戻ります。
- 3-3. 「パスワード」はSSIDと同様の方法で設定します。

4. 手順3の画面で、一番下の項目「接続」を選び、[▶]ボタンを押すと、自動で接続を開始します。

接続が完了すると、楽器の画面に「操作を完了しました」と表示され、ネットワーク選択画面に戻ります。

5. スマートデバイスをアクセスポイントに接続します。

この操作は83ページの手順4と同様です。

NOTE

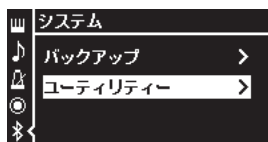
セキュリティで「なし」を選ぶと、パスワードの設定はできません。

• アクセスポイントモードによる接続

1. 楽器をアクセスポイントモードに切り替えます。

[MENU]ボタンを何度か押してシステムメニュー画面を表示させてから、以下の画面で反転表示された項目を順番に選んでいきます。

システムメニュー画面



ユーティリティー画面



- 1-1. [▲]/[▼]ボタンで「ユーティリティー」を選択
- 1-2. [▶]ボタンで次へ

- 1-3. [▲]/[▼]ボタンで「無線 LAN オプション」を選択
- 1-4. [▶]ボタンで次へ

無線LANオプション画面



- 1-5. [▲]/[▼]ボタンで「無線LAN モード」を選択
- 1-6. [▶]ボタンで次へ

無線LANモード画面



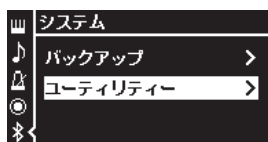
- 1-7. [▲]/[▼]ボタンで「アクセスポイントモード」を選択

完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、数秒後に無線LANモード画面に戻ります。

2. 無線LAN項目のSSID、セキュリティ、パスワード、チャンネルを設定します。

- 2-1. システムメニュー画面で、以下の画面で反転表示された項目を順番に選んでいきます。

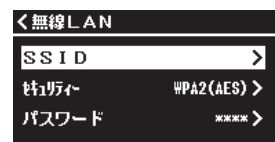
システムメニュー画面



ユーティリティー画面



無線LAN画面



- 2-2. SSID、セキュリティー、パスワード、チャンネルを設定します。

それぞれ選んで[▶]ボタンを押すと入力画面や選択画面が表示されますので、入力、選択を行います。入力方法とセキュリティーの選択方法は、手動接続の手順3と同様です。それぞれの項目の設定範囲については、106ページの「無線LAN (アクセスポイントモード時)」をご覧ください。



3. 設定を保存します。

無線LAN画面の一番下の項目「保存」を選び、[▶]ボタンを押すと、設定の保存を開始します。保存が完了すると、画面に「操作を完了しました」と表示され、ユーティリティ画面に戻ります。

4. スマートデバイスと楽器(アクセスポイント)を接続します。

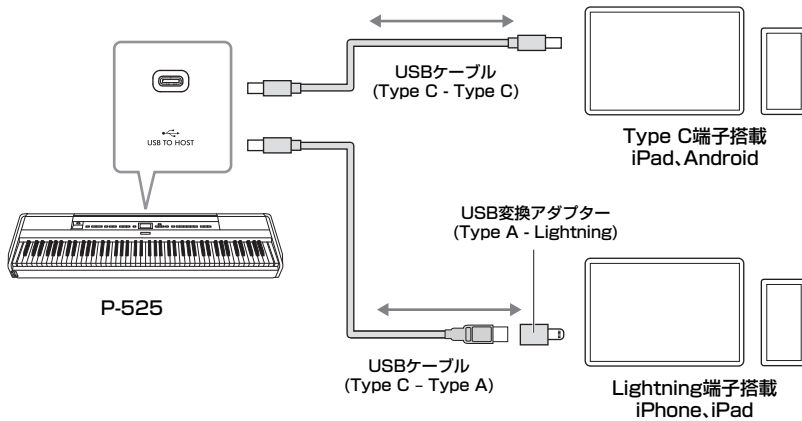
この操作は83ページの手順4と同様です。

楽器演奏を撮影、録音、編集する(Rec'n'Share)

Rec'n'Shareは、楽器の演奏を撮影、録音、編集したり、それらのデータをSNSなどにアップロードしたりすることができるアプリです。入手方法については、80ページをご覧ください。

Rec'n'Shareを使うには、楽器とスマートデバイスを市販のUSBケーブル(CCタイプまたはACタイプ)やスマートデバイスのコネクタ形状に合った変換アダプターで接続する必要があります。

接続例



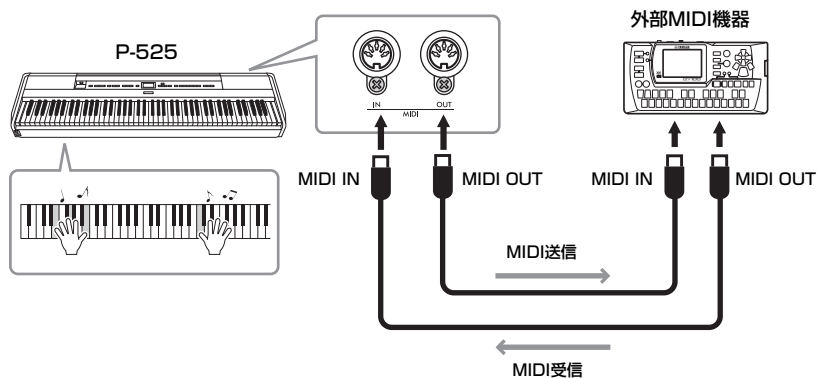
ご注意

USBケーブルは、CCタイプまたはACタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。また、充電専用ではなく、USB規格に準拠したデータ通信可能なケーブルをご使用ください。

外部MIDI機器と接続する(MIDI端子)

MIDIケーブルを使って、この楽器と外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

- MIDI [IN]: MIDIデータを受信する端子です。
- MIDI [OUT]: MIDIデータを送信する端子です。



注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

NOTE

- ヤマハウェブサイト(2ページ)で、MIDIについての基礎知識を説明した「MIDI入門」をご覧ください。
- MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるMIDIデータだけが送受信できることとなります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、ウェブサイト(2ページ)上の「データリスト」をご覧ください。
- この楽器から他の機器にMIDIデータを送信すると、グランド・エクスペクション・モデリングに関連するMIDIデータにより、予期せぬ音が生じることがあります。

バックアップと初期化

■ バックアップ設定

(電源をオフしても設定が消えない項目を選ぶ)

バックアップ設定(下記)の一部の設定が、電源が切れても記憶されるかどうかを設定します。バックアップ設定は、「ボイス」(ボイス選択などさまざまな関連設定)と「その他」(くり返し再生やチューニングなどの設定)の2グループに分かれており、それぞれ個別に記憶されるかどうかを設定できません。

電源をオフにしても消えないデータ/設定

- 「ユーザー」カテゴリ (45ページ)に保存されたMIDIソング
- システムメニュー (101ページ)
Bluetooth On/Off
鍵盤(デュオタイプのみ)
ユーティリティ
- バックアップ設定(本項で説明)
- レジストレーションメモリー (71ページ)

1. [MENU] ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
2. [▲]/[▼] ボタンで「バックアップ」を選び、[▶] ボタンで次の画面を呼び出したあと、「バックアップ設定」を選びます。
3. [▶] ボタンで次の画面を呼び出したあと、「ボイス」を選び、[▶] ボタンで「On (オン)」または「Off (オフ)」を選びます。
「ボイス」には下記項目があります。
 - R1/R2/Lボイス選択
 - ボイスメニューの全項目(トランスポーズ以外)
4. [▼] ボタンで「その他」を選び、[▶] ボタンで「On (オン)」または「Off (オフ)」を選びます。
「その他」には下記項目があります。
 - ソングメニュー：ソングリピート、音量(ソング-鍵盤)、オーディオ音量、クイックプレイ、再生トラック
 - メトロノーム/リズムメニュー：音量、BPM、ベル、イントロ、エンディング、ベース音
 - システムメニュー：チューニング、鍵盤(デュオとデュオタイプを除く)、ペダル、音響、MIDI
 - サウンドブースト、マスターEQ
5. [EXIT] ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

■ バックアップ

(バックアップファイルを保存する)

楽器に保存したソングデータや楽器の設定をUSBフラッシュメモリーにバックアップファイル(ファイル名:「p-525.bup」)として保存できます。このバックアップファイルは、あとで楽器本体に呼び戻すことができます。ただし、レジストレーションメモリー (71ページ)はバックアップファイルに含まれません。

ご注意

- この機能の実行には1~2分かかります。
実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- 既に同じバックアップファイル(p-525.bup)がUSBフラッシュメモリーに保存されている場合、この機能の実行によりファイルは上書きされます。

1. USBフラッシュメモリーを[◀▶] (USB TO DEVICE)端子に接続します。
2. [MENU] ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
3. [▲]/[▼] ボタンで「バックアップ」を選び、[▶] ボタンで次の画面を呼び出したあと、「バックアップ」を選びます。
4. [▶] ボタンで次の画面を呼び出したあと、「実行」を選びます。
5. [▶] ボタンでバックアップを実行します。
6. [EXIT] ボタンでシステムメニュー画面を抜けます。

NOTE

バックアップファイル内の設定を呼び戻したい場合は、リストア機能(89ページ)を実行します。

■ リストア

(バックアップファイルを読み込んで再起動する)

バックアップ機能(88ページ)で保存したバックアップファイル(ファイル名:「p-525.bup」)を楽器本体に読み込むことができます。

ご注意

- この機能の実行には1~2分かかります。
- 実行中(「操作を実行しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。
- 重要なデータが本体内部メモリーにある場合は、リストアを実行する前に、68ページの操作に従って必ずUSBフラッシュメモリーなど本体外部へ移動してください。リストア実行により、重要なデータが消えてしまうので十分ご注意ください。

1. バックアップファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを、[•←→](USB TO DEVICE)端子に接続します。
2. [MENU]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
3. [▲]/[▼]ボタンで「バックアップ」を選び、[▶]ボタンで次の画面を呼び出したあと、「リストア」を選びます。
4. [▶]ボタンで次の画面を呼び出したあと、「実行」を選びます。
5. [▶]ボタンでリストアを実行します。

リストアが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

■ ファクトリーリセット(初期化)

(工場出荷時の状態を呼び出して再起動する)

バックアップ設定(88ページ)を消去し、楽器本体の設定を工場出荷時の状態に戻します。下記の設定は消去されません。

- 「ユーザー」カテゴリ(45ページ)に保存されたMIDIソング
- Bluetooth(78ページ)のペアリング情報
- レジストレーションメモリー(71ページ)

ご注意

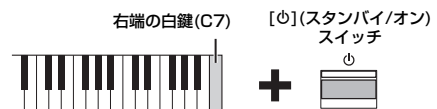
この機能の実行中(「楽器を初期化しています」が表示されている間)は電源を切らないでください。データ損失の原因になります。

1. [MENU]ボタンを何回か押して、システムメニュー画面を選びます。
2. [▲]/[▼]ボタンで「バックアップ」を選び、[▶]ボタンで次の画面を呼び出したあとで「ファクトリーリセット」を選びます。
3. [▶]ボタンで次の画面を呼び出したあと、「実行」を選びます。
4. [▶]ボタンでファクトリーリセットを実行します。

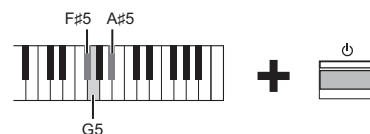
ファクトリーリセットが終わるとメッセージが表示され、数秒後に楽器が再起動されます。

● 工場出荷時の状態に戻す他の方法

右端の白鍵(C7)を押したまま電源をオン([⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押す)にしても、初期設定に戻すことができます。「ユーザー」カテゴリのソングやBluetoothのペアリング情報、レジストレーションメモリーは消去されません。



● 楽器のすべてのデータ、設定を工場出荷時の状態に戻す(オールメモリクリア)



F#5、G5、A#5の3つの鍵盤を押したまま、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押すと、バックアップ設定に加えて、以下のデータも工場出荷時の状態に戻せます。

- 「ユーザー」カテゴリに保存されたMIDIソング
- Bluetoothのペアリング情報
- レジストレーションメモリー

ご注意

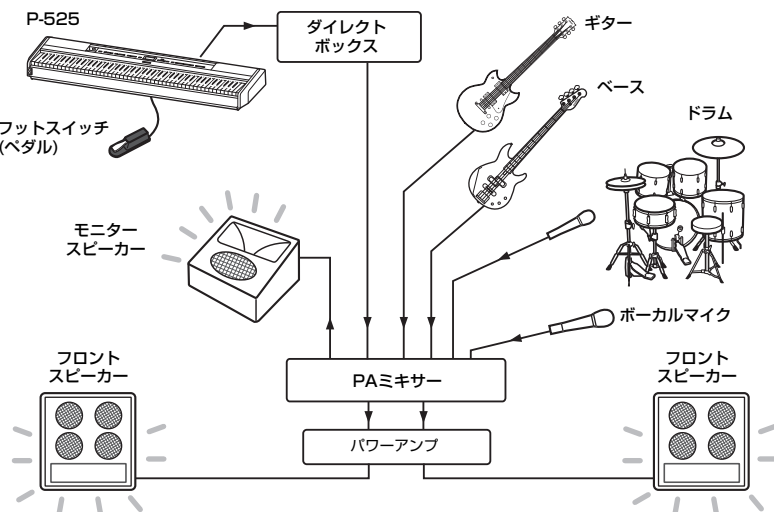
この操作を実施すると、すべてのデータが消去されます。消去したくない重要なデータがある場合は、あらかじめUSBフラッシュメモリーなどに保存してください(67、88ページ)。

ステージで演奏する

この楽器はライブや弾き語りなど、ステージでの演奏に便利な機能を装備しています。ここでは、実際にライブでこの楽器を演奏する際の接続やセッティングについて説明します。

ステージのセッティングと信号の流れ

この楽器の演奏音はPAミキサーに送られ、フロントスピーカーから客席に流されます。自分の演奏やほかの楽器の音を聞くために、演奏者の足元にモニタースピーカーが用意されることもあります。



ご注意

接続の前に必ずお読みください。

- すべての接続は、電源を切った状態で行ってください。
- ケーブルの抜き差しや電源のオン/オフをするときは、必ずPAオペレーター (PAミキサーを操作する人) に確認してください。確認せずに行くと、PA機器を損傷するおそれがあります。

● フットスイッチ(ペダル)を接続する

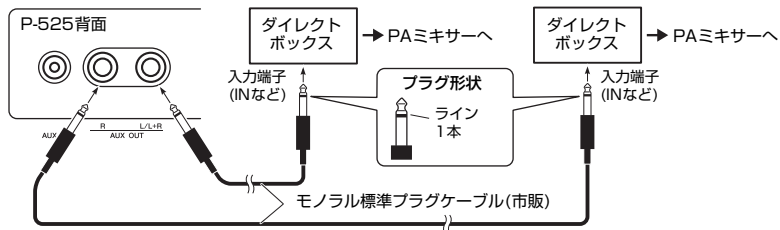
フットペダルやフットスイッチの使い方、各ペダルに割り当てられる機能については、15ページをご覧ください。

● 出力をPAミキサーに接続する

この楽器の演奏音をPAミキサーの入力端子に送ります。一般的には、ステージ上に用意されている「ダイレクトボックス」と接続します。

下記手順で、この楽器のAUX OUT [L/L+R]端子、[R]端子とダイレクトボックスの入力端子とを、市販のモノラル標準プラグケーブルで接続してください。

- 1 [VOLUME]スライダーをMINにします。
- 2 PAオペレーターに接続してよいかどうか確認します。
- 3 下図のとおり、接続します。



これで接続は完了です。次に演奏時のサウンドを設定します。

NOTE

- 楽器に接続したヘッドホンで楽器の音をモニターしながら、外部スピーカーを接続して、ピアノボイスで演奏する場合は、「バイノーラルサンプリング」や「ステレオフォニックオプティマイザー」をオフにすることをおすすめします (14ページ)。
- ダイレクトボックスが1チャンネル分しか用意されていない場合は、AUX OUT [L/L+R]端子とダイレクトボックスをモノラル標準プラグケーブルで接続します。LとRの信号はミックスされ、モノラル出力されます。
- ダイレクトボックスがない場合は、PAミキサーやステージ上のサブミキサーの入力端子と直接接続します。

サウンドの設定

各楽器のセッティングができると、PAオペレーターから楽器(ドラム、ベース、ギター、キーボードなど)ごとに音を出すよう指示があります。音を出す準備をしておきましょう。

● この楽器の電源を入れる

この楽器の[VOLUME]スライダーをMINにし、PAオペレーターに電源を入れてよいことを確認した上で、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

● セッティングを確認する

- ・ 楽器が以下の状態になっていることを確認します。
 - 音の高さが他の楽器と合っている(マスターチューニング、35ページ)。
 - オートパワーオフ機能がオフ(無効)に設定されている(13ページ)。
 - フットペダルやフットスイッチの機能が「サステイン(連続)」になっている(17ページ)。
 - リバープがオフに設定されている(26ページ)。(一般的にPAミキサー側でリバープをかけます。)
- ・ 必要に応じて、楽器のスピーカーをオフに設定します(104ページ)。
- ・ 必要に応じて、レジストレーションメモリーに登録した設定を呼び出します(71ページ)。

● キーボードのサウンドを決定する

PAオペレーターからキーボードの音出しの指示があったら、実際に演奏して以下のような状況での音決めをしていきます。

- ・ バッキング演奏の際の音量
- ・ ソロなど最も大きな音で演奏する際の音量
- ・ 使う音色ごとの音量

楽器全体音量の設定

一番大きな音量で演奏するときは[VOLUME]スライダーの位置を最大(MAX)の8~9割程度に設定します。バッキングのときは5~7程度を目安とします。大きすぎると音がひずみ、小さすぎるとノイズが目立つ可能性があります。

サウンドブースト(37ページ)の設定

バンドの中でこの楽器の音が目立たないと感じる場合にオンにします。3つのタイプから最適なタイプを選んでください。

マスター EQ(38ページ)の設定

演奏に適した音にしたい場合に設定します。

● バンド全体のサウンドを決定する

楽器ごとのサウンドを決定したら、バンドで曲を演奏して全体のサウンドを決定します。自分の近くにあるモニタースピーカーからの音をチェックします。自分の演奏音、ボーカル、他の楽器音など、音量のバランスで要望があれば、PAオペレーターに調整を依頼します。

これで、演奏前のセッティングは終了です。

パネルをロックして誤操作を防ぐ

演奏(本番)中に誤って本体パネル上のボタンに触れて設定が変わることを防ぐため、パネルロック機能の使用をおすすめします。この機能の詳細は、40ページをご覧ください。

詳細設定(メニュー画面)

[MENU]ボタンを押すことにより、ボイス、ソング再生、メトロノーム、録音、楽器の全体設定に関する詳細設定画面を呼び出すことができます。

メニュー画面の基本操作



[MENU]ボタン [▲]/[▼]/[◀]/[▶] ボタン [EXIT]ボタン

1. 必要に応じて、設定したいボイスやソングを選択しておきます。

- ボイスに関する設定をする場合は、ボイスを選択しておきます。
- R1/R2/Lボイス(29～31ページ)同士のバランスなど調整したい場合は、デュアル/スプリット/デュオをオンにしておきます。
- くり返し再生などソング関連の設定をする場合は、ソングを選択しておきます。
- 録音したMIDIソングデータを編集する場合は、ユーザーソングを選択しておきます。

2. ^{メニュー}[MENU]ボタンを何回か押してメニューを選択します。

[MENU]ボタンをくり返し押すと表示されるメニューが切り替わります。
選んだメニューは画面上部のメニュー名と、左側のアイコンで確認できます。

- 🔊 ボイスメニュー (93ページ)
- 🎵 ソングメニュー (96ページ)
- 🎛️ メトロノーム/リズムメニュー (99ページ)
- 🎙️ 録音メニュー (100ページ)
- ⚙️ システムメニュー (101ページ)

3. [▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンを使って項目を選択します。

選んだメニューに応じて内容は異なります。各メニューの一覧表は、縦方向を[▲]/[▼]ボタンで、横方向を[◀]/[▶]ボタンで選択/切り換えできます。

	[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]
L/R	R、L、その他	—	
リピート	A - B*	(設定画面)	
	フレーズ*	フレーズ マーク	

4. 手順3で呼び出した画面上で、設定値を選択したり、機能を実行したりします。

ほとんどの画面では設定値を選びますが、ソングメニューの「編集」やシステムメニューの「バックアップ」「USBフォーマット」など一部の項目では処理を実行します。

ポップアップ画面が表示された場合は、[◀]/[▶]ボタンで値を設定し、[EXIT]ボタンで画面を閉じてください。

設定値が2つしかない場合は(オンとオフなど)、[▶]ボタンを押すたびに、2つの値を切り替えられます。

ポップアップ画面



5. 設定が終わったら、^{エグジット}[EXIT]ボタンでメニュー画面から抜けます。

☐ ボイスメニュー

ボイスメニューでは、ボイス(音色)をはじめとして鍵盤演奏に関する詳細設定ができます。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイス(またはボイスの組み合わせ)ごとに個別に設定できます。鍵盤を弾いて音を聞きながら数値を変更して、好みのサウンドを設定しましょう。なお、デュアル/スプリット/デュオのボイスを設定するときは、デュアル/スプリット/デュオをオンにしてから、操作を始めてください。

NOTE

* が付いている項目は、デュアル/スプリット/デュオがオンの場合のみ表示されます。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
トランス ポーズ	(設定画面)	—	34ページの「キー(調)を変える(トランスポーズ)」をご覧ください。		
ピアノ設定	大屋根の開閉	(設定画面)	24ページの「大屋根の開閉」をご覧ください。		
	VRM	—	24ページの「VRM」をご覧ください。ただし、ボイスメニューのピアノ設定ではデモの再生はできません。		
	ダンパー レゾナンス	(設定画面)	NOTE VRMに対応のボイスは、ピアノグループのボイス(108ページ)のみです。		
	ダンパー ノイズ	—			
	ストリング レゾナンス	(設定画面)			
	アリコート レゾナンス	(設定画面)			
	ボディ レゾナンス	(設定画面)			
	グランドExp. (グランドエクス プレッション)	—		25ページの「グランドエクスプレッション」をご覧ください。ただしボイスメニューのピアノ設定ではデモの再生はできません。	
			NOTE グランド・エクスプレッション・モデリングは「CFXグランド」のボイスのみに効果がかかります。		
リバーブ	(設定画面)	—	26ページの「リバーブ」をご覧ください。		
コーラス	(設定画面)	—	27ページの「コーラス」をご覧ください。		

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。						
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲	
ボイス編集	ボイス名*	オクターブ	鍵盤音の高さをオクターブ単位で上下にシフトします。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定できます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-2 (2オクターブ下)~0 (シフトしない)~+2 (2オクターブ上)	
		音量	ボイスの音量を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127	
		リバーブの深さ (26ページ参照)	現在選択されているリバーブの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRMボイスが複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。ソング再生中はソングパートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、ソング停止時はボイスパートでの設定(優先順位: ボイス右1、ボイス左、ボイス右2)が使用されます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~40	
		コーラスの深さ (27ページ参照)	現在選択されているコーラスの深さ(かかり具合)を調整します。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定することでバランスを調整します。設定値が0の場合、効果はかかりません。 NOTE VRMボイスが複数パートに使用されている場合、予期しない音になることがあります。優先パートの設定が、パート間共通の設定になるためです。ソング再生中はソングパートでの設定(優先順位: チャンネル1、チャンネル2...チャンネル16)、ソング停止時はボイスパートでの設定(優先順位: ボイス右1、ボイス左、ボイス右2)が使用されます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0~127	
		エフェクト	28ページの「エフェクト」をご覧ください。			
		ロータリー SP	エフェクトタイプに「ロータリー」を選んだボイスにだけ有効です。ロータリースピーカーエフェクトの回転スピードを設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	速い、遅い	
		パイプローター	エフェクトタイプに「パイプローター」を選んだボイスにだけ有効です。パイプローター効果をかける/かけない(オン/オフ)を設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On (オン)、Off (オフ)	
		スピード	エフェクトタイプに「パイプローター」を選んだボイスにだけ有効です。ビブラフォン独特のビブラト(音揺れ)のスピードを設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	1~10	
		エフェクトの深さ	エフェクト(上記)のかかり具合を、ボイスごとに設定します。エフェクトタイプの中にはかかり具合の設定ができないものがあります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	1~127	
		パン	選択中のボイスが、左右のどのあたりから聞こえてくるようにするかを、個別に設定します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	L64 (左寄り)~C (中央)~R63 (右寄り)	
ハーモニックコンテンツ	フィルターのレゾナンス値を上げることで、音に独特のクセを付けることができます。デュアル/スプリット/デュオがオンの場合は、ボイスごとに設定できます。 NOTE ボイスによっては、効果のかかり具合がわかりにくい、もしくは効果がかからないものがあります。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-64~+63			

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「ボイスメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
ボイス編集	ボイス名*	ブライトネス	選択中のボイスの明るさを調節します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	-64~+63
		タッチセンス	鍵盤を弾いたときの強さに対する音量変化の幅/音量の出やすさを設定します。ハーブシコードやオルガンなどのボイスは、鍵盤を弾いたときの強さによる音量変化がない楽器なので、初期設定は127(音量が一定音量)になっています。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	0(音量が出にくい)~64(音量変化幅が最大)~127(音量が出やすく一定音量)
		右ペダル	選択中のボイスに対し、右ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットがオンのとき、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On(オン)、Off(オフ)
		中ペダル	選択中のボイスに対し、中央のペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットがオンのとき、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On(オン)、Off(オフ)
		左ペダル	選択中のボイスに対し、左ペダルの機能をオン/オフします。たとえばスプリットがオンのとき、右手演奏にはペダル効果をかけたいが左手演奏にはかけたくない場合などに活用します。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	On(オン)、Off(オフ)
ペダル割り当て (別売のペダルユニット使用時、16ページ参照)	右ペダル	(設定画面)	右ペダルに、ダンパーペダル(サステイン)とは違う機能を割り当てます。	サステイン(連続)	ペダル機能リスト参照(17ページ)
	中ペダル	(設定画面)	中央のペダルに、ソステヌートペダルとは違う機能を割り当てます。	ソステヌート	ペダル機能リスト参照(17ページ)
	左ペダル	(設定画面)	左ペダルに、ソフトペダルとは違う機能を割り当てます。	<ul style="list-style-type: none"> ジャズオルガン、ロックオルガン 選択時: ロータリースピード ピブラフォン 選択時: バイブローター 上記以外のボイス 選択時: ソフト 	ペダル機能リスト参照(17ページ)
バランス*	音量 R2 - R1*	(設定画面)	デュアルがオンの場合は2つのボイスの音量バランスを調整します。[◀]/[▶]ボタンで調整後、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を閉じます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	R2+10~0~R1+10
	音量 L - R*	(設定画面)	スプリット/デュオがオンの場合の左手鍵域と右手鍵域の音量バランスを調整します。デュオがオンの場合は左右パートの音量バランスを調整します。[◀]/[▶]ボタンで調整後、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を閉じます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	L+10~0~R+10
	デチューン*	(設定画面)	デュアルで選択した2つのボイスのピッチ(音高)を微妙にずらすことで、音の厚みを増します。画面上でスライダーを右へ動かすほど、R1(第1ボイス)のピッチが高く、R2(第2ボイス)のピッチが低くなります。スライダーを左へ動かすほど、R1(第1ボイス)のピッチが低く、R2(第2ボイス)のピッチが高くなります。調整が終わったら、[EXIT]ボタンでポップアップ画面を閉じます。	ボイスまたはボイスの組み合わせによる	R2+20~0~R1+20

🎵 ソングメニュー

ソングメニューでは、ソング再生に関するさまざまな設定や、ソングデータの修正ができます。必要に応じてソングを選択してから、操作を始めてください。

NOTE

- ・ * が付いている項目は、MIDIソングが選ばれているときのみ表示され、オーディオソング選択時は表示されません。
- ・ ** が付いている項目は、オーディオソングが選ばれているときのみ表示されます。
- ・ 「編集」の機能を使う場合は、デモ曲、クラシック50選以外のMIDIソングを選んでください。
- ・ 「実行」は、現在選択されているソングデータを修正する機能です。[▶]ボタンを押すことでソングデータが書き換わるので十分ご注意ください。
- ・ MIDIソングが選ばれているときとオーディオソングが選ばれているときで、一部項目の順番や表示が異なります。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「ソングメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
L/R* (48ページ 参照)	R、L、その他	—	ソング再生をトラックごとにオフ(ミュート)します。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
リピート (49ページ 参照)	A - B*	(設定画面)	現在選択されているMIDIソングの一部(A点~B点)を、くり返し再生する機能(ABリピート)です。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)
	フレーズ*	フレーズ マーク	フレーズマークが入っているMIDIソングが選ばれている場合のみ有効です。「リピート」をオンにし、フレーズマークの番号を指定することで、ソングの該当フレーズから再生したり、そのフレーズだけをくり返し再生させたりします。「フレーズ」がオンの場合に[PLAY/PAUSE]ボタンを押すと、カウント音に続いて指定のフレーズ番号から再生が開始され、もう一度[PLAY/PAUSE]ボタンを押すまでくり返し再生されます。	000	000~その曲の 最終フレーズ番 号
		リピート		Off (オフ)	On (くり返し再 生)/Off (くり返 ししない)
	ソング	(設定画面)	特定の曲だけを順に再生したり、ランダムに再生したりします。	Off (オフ)	Off (オフ)、1曲、 すべて、ランダ ム
音量 (52ページ 参照)	ソング - 鍵盤*	(設定画面)	ソング再生音と鍵盤演奏音の音量バランスを調節します。	0	Song+64~0~ Key+64
	ソング L - R*	(設定画面)	ソング再生音の右手パートと左手パートの音量バランスを調節します。	0	L+64~0~ R+64
	(設定画面)**		オーディオソングの音量を調節します。	100	0~127
トランス ポーズ (53ページ 参照)	(設定画面)	—	鍵盤の音の高さを変えずに、再生するソングだけを、半音単位で移調(=トランスポーズ)します。たとえば、トランスポーズ量を「5」に設定すると、「八長調」のソングは「へ長調」で再生されます。 NOTE ・ 外部から入力されたオーディオ音声はトランスポーズされません。 ・ MIDIソングの演奏情報(ノートオン/オフ)をMIDI送信する場合、ノートナンバーは本来の値にトランスポーズ値を加えた値で送信されます。ノートオン/オフをMIDI受信した場合は、受信したままのノートナンバーで発音します(トランスポーズされません)。 ・ オーディオソングのトランスポーズを変更した場合、曲によっては音質が変わることがあります。	0	-12 (-1オク ターフ)~0 (標準 ピッチ)~+12 (+1オクターフ)

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「ソングメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
ファイル	削除 (67ページ参照)	中止	ソングを削除します。ファイル操作が可能なソングについては、65ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—
	コピー* (67ページ参照)	中止	MIDIソングのコピーを別の場所に保存します。ファイル操作が可能なソングについては、65ページをご覧ください。	—	—
		実行		—	—
	移動* (68ページ参照)	中止	MIDIソングの保存場所を移動します。ファイル操作が可能なソングについては、65ページをご覧ください。	—	—
実行		—		—	
オーディオ変換* (69ページ参照)	中止	MIDIソングをオーディオソングに変換します。ファイル操作が可能なソングについては、65ページをご覧ください。	—	—	
名前の変更 (70ページ参照)	(設定画面)	ソング名を変更します。ファイル操作が可能なソングについては、65ページをご覧ください。	—	—	
編集*	クオンタイズ (演奏タイミングのずれを修正)	クオンタイズ	現在選択されているMIDIソングの各音符の位置を、8分音符や16分音符などのタイミングに正確に移動することでソングデータを修正する機能です。 1. 「クオンタイズ」でクオンタイズの分解能(修正する音符の単位)を設定します。 2. 強さでクオンタイズをかける効果の強さを設定します。 3. 「実行」にカーソルを合わせて[▶]を押すことでデータ修正を実行します。	1/16	「クオンタイズ設定範囲」参照(98ページ)
		強さ		100%	0%~100% 「強さによる修正データの違い」参照(98ページ)
		実行		—	—
	トラック削除 (ソングトラックの削除)	トラック	現在選択されているMIDIソングのデータを、トラックごとに削除する機能です。 1. 「トラック」で削除対象のトラックを選択します。 2. 「実行」にカーソルを合わせて[▶]を押すことで、指定トラックのデータ削除を実行します。	トラック1	トラック1~トラック16
		実行		—	—
	テンポ変更 (ソングデータのテンポ変更、63ページ参照)	中止	選択されているMIDIソングのテンポ値を現在のテンポ値に変更し、ソングデータとして修正する機能です。ソングメニュー画面を呼び出す前に、テンポを変更したい値に設定しておいてください。 「実行」にカーソルを合わせて[▶]を押すことで、ソングデータ修正を実行します。	ソングによる	—
実行		—		—	
ボイス変更 (64ページ参照)	トラック	現在選択されているMIDIソングのボイスを、トラックごとに現在選択されているボイスに変更し、ソングデータとして修正する機能です。 「実行」にカーソルを合わせて[▶]を押すことで、ソングデータ修正を実行します。	トラック1	トラック1~トラック16	
	実行		—	—	
その他*	クイックプレイ	—	現在選択されているMIDIソングの冒頭部に無音部分がある場合、クイックプレイをオンに設定することで、音のあるところからすぐに再生開始させることができます。アウフタクト(弱起 = 小節の途中拍から曲が始まること)のMIDIソングを再生する場合に便利な設定です。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
	トラック試聴	トラック	トラック別の中身を確認するために、1トラックだけを選んで再生できます。実際の音が鳴るところからすぐに再生されます。トラック選択後に、「スタート」にカーソルを合わせた状態で[▶]ボタンを押している間だけ、選択したトラックが再生されます。	トラック1	トラック1~トラック16
		スタート		—	—
再生トラック	—	この楽器で再生するトラックを設定できます。「1&2」ではトラック1と2だけが再生され、3から16トラックはMIDI送信されます。「すべて」では、トラック1から16すべてが再生されます。	すべて	すべて、1&2	

NOTE

ソングの再生テンポの変更は、[TEMPO]ボタンを押して呼び出される画面で設定できます。設定方法については、47ページをご覧ください。

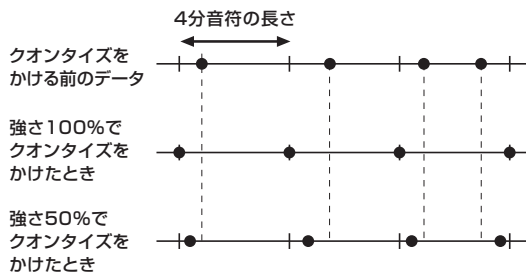
■ クオンタイズ補足説明

クオンタイズ設定範囲

1/4.....		4分音符
1/6.....		3連4分音符
1/8.....		8分音符
1/12.....		3連8分音符
1/16.....		16分音符
1/24.....		3連16分音符
1/32.....		32分音符
1/8+1/12.....		8分音符+3連8分音符*
1/16+1/12...		16分音符+3連8分音符*
1/16+1/24...		16分音符+3連16分音符*


*マークが付いた設定は、同時に異なる2つの音符のタイミングにクオンタイズできます。たとえば、8分音符と3連8分音符の両方のタイミングに録音されているトラックに「8分音符」を選択すると、そのトラックの全音符が8分音符でクオンタイズされてしまい、3連8分音符のタイミングの音がなくなってしまいます。しかし、「8分音符+3連8分音符」に設定すれば、8分音符と3連符の両方のタイミングの音をクオンタイズできます。

強さによる修正データの違い









メトロノーム/リズムメニュー

メトロノーム/リズムメニューでは、メトロノームまたはリズムの音量/テンポ表示のしかたやメトロノームの拍子やベル音、リズムの再生方法に関する設定ができます。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「メトロノーム/リズムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]ボタンで項目を選択します。					
 [▶] [◀] [◀]	 [▶] [◀] [◀]	 [▶] [◀] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
拍子	(設定画面)	—	メトロノームの拍子を設定します。MIDIソングを選んだり、再生したりすると、選んだソングの拍子に自動的に変わります。	4/4	2/2、3/2、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、3/8、6/8、7/8、9/8、12/8
音量	(設定画面)	—	メトロノーム/リズムの音量を設定します。これにより、鍵盤演奏の音量とバランスをとります。	82	0~127
BPM	—	—	画面上のテンポ表示の基準音価を、メトロノームの拍子設定(42ページ)に連動させるか、拍子設定に関係なく4分音符基準にするかを設定します。「拍子に連動」を選択した場合、拍子設定の分母値が基準音価になります。(ただし、拍子が「6/8」「9/8」「12/8」に限り、符点4分音符が基準音価になります。)	拍子に連動	拍子に連動、4分音符
ベル	—	—	設定された拍子(42ページ)の1拍目で、メトロノームのベル音を鳴らすか鳴らさないかを設定します。	Off (オフ)	On (オン)、Off (オフ)
イントロ	—	—	リズム再生開始時にイントロを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。 NOTE イントロをオンに設定した場合でも、ソング再生中にリズム再生を開始した場合は、イントロは再生されません。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
エンディング	—	—	リズム再生終了時にエンディングを再生する(オン)か、しない(オフ)かを設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
シンクロ再生	—	—	鍵盤を弾くと同時にリズムをスタートさせる(オン)か、させない(オフ)かを設定します。 この機能を使うには、以下の操作を行ってください。 1. この機能をオンにする。 2. [RHYTHM] ボタンを押してシンクロスタート待機状態に入る。 [RHYTHM]ボタンが点滅する。 3. 鍵盤を弾いて、リズムをスタートさせる。	Off (オフ)	On (オン)、Off (オフ)
ベース	—	—	リズムにベースの自動伴奏を付けるかどうかを設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

録音メニュー

録音メニューでは、MIDI録音(54ページ)の詳細な条件を設定します。ここでの設定はMIDI録音に対してのみ有効で、オーディオ録音には効果しません。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「録音メニュー」を選択し、[▲]/[▼]ボタンで項目を選択します。					
 	 	 	説明	初期設定	設定範囲
録音開始	—	—	録音したMIDIソングへの上書き録音時のための設定です。MIDI録音開始の操作後に実際に録音が始まるタイミングを指定します。詳しくは61ページをご覧ください。	標準	標準、押鍵
録音終了	—	—	録音したMIDIソングへの上書き録音時のための設定です。MIDI録音終了の操作後に、終了したタイミング以降のソングデータを消す(差し替え)か残す(パンチアウト)かを設定します。詳しくは61ページをご覧ください。	差し替え	差し替え、パンチアウト
リズム録音	—	—	リズム再生をMIDI録音する(オン)/しない(オフ)を設定します。オンにした場合は、トラック9~10に演奏が録音されます。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

システムメニュー

システムメニューでは、楽器全体にかかわる設定を行います。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
Bluetooth (78~79 ページ参照)	Bluetooth	(設定画面)	Bluetooth機能のオン/オフを設定します。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	ペアリング	(設定画面)	Bluetooth機器の登録(ペアリング)を行います。この項目は、Bluetooth機能がオンの場合のみ表示されます。	—	—
チューニング	音の高さ (マスター チューニング) (35ページ参照)	(設定画面)	楽器全体の音の高さを微調整します。ほかの楽器との合奏やCDの再生に合わせて演奏するときなどに、それらのピッチ(音の高さ)と楽器本体のピッチを正確に合わせたい場合に使います。	A3 = 440.0Hz	A3 = 414.8Hz~ 466.8Hz (約0.2Hz単位)
	音律	(設定画面)	現代のピアノはほとんどの場合、「平均律」と呼ばれる1オクターブを12等分した音律で調律(チューニング)されています。デジタルピアノでも初期設定は「平均律」ですが、16~19世紀に使われていた音律をワンタッチで呼び出し、当時の音律で演奏することも可能です。	平均律	下記「音律リスト」を参照
	基音	(設定画面)	上記で選択した音律の基音(演奏する曲の調の主音)を設定します。上記で「平均律」以外を選んだときは、基音の設定が必要です。 NOTE 音律で「平均律」を選んでいる場合は、「---」表示となり、値の変更はできません。	C	C、C#、D、 Eb、E、F、 F#、G、A♭、 A、B♭、B
鍵盤	タッチ (36ページ参照)	(設定画面)	鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を選びます。	ミディアム	ソフト2、 ソフト1、 ミディアム、 ハード1、 ハード2、 固定
	ペロシティ	(設定画面)	タッチを「固定」にした場合のペロシティ値(音量)を設定します。 NOTE ここでの設定は、MIDI録音されたりMIDI出力されたりしません。	64	1~127
	デュオ (32ページ参照)	(設定画面)	鍵盤を2つの領域に分けて、同じ音域でデュオ演奏ができるよう設定します(32ページ)。	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)

音律リスト

平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律。現在もっともポピュラーなピアノの調律法。
純正律「長調」/「短調」	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特徴。現在でも合唱のハーモニーなどで見られる。
ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律。3度はうなりが生じるが4度と5度の音程が美しく、旋律の演奏に向いている。
中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用した。
ヴェルクマイスター /キルンベルガー	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なる。転調により曲想が変化するのが特徴。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブシコード (= チェンバロ)などで演奏するときしばしば用いられる。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
鍵盤	デュオタイプ	—	デュオのとき、左右のスピーカーから鳴らす音のバランスを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> セバレート: 鍵盤の左側領域の音を左奏者側のスピーカーから、右側領域の音を右奏者側のスピーカーから鳴らします。 バランス: 両奏者の演奏音を両方のスピーカーから自然なバランスで鳴らします。 	セバレート	セバレート、バランス
	スプリットポイント (30ページ参照)	(設定画面)	スプリットやデュオをオンにしたときのスプリットポイント(鍵盤の右手領域と左手領域の境め)を設定します。	F#2 (スプリット)、E3 (デュオ)	A-1~C7
ペダル	ハーフペダルの位置 (15ページ参照)	(設定画面)	ペダル機能が「サステイン連続」に設定されている場合のみ有効な項目で、別売のペダルユニットの右ペダルまたは[AUX PEDAL]端子に接続したペダル(ハーフペダル対応)を、どのくらい踏み込めば「サステイン連続」(17ページ)の効果が効き始めるのかを設定します。	0	-2 (浅い位置で効く)~0 ~+4 (深い位置で効く)
	ソフトペダルの深さ	(設定画面)	機能として「ソフト」(17ページ)が割り当てられたペダルにつき、そのかかり具合を設定します。	5	1~10
	ピッチバンドの範囲	(設定画面)	機能として「バンドアップ」または「バンドダウン」(17ページ)が割り当てられたペダルにつき、ピッチ(音の高さ)を連続的に変化させる幅を、半音単位で設定します。 NOTE 一部のボイスでは、ピッチバンドの範囲の設定どおりに音の高さが変化しない場合があります。	2	0~+12 (ペダルを踏むと12半音<1オクターブ>上がる/下がる)
	Auxペダル (15ページ参照)	—	[AUX PEDAL]端子にペダルを接続した場合、ペダルの機種によつては、踏んだときの効果(オン/オフや強弱など)が逆になる場合があります。そのような場合に切り替えてください。	メイク	メイク、ブレイク
	Auxペダル - 機能	(設定画面)	[AUX PEDAL]端子に接続したペダルの機能を設定します。	サステイン (連続)	「ペダル機能リスト」を参照(17ページ)
	Auxペダル - 範囲	(設定画面)	[AUX PEDAL]端子に接続したペダルの効果がかかる鍵域を設定します。	全域	全域(全鍵域)、右手(右手鍵域のみ)、左手(左手鍵域のみ)
	再生/一時停止	(設定画面)	パネル上の[PLAY/PAUSE]ボタンの機能をいずれかのペダルに割り当てます。ここで[PLAY/PAUSE]ボタンの機能を割り当てると、ボイスメニューで割り当てられた機能(95ページ)は無効になります。	Off (オフ)	Off (オフ)、左ペダル、中ペダル、Auxペダル
音響	IAC (13ページ参照)	—	IACのオン/オフを設定します。IACについて詳しくは13ページをご覧ください。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)
	IAC の深さ	(設定画面)	IACの効果のかかり具合を設定します。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。	0	-3~+3
	バイノーラル (14ページ参照)	—	ヘッドホン接続時の動作を設定します。オンの場合は、ヘッドホン接続時にバイノーラルサンプリングまたはステレオフォニックオブティマイザーによる臨場感のある音が楽しめます(14ページ)。 NOTE 「スピーカー」の設定(104ページ)がオンのときは、ヘッドホンを接続してもこの機能は常に無効です。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
MIDI	MIDI出力	(設定画面)	楽器本体の鍵盤演奏を、[USB TO HOST]端子およびMIDI [OUT]端子から送信するときのチャンネルを設定します。デュアル/スプリットまたはデュオがオンの場合は以下チャンネルにてMIDI送信されます。 <ul style="list-style-type: none"> 右側の第1ボイスによる演奏 = n (設定値) 左側のボイスによる演奏 = n+1 右側の第2ボイスによる演奏 = n+2 	チャンネル1	チャンネル1 ~チャンネル 16、Off (送 信しない)
	MIDI入力	(設定画面)	MIDI [IN]端子および[USB TO HOST]端子から受信したMIDIメッセージの各チャンネルにつき、楽器本体のどのパートの演奏をコントロールするかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ソング：ソングパートをコントロールします。 鍵盤：メイン、デュアル、スプリット、デュオに関係なく、鍵盤演奏をコントロールします。 R1：右側の第1ボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。 R2：右側の第2ボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。 L：左側のボイスによる鍵盤演奏をコントロールします。 Off (オフ)：受信しません。 	全チャンネル につき、 「ソング」	各チャンネル につき、 <ul style="list-style-type: none"> ソング 鍵盤 R1 R2 L Off (オフ)
	ローカル コントロール	—	通常、鍵盤を弾くと楽器本体の「音源部」から音が鳴ります。この状態を、ローカルコントロール=オンといいます。ローカルコントロールをオフにすると「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても本体から音が出なくなります。ただし、鍵盤演奏の情報はMIDI送信されるので、本体では音を鳴らさずにMIDI接続した外部MIDI音源の音が鳴ります。	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	受信 パラメーター	(設定画面)	外部から受信するMIDIメッセージにつき、その種類ごとに、受信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムエクスクルーシブ	全メッセージ につき「On (オン)」	各メッセージ につき、 <ul style="list-style-type: none"> On (オン) Off (オフ)
	送信 パラメーター	(設定画面)	楽器本体での演奏で発生するMIDIメッセージの種類ごとに、外部に送信する(オン)かしない(オフ)かを設定します。 ■ MIDIメッセージの種類 ノート、コントロールチェンジ、プログラムチェンジ、ピッチベンド、システムリアルタイム、システムエクスクルーシブ	全メッセージ につき「On (オン)」	各メッセージ につき、 <ul style="list-style-type: none"> On (オン) Off (オフ)
	初期設定送信	中止 実行	楽器本体に接続した外部MIDI機器/コンピューターなどへ、ボイス選択などのパネル設定データを送信します。外部MIDI機器やコンピューターにMIDI録音する前にこの機能を実行しておけば、録音データの先頭にパネル設定が記録され、あとで再生するときに録音時のサウンドが正確に再現されます。 ■ 操作 ： 「実行」にカーソルを合わせ、[▶]ボタンを押すと、パネル設定がMIDI送信されます。	—	—
バック アップ	バックアップ 設定	—	本体設定のバックアップやリストア(復元)、初期化を行います。詳しくは、88~89ページをご覧ください。	—	—
	バックアップ	—			
	リストア	—			
	ファクトリー リセット	—			

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリ ティ	スピーカー	(設定画面)	<p>本体スピーカーを鳴らす(オン)/鳴らさない(オフ)を切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準: ヘッドホンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。 On (オン): 常にスピーカーが鳴ります。 Off (オフ): スピーカーは鳴りません。 <p>NOTE この設定がオンのとき、パイノーラル(14ページ)は常に無効です。</p>	標準	標準、 On (オン)、 Off (オフ)
	オーディオ ループバック (77ページ参 照)	—	<p>コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音を、楽器での演奏音と一緒に、コンピューターやスマートデバイスに出力する(オン)/しない(オフ)を設定します。</p>	On (オン)	On (オン)、 Off (オフ)
	オートパワー オフ (13ページ参 照)	(設定画面)	<p>オートパワーオフ機能により電源が自動オフされるまでの時間を設定します。自動的に電源をオフにたくない場合は、「Off (オフ)」を選びます。</p>	30 (分)	Off (オフ)、 5、10、 15、30、 60、120 (分)
	USBプロパ ティ	—	<p>[◀↔▶] (USB TO DEVICE)端子に接続したUSBフラッシュメモリーの空き容量や全体容量を表示します。</p> 	—	—
	USB自動 ロード	—	<p>この項目を「オン」に設定することにより、[◀↔▶] (USB TO DEVICE)端子にUSBフラッシュメモリーを接続したと同時に、USBフラッシュメモリーのルートにある(フォルダーに入っていない)ソングを自動で呼び出せます。</p>	Off (オフ)	On (オン)、 Off (オフ)
	USBフォー マット (初期化) (74ページ参 照)	中止	<p>[◀↔▶] (USB TO DEVICE)端子に接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)します。</p> <p>ご注意 フォーマットを実行すると、USBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、他の記憶装置に保存しておいてください。</p> <p>NOTE USBフラッシュメモリーによっては、[◀↔▶] (USB TO DEVICE)端子に接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示されます。その場合は、フォーマットを実行してください。</p>	—	—
		実行	<p>■ 操作： 「実行」にカーソルを合わせ、[▶]ボタンを押すとフォーマットが開始されます。フォーマットが完了したらメッセージが表示され、数秒後にユーティリティー画面に戻ります。</p> <p>ご注意 「操作を実行しています」の表示中は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを外したりしないでください。データの破損の原因になります。</p>	—	—
	コントラスト	(設定画面)	<p>画面のコントラストを調整します。</p>	0	-5~+5

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。					
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティリ ティー	言語設定	システム	画面の表示言語(=システム)、ソング名の画面表示や入力言語(=ソング)をそれぞれ個別に、日本語または英語に切り替えられます。 ■ 文字一覧: 日本語 0~9 A~Z a~z ア~ン ア~オ ヤ ユ ヨ ツ ° ー 。 「 」 、 ・ ! # \$ % & ' () + , - ; = @ [] ^ _ ` { } ~ . 英語 0~9 A~Z a~z Ä Ë Ì Ö Ü ä ë ì ö ü à è ì ò ù á é í ó ú â ê î ô ú Ñ ñ ß Ç ç ° ì ï ! # \$ % & ' () + , - ; = @ [] ^ _ ` { } ~ .	日本語	日本語、英語
		ソング			
	バージョン	—	この楽器のモデル名とファームウェアのバージョンを表示します。	—	—
	無線LAN 無線LANオ プシオン		別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)を接続すると表示されます。詳しくは106ページをご覧ください。		

無線LANの設定

以下の項目は、楽器の電源を入れたあと、[↔](USB TO DEVICE)端子に別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)が接続されているときに表示されます。設定の手順について詳しくは82ページをご覧ください。

* 無線LANの項目は、無線LANモードの設定がインフラストラクチャーモードか、アクセスポイントモードかで表示が異なります。無線LANモードの設定は、初期設定ではインフラストラクチャーモードです。

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。							
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティ リティー	無線LAN* (インフラ ストラクチャー モード時)	ネット ワーク 選択	(ネットワーク一覧)		一覧から接続先ネットワークを 選ぶことで、ネットワークへ 接続します。	-	-
			その他	SSID	接続先ネットワークのSSIDを 設定します。	-	最大32文字。英数字、記号
				セキュリ ティー	接続先ネットワークのセキュリ ティー種別を設定します。	なし	なし、WEP、 WPA-PSK(TKIP)、 WPA-PSK(AES)、 WPA2-PSK(AES)、 WPA/WPA2 mixed PSK
				パスワード	接続先ネットワークのパスワー ドを設定します。	-	最大64文字。英数字、記号
			接続	「その他」画面で設定した内容 で、ネットワークへ接続します。	-	-	
	詳細	DHCP	無線LANの詳細設定をします。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)		
		IPアドレス	IPアドレス、サブネットマスク、 ゲートウェイ、DNSサーバー 1、DNSサーバー 2は、DHCP がオフのときは設定できません。	0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255		
		サブネットマスク		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255		
		ゲートウェイ	入力画面では、[◀]/[▶]ボタ ンでそれぞれのオクテットを選択 し、[▲]/[▼]ボタンで値を設定 します。入力を確定するときは [MENU]ボタンを押します。	0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255		
		DNSサーバー 1		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255		
		DNSサーバー 2		0.0.0.0	0.0.0.0~255.255.255.255		
		保存	「詳細」画面で設定した内容を、 保存します。 画面の「保存」を反転表示させ、 [▶]ボタンを押すと保存されま す。	-	-		
	無線LAN* (アクセ スポイント モード時)	SSID	アクセスポイントとしてのSSID を設定します。	ap-P-525- [MACアドレ ス下6桁]	最大32文字。英数字、記号		
		セキュリティー	アクセスポイントとしての セキュリティー種別を設定しま す。	WPA2- PSK(AES)	なし、WEP、 WPA-PSK(TKIP)、 WPA-PSK(AES)、 WPA2-PSK(AES)、 WPA/WPA2 mixed PSK		
パスワード		アクセスポイントとしてのパス ワードを設定します。	00000000	最大64文字。英数字、記号			
チャンネル		アクセスポイントとしての チャンネルを設定します。	11	1~13			

各項目の呼び出し方： [MENU]ボタンを何度か押して「システムメニュー」を選択し、[▲]/[▼]/[◀]/[▶]ボタンで項目を選択します。							
[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	[▶] [◀]	説明	初期設定	設定範囲
ユーティ リティー	無線LAN* (アクセス ポイント モード時)	DHCPサーバー		IPアドレスに関連する項目を 設定します。	On (オン)	On (オン)、Off (オフ)	
		IPアドレス			192.168.0. 1	192固定、168固定、0~255.1 ~254	
		サブネットマスク			255.255. 255.0	255.255.0.0、 255.255.128.0、 255.255.192.0、 255.255.224.0、 255.255.240.0、 255.255.248.0、 255.255.252.0、 255.255.254.0、 255.255.255.0	
		保存			—	—	
無線LAN オプション*	無線LAN モード	インフラストラク チャーモード	無線LAN接続に、アクセスポ イントを使うか(インフラストラク チャーモード)使わないか(アク セスポイントモード)を設定しま す。	インフラス トラチャー モード	—		
		アクセスポイント モード			—		
	初期化	中止	無線LANの設定情報の初期化を 行います。 画面の「実行」を反転表示させ、 [▶]ボタンを押すと実行されま す。	中止	—		
		実行			—		
	詳細	ホスト名	ホスト名を設定します。	P-525- [MACアドレ ス下6桁]	最大57文字。半角英数字に加え 「-」と「_」も設定可能。		
		MACアドレス	USB無線LANアダプターの MACアドレスを表示します。	—	—		
		ステータス	ネットワーク機能のエラーコー ドを表示します。	—	—		

ボイス一覧

ボイスグループ	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	VRM	ボイスデモ	ボイス紹介
ピアノ	CFX グランド	○	○	○	○	○	(CFX) ヤマハコンサートグランドピアノCFXの音色です。弱く弾いた音から強く弾いた音までのダイナミックレンジが広く、表情豊かな演奏ができます。あらゆるジャンルの演奏に最適な音色です。 (バイノーラル) ヤマハコンサートグランドピアノCFXをヘッドホン再生に適するようにバイノーラルサンプリング録音した音です。あたかも目の前でグランドピアノが鳴っているかのような臨場感をお楽しみいただけます。「CFX グランド」の音色を選択してヘッドホンを接続したときに自動的に選ばれます。
	ベーゼンドルファー	○	○	○	○	● ⁽¹⁾	ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社のコンサートグランドピアノ、インペリアル音色です。ピアノの大きさを感ぜさせる広がりある音の特徴で、曲の優しさを表現するのに最適です。
	スタジオ グランド	○	○	○	○	○	レコーディングスタジオでよく使われているヤマハグランドピアノC7の音色です。すっきりとした明るい響きが特徴で、ポピュラー系の音楽に合います。
	ブライト グランド	○	○	○	○	-	ブライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に最適です。
	バラード グランド	○	○	○	○	-	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に最適です。
	ウォームグランド	○	○	-	○	-	温かみのあるしっとりとしたピアノの音です。落ち着いた曲に合います。
	ポップ グランド	○	○	○	○	-	すこし明るめなグランドピアノの音です。ポピュラー系の音楽に最適です。
	ジャズ グランド	○	○	-	○	-	個性的なキャラクターを持つピアノ音色です。ジャズ系の音楽に最適です。
	ロック グランド	○	○	○	○	-	明るい響きを持ったピアノの音です。ロック系の音楽に最適です。
	ダンス グランド	○	○	○	○	-	ダンス系音楽でよく使われる明るいピアノ音色です。
	オール スクール ピアノ	○	○	○	○	-	1960年代に流行したポピュラーミュージックでよく使用されていたコンプレッサーが掛かったピアノ音色です。
	ホンキートンク ピアノ	○	○	-	-	-	ホンキートンク風のピアノの音です。グランドピアノと異なったキャラクターをお楽しみください。
エレビ	ステージ エレビ	○	○	○	-	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
	DX エレビ	○	○	-	-	○	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。ポピュラー音楽に最適です。
	ビンテージ エレビ	○	○	○	-	○	ステージ エレビと異なるタイプの電気ピアノの音です。ロック、ポピュラー音楽によく使われています。
	オートパン エレビ	○	○	○	-	-	電気ピアノの独特なパンニング効果を持つ音です。
	ソフト エレビ	○	○	○	-	-	静かなバラードの曲に最適です。
	フェーザー エレビ	○	○	○	-	-	個性的なフェイザー効果で、フュージョン系の音楽にマッチする電気ピアノの音です。
	ダイノ エレビ	○	○	○	-	-	1980年代によく聞かれた、特徴的なアタックを持つ電気ピアノです。
	DX ブライト	○	○	-	-	-	FMシンセサイザーによる電子ピアノのバリエーションの音です。ブライトでキラキラしたキャラクターは、音楽のアクセントを持たせます。
	トレモロ ビンテージ	○	○	○	-	-	ビンテージ エレビに適したトレモロ効果を付加した音です。ロック音楽によく使われます。
オルガン	ジャズ オルガン1	-	-	-	-	○	ジャズやロックなどの音楽でよく用いられるオルガン音色です。ロータリーエフェクトの回転が「遅い状態」でかかっています。 ※別売のペダルユニット(LP1)を接続すると、左ペダルの操作で、エフェクト「ロータリー」の回転の速い/遅いを切り替えられます。
	ジャズ オルガン2	-	-	-	-	-	ジャズやロックなどの音楽でよく用いられるオルガン音色です。少し明るめの音色で、ロータリーエフェクトが「速い状態」でかかっています。 ※別売のペダルユニット(LP1)を接続すると、左ペダルの操作で、エフェクト「ロータリー」の回転の速い/遅いを切り替えられます。

ボイスグループ	ボイス名	ステレオサンプリング	タッチ感度	キーオフサンプリング	VRM	ボイスデモ	ボイス紹介
オルガン	ロック オルガン	—	—	—	—	○	明るくエッジのきいた電気オルガンの音です。ロックに最適です。
	ビンテージ オルガン	—	—	—	—	—	1960年代に販売されたトランジスタオルガンをシミュレートした音色です。
	オルガン プリンシパル	○	○	—	—	● ⁽²⁾	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
	オルガン トットティ	○	○	—	—	○	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
CLV./VIB.	ハーブシコード 8'	○	—	—	—	● ⁽³⁾	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はなく、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	ハーブシコード 8'+4'	○	—	—	—	—	オクターブ上の音がミックスされたハーブシコードの音です。より華やかさが感じられます。
	クラビコード	—	○	—	—	○	電磁ピックアップの付いた鍵盤式打弦楽器です。ファンキーなサウンドはブラックコンテンポラリー音楽などでおなじみです。その構造から、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
	ビブラフォン	○	○	—	—	○	ステレオサンプリングされたビブラフォンの音です。広がりがあり、澄んだ音はポピュラー音楽に最適です。
ストリングス	ストリングス	○	○	—	—	○	ステレオサンプリングでリアルな立ち上がりや響きかする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
	スロー ストリングス	○	○	—	—	—	立ち上がりの緩やかな弦楽アンサンブルの音です。ピアノやエレピとのデュアルに向いています。
	クワイア	—	○	—	—	○	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
	スロー クワイア	—	○	—	—	—	立ち上がりの緩やかな合唱の音です。ピアノやエレピとのデュアルに向いています。
	ダーク パッド	—	○	—	—	○	温かく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノやエレピなどとのデュアルに最適です。
	ライト パッド	—	○	—	—	—	明るく広がりのあるシンセ音色です。アンサンブルのバックの通奏音や、ピアノやエレピなどとのデュアルに最適です。
	ベル パッド	○	○	—	—	—	ベルの音が特徴的なシンセ音色です。単体で弾いても、ピアノやエレピとのデュアルで弾いても、明るく、きらびやかな雰囲気が出せます。
その他	アコースティックベース	—	○	—	—	○	アコースティックベースを指で弾く奏法の音です。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
	エレクトリックベース	—	○	—	—	○	エレクトリックベースの音です。ジャズやロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。
	ベース & シンバル	—	○	—	—	—	アコースティックベースにシンバルの音を重ねてあります。ジャズのウォーキングベースに用いると効果的です。
	フレットレス ベース	—	○	—	—	○	フレットのないエレクトリックベースの音です。ジャズやフュージョンなどの音楽に向いています。
	ナイロン ギター	○	○	—	—	○	ステレオサンプリングによる臨場感あるナイロン弦ギターの音です。ナチュラルな響きのあるこの音は、あらゆるジャンルに合います。
	スチール ギター	—	○	—	—	—	明るく華やかなスチール弦ギターの音です。ポピュラー音楽に最適です。
XG	XG	—	○	—	—	○	XGボイスについては、ヤマハウェブサイト(本書2ページ)上のデータリストの「XGボイス一覧」をご覧ください。

VRMとは

ダンパーペダルを踏んだときや鍵盤を押さえたときの弦の共鳴音を物理モデルによりシミュレーションしたものです。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

デモ曲(ボイスデモ)リスト

	ボイスグループ	ボイス名	曲名	作曲者
● ⁽¹⁾	ピアノ	ベーゼンドルファー	乙女の願い (6つのポーランドの歌)	F. リスト / F. F. ショパン
● ⁽²⁾	オルガン	オルガン プリンシパル	オルガン小曲集「神のひとり子なる主キリスト」BWV 601	J. S. バッハ
● ⁽³⁾	CLV./VIB.	ハーブシコード 8'	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV 1058	J. S. バッハ

これらのボイスのデモ曲は、既存の曲を編集/抜粋したものです。その他のボイスのデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。(© Yamaha Corporation)

ソング一覧

クラシック50選

No.	曲名	作曲者
アレンジ曲		
1	カノン	J. バッヘルベル
2	G線上のアリア	J. S. バッハ
3	主よ、人の望みの喜びよ	J. S. バッハ
4	きらきら星	トラディショナル
5	ピアノソナタ 第17番「テンペスト」 第3楽章	L. v. ベートーヴェン
6	歓喜の歌	L. v. ベートーヴェン
7	子守唄	F. P. シューベルト
8	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
9	英雄ポロネーズ	F. F. ショパン
10	ラ・カンパネラ	F. リスト
11	愛のあいさつ	E. エルガー
12	家路	A. ドヴォルザーク
13	シシリエンヌ	G. U. フォーレ
14	月の光	C. A. ドビュッシー
15	木星(組曲「惑星」)	G. ホルスト
連弾曲*		
16	メヌエット (アイネ・クライネ・ナハトムジーク)	W. A. モーツァルト
17	メヌエット 長調	L. v. ベートーヴェン
18	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
19	ピアノ協奏曲 第1番 第2楽章	F. F. ショパン
20	くるみ割り人形メドレー	P. I. チャイコフスキー
原曲		
21	前奏曲(平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
22	メヌエット 長調	J. S. バッハ
23	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
24	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
25	ピアノソナタ 第8番「悲愴」第2楽章	L. v. ベートーヴェン
26	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
27	ピアノソナタ 第14番「月光」第1楽章	L. v. ベートーヴェン
28	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
29	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
30	幻想即興曲	F. F. ショパン
31	別れの曲	F. F. ショパン
32	革命のエチュード	F. F. ショパン
33	小犬のワルツ	F. F. ショパン
34	ノクターン 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
35	ノクターン 第20番 嬰ハ短調 [遺作]	F. F. ショパン
36	トロイメライ	R. シューマン
37	舟歌	P. I. チャイコフスキー
38	乙女の祈り	T. パダジェフスカ
39	愛の夢 第3番	F. リスト
40	花の歌	G. ラング
41	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
42	アリエッタ	E. H. グリーク
43	タンゴ(スペインより)	I. アルベニス
44	エンターテイナー	S. ジョプリン
45	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョプリン
46	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
47	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
48	ケークウォーク	C. A. ドビュッシー
49	ジュ・トゥ・ヴ	E. サティ
50	ジムノペディ 第1番	E. サティ

* 連弾曲では、右手パートが第1奏者右手用、左手パートが第1奏者左手用、その他パートが第2奏者用です。

リズム一覧

カテゴリー	No.	リズム名
ポップ&ロック	1	8ビート1
	2	8ビート2
	3	8ビート3
	4	16ビート1
	5	16ビート2
	6	シャッフル1
	7	シャッフル2
	8	シャッフル3
	9	シャッフル4
	10	8ビートバラード1
	11	8ビートバラード2
	12	16ビートバラード
	13	6-8バラード1
	14	6-8バラード2
	15	ポップワルツ
	16	ファンク
	17	ディスコ
	18	ツイスト
	19	ダンス
	20	チルアウト
ジャズ	21	ファストジャズ1
	22	ファストジャズ2
	23	ファストジャズ3
	24	スロージャズ1
	25	スロージャズ2
	26	スロージャズ3
	27	ジャズワルツ
	28	5ビートジャズ
ワールド	29	カントリー
	30	ゴスペル
	31	サンバ
	32	ボサノバ
	33	ルンバ
	34	サルサ
	35	アフロキューバン
	36	レゲエ
キッズ&ホリデイ	37	キッズポップ
	38	6-8マーチ
	39	クリスマススイング
	40	クリスマス3-4

メッセージ一覧

メッセージが表示されたままの場合は、[EXIT]ボタンを押すと消えます。

メッセージ	内容
オーディオソングへの変換や、再生 / 録音に失敗しました	録音や削除をくり返し行ったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合に、表示されず。USBフラッシュメモリーに必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(104ページ)、操作をし直してください。
オーディオに変換します	オーディオ変換中に表示されます。
オーディオへの変換を中止しました	オーディオ変換が中止されました。
お待ちください	データを処理していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
書き込みできないUSBメモリーです	ライトプロテクト機能の付いたUSBフラッシュメモリーに、ファイル操作(65ページ)、録音、保存などをしようとしています。USBフラッシュメモリーを書き込み可にして操作し直してください。書き込みを可にしてもこのメッセージが表示される場合は、USBフラッシュメモリーに内部的なプロテクトがかかっている可能性があります。その場合は、書き込みできません。
楽器を初期化しています 「ユーザー」内のソングは消去されません	初期設定に戻していることをお知らせしています。楽器の「ユーザー」内のソングは消去されません。
楽器を初期化しています 「ユーザー」内のソングも消去されます	オールメモリクリア(89ページ)の操作を行った場合に表示されます。この楽器のすべての設定が初期化され、楽器の「ユーザー」(45ページ)内のソングやレジストレーションメモリー(71ページ)も消去されます。
現在のテンポに変更します	ソングのテンポを書き換えようとしています。
現在のボイスに変更します	ソングの音色を書き換えようとしています。
サポートされていないUSB機器が接続されています	動作確認済みのUSB機器をお使いください(74ページ)。
接続したUSB機器と通信できません	USB機器を接続し直してください(74ページ)。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
接続したUSB機器の消費電力が規定値を超えました	お使いのUSB機器の消費電力が規定値を超えました。動作確認済みのUSB機器をお使いください(74ページ)。
接続したUSB機器の数が、この楽器での制限を超えました	接続できるUSB機器は1台のみです。詳しくは、74ページを参照してください。
選択したUSBメモリーへの、ファイル操作はできません	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーです。フォーマット(104ページ)してから操作してください。 ファイル数が保存できる数の制限を超えました。楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動してから、保存してください。
前回、不正に電源を切ったため、楽器の内部をチェックしています	ソングファイルの操作時(65ページ)や、データのバックアップ中(88ページ)に電源を切り、もう一度電源を入れた場合に表示されます。内部をチェックした結果、楽器の設定が破損している場合は、初期設定に戻ります。楽器の「ユーザー」内の曲(ソング)が破損している場合は、削除されます。
操作を完了しました	操作の完了を知らせています。「操作を実行しています」メッセージに続いて表示されます。このメッセージが表示されたあと、次の操作へ進めます。
操作を実行しています	操作を実行していますので、このメッセージが表示されている間はほかの操作ができません。しばらくお待ちください。
操作を実行できません	内蔵曲やオーディオソングではできないファイル操作です。操作の制限を65ページで確認してください。

メッセージ	内容
操作/録音先の容量やファイル数がいっぱいです	楽器の「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の容量やファイル数がいっぱい、操作/録音ができません。「ユーザー」内やUSBフラッシュメモリー内の曲(ソング)を削除するか、別のUSBフラッシュメモリーに移動してから(67~68ページ)、改めて操作/録音してください。
ソングデータに不具合が発見されました	ソングの選択時や再生中に、ソングデータに不具合が発見されたことを知らせています。もう一度ソングを選択し、再生してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、ソングデータが壊れている可能性があります。
ソング(MIDI/オーディオ)データのサイズが制限を超えています	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> 再生しようと選択したソングのサイズが制限を超えています。 サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。 録音中に、ソングのサイズが制限を超えました。 サイズの制限は、MIDI: 約500KB、オーディオ: 80分までです。 そこで自動的に録音が終了されます。そこまで録音したデータは保存されます。 MIDI → オーディオソングの変換中に、ソングのサイズが制限を超えました。
ソング名が不適切です	ソング名の変更(70ページ)の際、以下の原因で表示されます。名前を付け直してください。 <ul style="list-style-type: none"> 入力文字がありません。 ソング名の先頭/後尾にピリオドやスペースが入っています。
対応していないデータフォーマットです	読み込もうとしたソングが、この楽器では対応していないフォーマットです。44ページで対応のソングフォーマットを確認してください。
同名ファイルが存在します	ソングファイルの操作時(65ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。上書きする場合は「上書き」、キャンセルする場合は「中止」を[▲]/[▼]ボタンで選び、[▶]ボタンを押します。
バックアップデータの復元が完了しました 楽器を再起動します	リストア(89ページ)が完了したことを知らせています。このメッセージのあと、楽器は再起動されます。
ファイルアクセスに失敗しました	以下の原因が考えられます。以下に該当しない場合は、操作しようとしているファイルが壊れていることが考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの操作方法が間違っています。「ソングファイルを操作する」(65ページ)や「バックアップ(88ページ)」、「リストア(89ページ)」で操作方法をご確認ください。 接続中のUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使用できません。使用できるUSBフラッシュメモリーについては、74ページをご確認ください。 操作しようとしているプロテクトのかかったソングに不備があります。
ファイル数、またはファイルパス長が上限を超えています	楽器の「ユーザー」やUSBフラッシュメモリーに保存できるファイル数は、1フォルダーに、ファイルとフォルダーを併せて250までです。その制限を超えて保存しようとしたため、表示されました。不要なファイルを削除/移動して、保存し直してください。
ファイル名が重複しています	ソングファイルの操作時(65ページ)、同名のファイルが存在することを知らせています。ファイル名を変更してください(70ページ)。
フォーマットされていないUSBメモリーです	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーを使おうとしたため、表示されました。フォーマット(104ページ)してから操作してください。
読み取り専用のファイルです	録音の編集には使えません。読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
Bluetoothのペアリング中です	Bluetoothのペアリング待機状態です。78ページの説明をご覧ください。
USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました	USB機器を[↔](USB TO DEVICE)端子から抜き、楽器の電源を入れ直してください。
USBハブが2階層以上になって接続されました	USBハブは使用できません。
USBメモリーが楽器本体から外されました	USBフラッシュメモリーが外されたことを知らせています。
USBメモリーが接続されていません	USBフラッシュメモリーを接続し、操作をし直してください。
USB/USER FILES/に移動しました	「ユーザー」内のソングファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへ移動したことを知らせています。

メッセージ	内容
USB/USER FILES/にオーディオ変換しました	MIDIソングを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへオーディオ変換したことを知らせています。
USB/USER FILES/にコピーしました	「ユーザー」内のソングファイルを、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーへコピーしたことを知らせています。
「ユーザー」内に移動しました	USBフラッシュメモリーのソングを、楽器の「ユーザー」へ移動したことを知らせています。
「ユーザー」内にコピーしました	USBフラッシュメモリーのソングを、楽器の「ユーザー」へコピーしたことを知らせています。
「ユーザー」内/USBメモリーの残り容量が少なくなりました	楽器の「ユーザー」内や USBフラッシュメモリー内の不要なファイルを削除(67ページ)してから、録音を始めてください。
この楽器に異常が発生しました	巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(111ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源アダプターは正しく接続されていますか。電源アダプターを本体とコンセントに確実に差し込んでください(12ページ)。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。オートパワーオフの設定を変更してください(104ページ)。
画面に「USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました」と表示される。また、USB機器が動作しない。	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器を [↔] (USB TO DEVICE) 端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
楽器本体から雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。楽器の近くに携帯電話を置かないでください。
スマートデバイスと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため機内モードをオンしてお使いいただくことをおすすめします。楽器と無線で接続するときは、スマートデバイスのWi-FiやBluetoothの設定がオンになっていることを確認してください。
全体的に音が小さい。または、まったく音が出ない。	音量が下がっています。[VOLUME]スライダーで音量を上げてください(13ページ)。 鍵盤演奏音の音量が下がっています。ソングメニュー画面の「音量」→「ソング - 鍵盤」で調節してください(52ページ)。 スピーカーの設定が「標準」で(104ページ)、ヘッドホンを接続しているとスピーカーからは音が出ません。ヘッドホンのプラグを抜いてください。変換プラグを使っている場合は変換プラグも抜いてください。 スピーカーの設定が「Off (オフ)」になっています。スピーカーの設定を「標準」または「On (オン)」にしてください。システムメニュー → 「ユーティリティ」 → 「スピーカー」(104ページ)で設定します。 ローカルコントロールが「Off (オフ)」になっています。ローカルコントロールを「On (オン)」にしてください。システムメニュー → 「MIDI」 → 「ローカルコントロール」(103ページ)で設定します。
ヘッドホンを[PHONES]端子に差ししてもスピーカーから音が出る。	スピーカーの設定が「On (オン)」になっています。スピーカーの設定を「標準」にしてください。システムメニュー → 「ユーティリティ」 → 「スピーカー」(104ページ)で設定します。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL UNIT]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグの金属部分が見えなくなるまで、[PEDAL UNIT]端子に確実に差し込んでください。
[AUX PEDAL]端子に接続したペダルのオン/オフ(強/弱)が逆になる	接続するペダルの種類によって、オン/オフや強/弱の動作が逆になる場合があります。システムメニュー画面の「ペダル」 → 「Auxペダル」で設定を切り替えてください。
鍵盤で弾く音がソングの再生音に比べて小さい。	鍵盤演奏音の音量が下がっています。ソングメニュー画面の「音量」 → 「ソング - 鍵盤」で調節してください。
ボタンを押しても動作しない。	ほかの機能の動作中にはできない操作がいくつかあります。ソングの再生中はソングの再生を止めて、その他の場合は[EXIT]ボタンを押してボイス画面やソング画面に戻ってから操作してください。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
トランスポーズやオクターブを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	トランスポーズやオクターブを設定したときに、発音できる音域はC -2~G8です。C -2より低くなる音は1オクターブ上の音で、G8より高くなる音は1オクターブ下の音で鳴ります。

現象	原因と解決法
デュアル/スプリット/デュオで録音したはずの音が録音されていない。または録音済みのトラックのデータが消えてしまった。	曲の途中でのデュアル/スプリット/デュオへの切り替えは録音されません。また、デュアルの第2ボイス、スプリット/デュオの左側のボイスには、自動的に録音先のトラックが割り当てられます(57ページ)。そのため、それらのトラックに既存のデータがあった場合は、上書きされて消えてしまいます。
デュオのとき、音が片方のスピーカーからしか聞こえない。	ボイスにより、パンの設定が違うためです。システムメニュー画面で「デュオタイプ」(102ページ)を「セバレット」から「バランス」に変更するか、ボイスメニュー画面で音色(ボイス)の「パン」(94ページ)を調節してください。
ソング名表示がおかしい。	名前を付けたときと異なる言語表示に設定されていたり、ほかの楽器で録音した曲の場合は、正しく表示されないことがあります。システムメニュー画面の「ユーティリティ」→「言語設定」→「ソング」(105ページ)で、設定を切り替えてください。ただし、ほかの楽器で録音した曲の場合は、言語表示を切り替えても正しく表示されないことがあります。
メニュー画面が表示されない。	ソング再生中は、ボイスメニュー、ソングメニュー以外のメニュー画面は表示されません。[PLAY/PAUSE]ボタンを押してソングをストップしてください。また録音モード時は、録音メニュー画面しか表示されません。
リズムがスタートしない。	シンクロ再生が「On (オン)」になっています。メトロノーム/リズムメニュー画面のシンクロ再生の設定を「Off (オフ)」にしてください(99ページ)。
鍵盤を弾くと、再生中のメトロノーム、MIDIソング、リズムのテンポがわずかに乱れる。	グランド・エクスプレッション・モデリングが「ダイナミック」の場合に、ごくまれに起きる現象です。このような場合には、「スタティック」に変更してください(25ページ)。
USB無線LANアダプターが接続されているにもかかわらず、画面に無線LANの項目が表示されない。	USB無線LANアダプターを接続し直してください。
Bluetooth対応のスマートデバイスがペアリングまたは接続できない。	スマートデバイスのBluetooth機能が有効か確認してください。Bluetoothでペアリングまたは接続するには、この楽器とスマートデバイス両方のBluetooth機能を有効にする必要があります。 Bluetoothで接続してスマートデバイスのオーディオ再生音を楽器のスピーカーで再生するには、はじめに機器同士をペアリングする必要があります(78ページ)。 2.4 GHz帯の電磁波を発するもの(電子レンジ、無線LAN機器など)が近くにある場合は、電磁波を発するものからこの楽器を離してください。

下記ウェブサイトの「よくあるお問い合わせ(Q&A)」もご確認ください。



<https://manual.yamaha.com/mi/kb-ekb/p525/faq/>

それでも解決しない場合は、「電子ピアノ・キーボードご相談窓口」(裏表紙)へお問い合わせください。

仕様

品名		電子ピアノ
サイズ/質量		
寸法	幅×高さ×奥行	1,336 mm × 145 mm × 376 mm
質量		22.0 kg
操作子		
鍵盤	鍵盤数	88
	鍵盤種	グランドタッチ-エス™鍵盤 木製（白鍵）、象牙調・黒檀調仕上げ、エスケープメント付き
	タッチ感度	ハード2、ハード1、ミディアム、ソフト1、ソフト2、固定
ペダル	ペダル数	3（ペダルユニットLP-1/FC35使用時）
	割り当て可能な機能	サステイン(スイッチ)、サステイン(連続)、ソステヌート、ソフト、ピッチベンドアップ、ピッチベンドダウン、ロータリースピード、パイプローター、ソングスタート/一時停止
ディスプレイ	タイプ	フルドット LCD
	サイズ	198 × 100 ドット
	言語	日本語、英語
パネル	言語	英語
音源/ボイス		
音源	ピアノ音	ヤマハ CFX、ベーゼンドルファー インベリアル
	バイノーラルサンプリング	○（「CFXグランド」のみ）
	VRM	○
	グランド・エクスプレッション・モデリング	○
最大同時発音数		256
プリセット	ボイス数	44 + 18ドラム/SFXキット + 480 XGボイス
対応フォーマット		XG (GM)、GS (再生専用)、GM2 (再生専用)
効果		
タイプ	リバーブ	7種類
	コーラス	3種類
	マスターEQ	3プリセット + 1ユーザー
	インサージョンエフェクト	12種類
	インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	○
	ステレオフォニック オブティマイザー	○
	サウンドブースト	3種類
ファンクション	デュアル	○
	スプリット	○
	デュオ	○
録音/再生		
プリセット	内蔵曲数	ボイスデモ 21 + クラシック曲 50
MIDI録音	曲数	250
	トラック数	16
	データ容量	1曲 約500 KB
オーディオ録音 (USBメモリー)	録音時間(最大)	80分/曲
対応フォーマット	再生	SMF (フォーマット 0、フォーマット 1)、WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)
	録音	SMF (フォーマット 0)、WAV (44.1 kHz、16 bit、ステレオ)

ファンクション		
ピアノルーム		○
リズム	リズム数	40
レジストレーションメモリー	ボタン数	6 (×4バンク)
全体設定	メトロノーム	○
	テンポ	5~500
	トランスポーズ	-12~0~+12
	チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz (約0.2 Hz単位)
	スケール(音律)	7種類
	USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、24 bit、ステレオ
Bluetooth接続	オーディオ	対応プロファイル: A2DP、対応コーデック: SBC
	MIDI	Bluetooth Low Energy MIDI Specificationに準拠
	Bluetoothバージョン	5.0
	無線出力	Bluetooth Class 2
	最大通信距離	約10 m
	無線周波数	2,401 ~ 2,481 MHz
	最大出力電力	4 dBm
	変調方式	GFSK
メモリー / 接続端子		
メモリー	内蔵メモリー	約1.4 MB
	外付けメモリー	USBフラッシュメモリー
接続端子	ヘッドホン	ステレオ標準フォーン端子 (×2)
	MIDI	IN、OUT
	AUX IN	ステレオミニ端子
	AUX OUT	標準フォーン端子(L/L+R、R)
	AUX PEDAL	○
	USB TO DEVICE	タイプA端子
	USB TO HOST	タイプC端子
	DC IN	16 V
	PEDAL UNIT	○
音響		
アンプ出力	(20 W + 6 W) × 2	
スピーカー	(楕円 (12 cm × 6 cm) + 2.5 cm (ドーム式)) × 2	
電源部		
電源アダプター	PA-300C (出力: DC 16 V、2.4 A)	
消費電力	18 W (電源アダプター PA-300C使用時)	
付属品	<ul style="list-style-type: none"> • 取扱説明書 • クラシック名曲50選(楽譜集) • 保証書 • 製品登録のご案内 • 譜面立て • フットペダル: FC3A • 電源コード、電源アダプター: PA-300C 	
別売品	<ul style="list-style-type: none"> • キーボードスタンド: L-515 • ペダルユニット: LP-1、FC35 • ヘッドホン: HPH-150、HPH-100、HPH-50 • フットスイッチ: FC4A、FC5 • フットペダル: FC3A • 電源アダプター: PA-300C • 無線LANアダプター: UD-WL01 	

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

別売ミュージックデータ紹介

ミュージックデータをご使用の際は、下記ウェブサイト以案内している動作確認済みのUSBフラッシュメモリをお使いください。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

* 「資料/データ」からモデル名で検索してください。

■ ヤマハミュージックデータショップ

MIDI形式の曲データ、および楽譜データなどのミュージックデータを、インターネットで購入できるサービスです。J-POPからジャズ、クラシックまで幅広いラインナップをとりそろえており、試聴しながら1曲ずつ簡単に購入できます。

下記のURLからアクセスしてください。

<https://yamahamusicdata.jp/>

「ピアノ演奏用」データ

右手、左手パートなど個別再生して練習したり、お好みのテンポに調整して演奏したりすることができます。また、「ピアノ演奏用伴奏付」データをご利用いただければ、豪華な伴奏をバックに演奏を楽しむこともできます。

「リスニングピアノソロ」データ

好きな曲の鑑賞やBGM再生を楽しめます。弾き方やアレンジの参考としても活用できます。

■ Mumaソフト

Muma (ミューマ)とは、ヤマハのお店にあるミュージックデータ販売システムです。好きなミュージックデータを選び、その場でUSBフラッシュメモリに収録できます。

* USBフラッシュメモリはご持参ください。購入前には試聴も可能です。

ミュージックデータの詳細やMuma設置店については、下記URLをご覧ください。

<http://www.ymm.co.jp/muma/>

ヤマハのミュージックデータのほかに、3ページで説明したフォーマットに該当する、市販の多くのソフトがご利用いただけます。

NOTE

Mumaとヤマハミュージックデータショップで購入できるミュージックデータは、異なります。

索引

A

ABリピート	50
AUX IN	75
AUX OUT	75

B

Bluetooth	78, 81
-----------	--------

I

IAC	13
-----	----

M

MIDI	87, 103
MIDIソング	44
MIDI録音	54

R

Rec'n'Share	86
-------------	----

U

USBオーディオインターフェース	77
USB機器	74
USBフラッシュメモリー	74

V

VRM	24, 25
-----	--------

W

Wi-Fi	82
WPS	83

X

XGボイス	21
-------	----

ア

アクセスポイントモード	82
アプリ	80
アリコート	25
アリコートレゾナンス	24

イ

移調 → トランスポーズ	34, 53
移動	68
インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)	13
イントロ	43, 99
インフラストラクチャーモード	82

エ

エフェクト	28
エフェクトタイプリスト	28
エンディング	43, 99

オ

オーディオソング	44
オーディオ変換	69
オーディオループバック	77
オーディオ録音	54
オートパワーオフ	13, 104
大屋根の開閉	24
オクターブ	94

音の高さ(マスターチューニング)	24, 35
音響	102
音色 → ボイス	20
音律	101
音量	13
音量(ソング)	96
音量(メトロノーム)	99
音量バランス	52

カ

画面	18
----	----

ク

クラシック50選	110
グランド・エクスペッション・モデリング	25
グランドエクスペッション	25
くり返し再生	49

ケ

言語	105
----	-----

コ

コーラス	27
コーラスタイプリスト	27
コピー	65, 67
困ったときは	114
コンピューター	76

サ

再生(ソング)	45
再生(パート)	48
再生(リズム)	43
サウンドブースト	37
サウンドブーストタイプリスト	37
削除	67

シ

システムメニュー	101
手動接続	84
詳細設定	92
初期化(楽器)	89

ス

ステージ演奏	90
ステレオフォニックオプティマイザー	14
ストリングレゾナンス	24
スピーカー	104
スプリット	30, 31
スプリットポイント	30, 32, 102
スマートデバイス	76
スマートデバイスアプリ	80
スマートピアニスト	80

ソ

ソステヌートペダル	16
ソフトペダル	16
ソング	44, 65
ソング一覧	110
ソングカテゴリーリスト	45
ソングファイル	65

ソング名変更	70
ソングメニュー	96
ソングリピート	51

タ

タッチ	24, 36
タッチ感度リスト	36
ダンパーノイズ	24, 25
ダンパーペダル	16
ダンパーレゾナンス	24

チ

チューニング	24, 35
--------	--------

テ

データリスト	2
デモ曲	22, 109
デモ曲リスト	109
デュアル	29, 31
デュオ	32
デュオタイプ	102
電源	12
テンポ	41
テンポ(ソング)	47
テンポ(リズム)	43

ト

トラック録音	57
トランスポーズ(鍵盤)	34
トランスポーズ(ソング)	53

ネ

ネットワーク	82
--------	----

ハ

バージョン	105
パート(ソング再生)	48
ハーフペダル	15
ハーフペダルの位置	25, 102
バイノーラルサンプリング	14
バックアップ	88
パネルロック	40
早送り	47
早戻し	47

ヒ

ピアノ設定	93
ピアノルーム	23, 24
拍子	42

フ

ファイル操作	65
ファクトリーリセット	89
フットペダル	15
ブライトネス	24

ヘ

ベース	43, 99
ペダル	15
ペダル機能リスト	17
ペダルユニット	16
ヘッドホン	14

ベル	99
編集(ソング)	97
編集(ボイス)	94

ホ

ボイス(音色)	20
ボイスデモ	109
ボイスデモリスト	109
ボイス編集	94
ボイスメニュー	93
ボディレゾナンス	24

マ

マスター EQ	38
マスター EQタイプリスト	38

ム

無線LAN	82, 106
無線LANオプション	107

メ

メッセージ一覧	111
メトロノーム	41
メトロノーム/リズムメニュー	99
メニュー画面	92

ユ

ユーザーマスター EQ	39
-------------	----

リ

リズム	43
リズム一覧	110
リバーブ	24, 26
リバーブタイプリスト	26
リバーブの深さ	24
リピート	96
リピート再生	49

レ

レジストレーションメモリー	71
---------------	----

ロ

ローカルコントロール	103
録音	54
録音メニュー	100

オープンソースソフトウェアのご案内

本製品のファームウェアにはオープンソースソフトウェアが含まれています。

各オープンソースソフトウェアの著作権情報と使用条件は、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。

サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

● 保証書

本製品には保証書が付いています。
「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

有寿命部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打終了後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-012-808

ナビダイヤル® ※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830 へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)
03-5762-2125
西日本 (北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄)
06-6649-9340

● 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
JMT京浜E棟A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011
大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ビル7F
FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆電子ピアノの仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター
電子ピアノ・キーボードご相談窓口



ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-006-808

ナビダイヤル®

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272 へおかけください。

受付： 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ
<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハピアノ・電子ピアノサイト
<https://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハサポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハミュージックデータショップ
<https://yamhamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

© 2023 Yamaha Corporation
2023年11月 発行 MWMA-C1



VHC0480